



科学と吃音コミュニティ：
ことばがつなぐ一つの世界



2018
吃音・クラタリング世界合同会議
広島
7月13-16日



科学と吃音コミュニティ：
ことばがつなぐ一つの世界
広島、2018年7月13～16日

世界合同会議のスケジュールは変更されることがあります。
アプリで新しい情報を更新し、最新のスケジュールを載せていきます。
アプリの詳しい情報は、こちらからご覧ください。
<https://theifa.org/program/congress-app>



ようこそ！

『吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018（大会テーマ：科学と吃音コミュニティ：ことばがつなぐ一つの世界）』は、国際クラタリング学会(ICA)、国際流暢性学会(IFA)、国際吃音者連盟(ISA)、そして開催国として、日本吃音・流暢性障害学会、NPO法人全国言友会連絡協議会の共催による初の世界合同会議です。

今回、日本で実施する世界初の吃音やクラタリングに関する合同会議は、当事者、臨床家、研究者による多様な複数の団体によって組織され、吃音やクラタリングの体験や感覚、態度、認識などを相互に探求し、効果的な連携が実現される、歴史的にも画期的な取り組みとなるでしょう。吃音やクラタリングの当事者が安心でき、新たな仲間に出会うこと、臨床家が自身のスキルを共有し、最新の知見を得ること、吃音やクラタリングとうまく付き合っていくための新たな手法を探している当事者が自身の経験や考えを共有すること、そして、研究者が刺激的な環境の中で優れた研究を発表することができるような機会を提供したいと思っています。

今回の世界合同会議によって得られるかけがえのない恩恵が、吃音やクラタリングの当事者、臨床家、そして研究者に共有されるでしょう。

それでは皆様、広島でぜひお会いしましょう！

世界合同会議 大会長：川合 紀宗

国際流暢性学会：Elaine Kelman

国際クラタリング学会：Charley Adams

国際吃音者連盟：Annie Bradberry

日本吃音・流暢性障害学会：長澤 泰子

NPO法人全国言友会連絡協議会：立川 英雄

目次



会場アクセス・案内図	05
協 賛	07
出展者	09
日 程	10
映画上映	14
基調講演	15
口頭発表	18
金曜・ポスター発表	64
土曜・ポスター発表	87
日曜・ポスター発表	111
月曜・ポスター発表	132
ポストコンGRESセミナー	133
運営委員	134
寄 付	135

本プログラムブックには、6月30日以降の変更は反映されておりませんので、ご注意ください。
最新情報は、学会アプリをご覧ください。



会場：広島国際会議場

広島市中区中島町1-5

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/index.html>

JR広島駅から

路線バス 所要時間:約20分

●南口バスのりばA-3 ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行「平和記念公園」下車すぐ

市内電車 所要時間:約25分

●広島港①行「袋町」下車、徒歩約10分

●西広島②、江波⑥、宮島行「原爆ドーム前」下車、徒歩約10分

広島空港から

リムジンバス 所要時間:約70分

●空港ターミナルビル1階到着フロア1番ホームより、広島バスセンター行終点下車、徒歩約10分

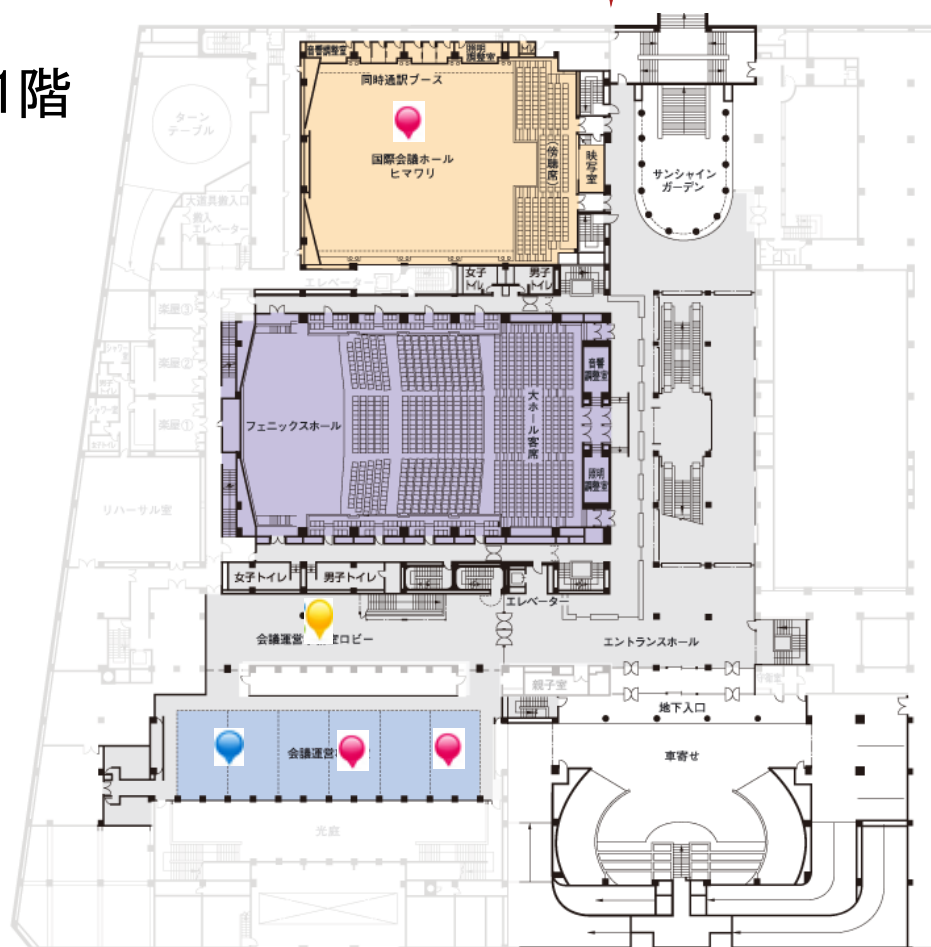
●タクシー

所要時間:約50分

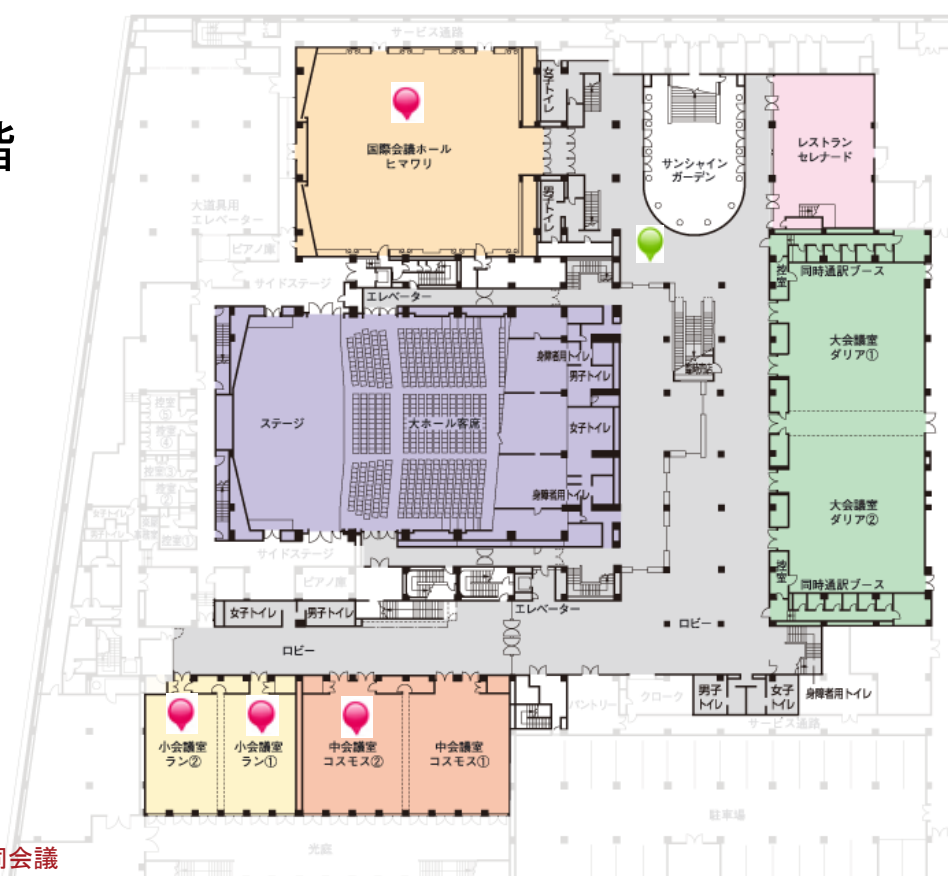


フロアーガイド

地下1階



地下2階



ヘッドラインスポンサー

We are very grateful to all our sponsors for helping to make this event possible.



全国言友会連絡協議会（全言連：JSGA）は1968年に東京で設立されました。全言連の目的は、吃音のある人のセルフヘルプ・グループである各地言友会を支援するとともに、各地言友会間の交流や連絡を促進することです。各地の言友会はそれぞれが独立して運営されており、全言連は各地言友会を代表する団体として全国的な活動を行っています。全言連には、日本の社会において4つの目的を持っています。

- (1) 官公庁やマスコミ、その他団体に対する窓口機能を担うこと
- (2) 吃音のある人のための、全国事業、あるいは地域事業を実施すること
- (3) 吃音に対する認知度向上や公的支援の獲得を図るため、吃音がある人のための社会的支援を推進すること
- (4) 言友会の新規設立など、吃音のある人のための地域活動を推進すること



国際流暢性障害学会は、この度の世界合同会議を開催するにあたっての経済的な保証を担うことに加えて、参加費を可能な限り安価にできるよう多額の寄付を行っています。国際流暢性障害学会は、流暢性障害の理解と対応および流暢性障害のある人の生活の質の改善を目的とした非営利、かつ国際的、学際的な組織です。



非営利団体である**吃音財団**は、吃音のある人とその家族に対して、最新の情報源を提供するとともに、サービスや支援を行っています。また、吃音の原因解明を目指した研究の支援も行っています。吃音財団は、専門家や吃音のある子供と大人、吃音のある子供の保護者、教師、そして吃音に関心のある人々に対して、教育、研修の機会と情報を提供しています。このような機会や情報は、クリニックや病院、学校といった様々な機関で働くヘルスケア専門職にとって貴重なものです。



広島観光コンベンションビューローは、広島県におけるコンベンションや広島市内および周辺の観光を推進すると共に、地域経済を活性化し、日本と諸外国の相互理解を促進し、地域文化の発展に資することを目的として設立された公益財団法人です。これらの目的を達成するため、広島観光コンベンションビューローは、国内・国際を問わず様々な会議や学会、展覧会等の広島への招致に努めるとともに、これらの会議等の成功に向けた支援を提供しています。また同ビューローは、観光資源の維持、開発と共に、観光客を広島に呼び込むことも目的としています。



HIROSHIMA UNIVERSITY

広島大学は国内最大規模の国立大学の1つであり、11の学部と11の大学院課程を擁し、人文科学、工学、医学などの幅広い学問分野を網羅した日本最大の研究総合大学です。広島大学では、優秀な教授陣、豊富な研究施設・設備、国内外で高く評価されている最先端の研究、そして、質の高い教育を確保し、すべての学生に合わせた詳細な学習支援を提供する「特定プログラム」を提供しています。2014年には、文部科学省のスーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」の「トップタイプスクール（タイプA）」に選ばれました。

グローバルスポンサー



We are very grateful to all our sponsors for helping to make this event possible.



日本吃音・流暢性障害学会（JSSFD）は2013年に設立されました。JSSFDの目的は、吃音、クラタリングおよびその他の流暢性障害の認知および理解向上と、流暢性障害のある人の治療および生活の質を向上させることです。

インターナショナルスポンサー



Servotronix Motion Controlは、既成の運動制御製品および特別注文の自動化システムの開発と製造を行っています。1987年に設立された後、Servotronixは発展をつづけ、高性能の一連のサーボ機構を開発してきました。またこの間、顧客ごとに求められる運動制御製品を、形態、機能、そして費用に関する厳格な要望に応えつつ、作成、開発してきました。

Servotronixはイスラエルに本社を、ドイツと中国に子会社を置き、世界的に業務を展開しています。世界各国の顧客基盤には、最先端の機器製作会社や自動システム販売会社が名を連ねています。Servotronixは、ロボットやCNC（コンピューター数値制御）、道具の機械化、医療機器、電子機器、印刷、繊維製品、食料品や飲料、再生可能エネルギーといった多様な応用分野や工業分野に対して、運動制御製品を提供することに注力しています。Servotronixの社是は、高品質の製品、費用対効果の高い解決策を、納期を守って提供することです。

2017年、世界各国に130の子会社、13万人の従業員を擁し、フォーチュン500企業に入る中国のメディアグループによって、Servotronixの支配株式が取得されました。メディアは、家電や空調システム、ロボットや自動化システムの製造、販売を行っています。この戦略的企業同盟によって、双方の企業は互いの能力と資源を活用し、結果として、工業自動化や知的生産の分野における新たな製品の開発やServotronixとメディア双方の成長が可能になるでしょう。



全米吃音協会（NSA）は、支援や、教育、権利擁護活動、研究を通じて、吃音のある子供や大人、その家族、そして専門家に希望とエンパワメントをもたらすことを目的とした非営利団体です。NSAは、各支部の活動や、権利擁護活動、教育研修、家族プログラム、出版物を通じて、米国において吃音のある人の支援を行っていく上で極めて重要な団体であるという立場をより確かなものにしていくとともに、世界中の人々に貢献するため、国際的な吃音コミュニティと強力な連携を築いていくことです。



カリフォルニア大学リバーサイド校医学部は吃音の医学的治療を行うカーカップ・センターを擁しています。UCRは、吃音のある人に医学的な治療を行う先駆的な研究機関としての役割を果たしており、常に新たな薬物療法やその他の治療法を研究しています。UCRは、医学的対応と言語療法、認知行動療法を組み合わせた包括的な治療を提供しており、最先端の科学的治療を受ける吃音のある人々を歓迎します。



Novotalkは、発話障害のある人、主に吃音のある人に遠隔治療を提供するイスラエルの企業です。Novotalkの商品化された製品第一号は、特許出願中の、オンデマンドで自律的な遠隔治療プラットフォームです。このプラットフォームでは、伝統的な流暢性治療の手法に、認知感情面の要素を組み合わせています。Novotalkは、自由でよどみない発話を学び、練習し、獲得し、それを維持するための場を個別の遠隔治療の形態で提供します。流暢性を高めるためにNovotalkを継続的に使用することで、より素晴らしい人生と人生を変える経験を手に入れることができる可能性があります。Novotalkは英語とヘブライ語で世界的に利用できるため、全米的な医療商標と連携し間もなく北アメリカでの営業活動を開始します。

出展者

Visit our exhibitors in the lobby area of the Convention Center



www.StutteringHelp.org



ELSEVIER

主な助成金

今回の世界合同会議への資金援助の一部は、アメリカ国立聾・コミュニケーション障害研究所（NIDCD）による、（メリーランド大学を受託研究機関とした）IFAに対する助成金（R13 DC017095）によって可能となりました。このことは、世界合同会議に関する公刊物に記載されるとともに、世界合同会議におけるゲストスピーカーによっても説明されます。ただし、モデレーターがアメリカ合衆国保健福祉省の公式方針に従う必要はありません。また、いかなる商品名や商習慣、団体がNIDCDによる助成金に言及したとしても、それらの商品等がアメリカ合衆国政府による支援を受けていることを意味するものではありません。

今回の世界合同会議は、日本学術振興会（JSPS）基盤研究（B）課題番号17H02717（研究代表者 川合紀宗教授）による助成を一部受けております。

7月13日（金）									
	ヒマワリ	コスモス2	ラン1	ラン2	会議運営事務室 1	会議運営事務室 3	会議運営事務室 5&6	会議運営事務室 ロビー	
8:30	8:30 - 17:30 受付 8:30 - 9:45 コーヒーサービ ス						8:45 - 9:30 ポスター掲示開始		
9:00									
9:45									
10:15	9:45-10:15 開会式								
	10:15-11:45 基調講演 1 癒しの社会基盤 Bruce Wampold 博士								
11:45									
12:15	国際流暢性 学会総会 12:15 - 13:15 昼食							12:00 - 13:30 日本文化体験 （ 折鶴体験）	
13:00									オープンマイク 13:00-13:20
13:30	13:30 - 15:00 038 アジアの吃 音セルフヘルプ グループの未来 を語る	13:30 - 15:00 384	13:30 - 15:00 457	13:30 - 15:00 018 吃音のある子どもをもつ 親の会の意義と役割 ーそのあり方、企画・運 営の課題と展望について ー	13:30 - 14:30 471	13:30 - 14:30 305	15:00 - 16:00 ポスター発表	展示・休憩	
14:40				14:40-15:10 466	14:40 - 15:10 330				
	休 憩 （コーヒーサービス）								
16:00	16:00 - 16:30 458 「雪の上に足跡は ない」全米吃音協 会（NSA	16:00 - 16:30 469	16:00 - 16:30 380	16:00 - 16:30 039 約1年で症状が改善した成 人吃音の一例 RASSに基づ く訓練の経過報告	16:00 - 16:30 313	16:00 - 16:30 340		撤収	
16:40	16:40 - 17:40 399	16:40 - 17:40 354 吃音のある若者の交流 会: ういーすたプロ ジェクトによるワーク ショップ	16:40 - 17:40 406	16:40 - 17:40 010 廣瀬カウンセリング 概要と実践	16:40 - 17:40 307	16:40 - 17:40 321			
17:40									17:30 - 18:00 ポスター撤去
17:45					助成金ワークショップ 17:45-19:15 500				
19:15									

日本語または英語による発表（直接の通訳は無し）
日本語のみの発表（英語の配付資料あり）
英語のみの発表
同時通訳付き発表



7月14日（土）											
	ヒマワリ	コスモス2	ラン1	ラン2	会議運営事務室 1	会議運営事務室 3	会議運営事務室 5&6	会議運営事務室 ロビー			
8:30	8:30 - 17:30 受付						8:15 -8:40 ポスター掲示開始	展示・休憩			
8:45	08:45 - 10:15 基調講演 2 クラタリングの 概念化 演者： Florence Myers博士, Charley Adams博士, Susanne Cook博士										
10:15	10:15 - 10:45 休憩（コーヒースervice）										
10:45	10:45 - 11:45 502 流暢性障害における 重要な研究設問に対 する当事者・家族・ 研究者からの視点の 統合: フォーラム										
11:45	12:15 昼食 (コーヒースervice) 国際クラタリング 学会 総会 12:15 - 13:15 日本吃音流暢性障害 学会理事会 12:15 - 13:15										
12:15											
13:30	13:30 - 14:30 040	13:30 - 14:30 343 臨床家と研究者のため の無料で多言語対応の 流暢性と言語リソース	13:30 - 14:30 328	13:30 - 14:00 011 吃音の自助団体の新た な試み：ういーすたブ ロジェクトの活動より	13:30 - 14:30 431	13:20 - 13:50 341	12: 30 - 16:00 日本文化体験 (抹茶体験)				
14:00	吃音のある女性の集い					14:00 - 14:30 395					
14:30											
14:40	14:40 - 15:10 034 RASS理論に基づく訓 練で改善した吃音のあ る成人女性の一事例報 告	14:40 - 15:10 468	14:40 - 15:10 47 9	14:40 - 15:10 033 吃音がある参加者が 音楽を通じて交流す るワークショップ - We are the world	14:40 - 15:10 332	14:40 - 15:10 361	展示				
15:10	休憩（コーヒースervice）							15:00 - 16:00 ポスター発表			
15:50	15:50 - 16:20 462 吃音のある小児と成人 の自己開示の臨床的有 用性	16:00-17:30 504 ワールドカフェ ことばがつなぐ 一つの世界	16:00-17:30 371	15:50 - 16:20 317		15:50 - 16:20 460		撤収			
16:20											
16:30	16:30 - 17:00 485			16:30 - 17:00 429		16:30 - 17:00 470					
17:00						17:10 - 17:40 37 2	17:30-18:00 ポスター撤去				
17:10	17:10 - 17:40 489		17:10 - 17:40 425								
17:40											

日本語または英語による発表（直接の通訳は無し）
日本語のみの発表（英語の配付資料あり）
英語のみの発表
同時通訳付き発表

7月15日（日）								
	ヒマワリ	コスモス2	ラン1	ラン2	会議運営事務局 1	会議運営事務局 3	会議運営事務局 5&6	会議運営事務局 ロビー
8:00	8:30 - 17:30 受付						8:15-8:40 ポスター掲示開始	展示・休憩
8:45	08:45-10:15 基調講演 3 認知行動療法 （CBT）を使っ た成人吃音のグ ループ療法: 吃音を治さない で吃音を治す 森 浩一博士							
10:15								
	10:15-10:45 休 憩(コーヒーサービス)							
10:45	10:45 - 11:45 410 吃音のある青少年 における変化への レディネスの評価							12: 30 - 16:00 日本文化体験 （抹茶体験）
11:45								
12:10								
13:00	オープンマイク 13:00-13:20	日本吃音・流暢性 障害学会 総会 12:15-13:15	昼食 （コーヒーサービス）		12:10 - 13:20 映画: 私が吃音になる とき			
13:30	13:30-15:00 452 吃音のある子供へ のいじめを撲滅す るには	13:30-15:00 301	13:30-15:00 042 マイメッセー ジ〜私の吃音 経験を シェアしよう〜	13:20 - 13:50 368	13:20 - 13:50 483	13:20 - 13:50 454		
14:00				14:00 - 14:30 316	14:00 - 14:30 347	14:00 - 14:30 461		
14:40				14:40 - 15:10 463	14:40 - 15:10 381	14:40 - 15:10 396		
15:00	休憩 （コーヒーサービス）						15:00 - 16:00 ポスター発表	展示 撤収
15:50	15:50 - 16:20 433 リッカムプログラムと RESTART - DCMに基づく 治療を比較したRESTART試 験の長期的結果：暫定結果 の報告	15:50 - 16:20 024 規則的なリズム刺激を用い た、流暢性向上のためのアプ リケーション開発	15:50 - 16:20 416	16:00-17:30 503	15:50 - 16:20 412	15:50 - 16:20 478		
16:30	16:30 - 17:30 327	16:30 - 17:00 017 吃音のある人の広い 支援を求めて	16:30 - 17:00 346		16:30 - 17:30 364	16:30 - 17:30 409		
17:10		17 : 10-17 : 40 494						
17:30								
17:45					助成金ワークショップ 17:45-19:15 501 若手研究者フォーラム		17:30-18:00 ポスター撤去	
19:15								

日本語または英語による発表（直接の通訳は無し）
日本語のみの発表（英語の配付資料あり）
英語のみの発表
同時通訳付き発表

7月16日（月）								
	ヒマワリ	コスモス2	ラン1	ラン2	会議運営事務室 1	会議運営事務室 3	会議運営事務室 5&6	会議運営事務室 ロビー
8:30	8:30 - 14:30 受付						8:30 - 「世界のなかまっ ぶる」 掲示開始	展示・休憩
8:45	08:45-10:15 基調講演 4 吃音/クラタリング の世界において パートナーシップ と協力的関係を構 築するには Annie Bradberry氏 Mitchell Trichon博士						8:45 - 15:20 「世界のなか まっぶる」 発表	
10:15	10:15-10:45 休 憩(コーヒースervice)							
10:45	10:45 - 11:45 453 職場での吃音を再 定義する: 労働者 吃音ネットワーク							
11:45							8:45 - 15:20 「世界のなか まっぶる」 発表	12:00 - 13:30 日本文化体験 （ 折鶴体験）
12:15	昼食 (コーヒースervice)							
13:00	オープンマイク 13:00-13:20					国際吃音連盟 総会 12:15-13:15		
13:30	13:30 - 14:30 036 日本における吃音の ある子どもへの教 師による指導・支援 の重要性	13:00 - 14:30 映画： 私が吃音になるとき (質疑応答付)	13:30-14:30 442	13:30-14:30 472	13:30-14:30 403	13:30-14:30 488	展示・休憩	
14:30	14:40 - 15:10 401 吃音のある成人のため の吃音緩和法の結果: 効果の分析	14:40 - 15:10 430	14:40 - 15:10 310	14:40-15:10 030 日本の俳句・川柳で紹介 する吃音文化	14:40 - 15:10 309	14:40 - 15:10 465		
15:10	15:10 - 15:30 休憩							15:20-15:30 撤去
15:30	15:30 - 16:15 次回大会開催候補地による招聘プレゼンテーション							
16:15	16:15 - 16:45 閉会式							
16:45								
					日本語または英語による発表（直接の通訳は無し）			
					日本語のみの発表（英語の配付資料あり）			
					英語のみの発表			
					同時通訳付き発表			



映画上映 John Gomez監督作品 ” WHEN I STUTTER”

【発表者】 Keen Eye Productions

【会 場/時 間】 ①会議運営事務室1 7月15日(金) 12:10-13:20 上映のみ
②コスモス1 7月16日(土) 13:30-14:30 質問コーナーあり

【監 督】 John Gomez john@whenistutter.org

ジョン・ゴメス監督はニューメキシコ北部で生まれ育ちました。彼はコロラド大学に通い、哲学とアメリカ民族学の学位を取得しました。24歳で、ニューヨークで演技のキャリアを追求し、ハリウッドで彼の運を試しました。31歳で、彼は学校に戻り、言語病理学者になることを決めました。彼はカリフォルニア州ロサンゼルス大学を卒業し、2009年にコミュニケーション障害の修士号を取得し、現在は、ロサンゼルス統一学区の音声病理学者として働いています。彼は、2018年にカリフォルニア州立大学のカリフォルニアでの非流暢性に関する大学院レベルのコースを始める予定です。ジョンはまた、映画監督として脚光を浴びています。2012年にはKeen Eye Productionsを設立しました。彼はいくつかのプロモーションビデオ、ライブイベント、その他様々な短編映画の撮影、編集、制作を行っています。彼の最初の長編映画” WHEN I STUTTER” は、2017年4月、クリーブランド国際映画祭で世界初演を果たしました。それは、吃音を取り巻くいくつかの謎を明らかにすることを目的とし、このコミュニケーション障害が与える心理的な影響を探究する映画です。

【内 容】

ジョン・ゴメス監督の“WHEN I STUTTER”は、しばしば謎の症状が現われる人々のドキュメンタリーです。4年半にわたる19人の物語、吃音が生活にどのような影響を与えてきたかについてストーリーが繰り広げられます。これらのストーリーは、人間の感情を大きく揺さぶります。いくつかは暗く、いくつかは面白いです。そして意気揚々としています！さらに、ドキュメンタリー全体に「教育的なビネット」が散在し、吃音を取り巻くいくつかの謎を明らかにする事を助けてくれるでしょう。

発表言語：英語





BRUCE WAMPOLD

7月13日（金）10:15-11:45

Wampold博士は、本合同会議において「**癒やしの社会基盤**」をテーマに、治療の社会的背景と治療的関係の重要性について、お話しいただく予定です。また、臨床家が効果をさらに向上させる方法や、人々がより効果的に治療や支援を受ける方法についてもお話しいただく予定です。

Wampold 博士は、ノルウェーのビーケルスンにあるモダム精神病学センター研究所の所長であり、ウィスコンシン大学マディソン校のカウンセリング心理学の名誉教授でもあります。彼は米国心理学会のフェロー（部門12, 17, 29, 45）、米国専門心理学委員会によって認定されたカウンセリング心理学の専門家であり、2007年には米国心理学会より特別研究賞を授賞されました。



FLORENCE MYERS with CHARLEY ADAMS and SUSANNE COOK

7月14日（土）8:45-10:15

このたび、「**クラタリングの概念化**」について、パネルディスカッションを企画しました。このパネルは、クラタリングの理解や吃音との関連性について30年に渡り研究されてきたFLORENCE MYERS博士（ニューヨーク州ガーデンシティのアデルフィ大学）を中心に進めていただきます。

*Myers*博士は、ブルガリアのカタリノで2007年に開催された第1回クラタリング国際会議の共催者として尽力されましたが、この会議において国際クラタリング学会（ICA）が“誕生”しました。また、Myers博士は米国言語聴覚協会（ASHA）のフェローであり、クラタリングの領域での貢献が認められSTUTTERING FOUNDATIONと国際クラタリング学会（ICA）によるDESO WEISS賞を受賞されています。さらに、博士のご著書はフランス語、ポーランド語、そしてブルガリア語で翻訳されています。



このパネルでの基調講演では、「**クラタリングの概念化に向けた3方面からのアプローチ（TPA-CC）**」についてご紹介いただきます。Myers博士はTPA-CCを開発する上で中心的な役割を果たされました。今回、この重要なアプローチについてご説明いただけることを大変有り難く思います。この講演はクラタリングや吃音がある人にとって、また臨床や研究に携わっている参加者にとって、大変興味深いものになるでしょう。そして今回の基調パネルでは、クラタリングの定義についての見方を提示し、クラタリングと吃音の類似点・相違点について検討し、クラタリングの概念化の方法について討論する予定です。

このパネルには、Charley Adams博士とSusanne Cook博士にも登壇して頂きます。

Adams博士は、サウスカロライナ大学で臨床准教授をしており、2000年から流暢性障害に関する大学院の授業を担当しています。博士は、2001年以降全米吃音協会 (NSA) のコロンビア支部を率いており、2008年から2013年の間、NSAの地域コーディネーターを務めています。2013年には年間最優秀SLPに選ばれました。Adams博士は、多くのNSAワークショップを担当し、またNSAの生涯学習教育評価委員会の委員長をしています。また、国際クラタリング学会の現会長でもあり、2018年広島で開催される世界合同会議の企画委員ならびにプログラム委員も務めています。

Cook博士は、ドイツ出身のSLP（言語療法士）で、1995年以降、流暢性障害を専門にしています。博士は、吃音セラピストの資格（Interdisciplinary Association for Stuttering Therapists）を有し、10年間、子どもと青年期の人たちを対象とした夏季集中治療プログラムを運営してきました。2011年、University College Londonにて、発達科学の分野で博士号を取得しました（博士論文の題目は「情動要因、いじめ、言語能力、運動能力と、吃音のある子どもに対する治療効果との関連」）。Cook博士は、流暢性障害に関するドイツの診療ガイドラインの共著者です。また博士は、国際クラタリング学会の次期会長であり、2018年に日本で開催される世界合同会議では企画委員会を務めています。博士の研究上の関心は、クラタリング、吃音がある子どもたちに対する治療効果、いじめおよびそれに対する効果的な対応が吃音のある子どもたちに及ぼす影響、そして、人生における吃音の心理的影響に渡ります。Cook博士は現在、アメリカのバージニア州にあるFairfax County Public Schools に勤務しています。



Koichi Mori (森 浩一)

7月15日（日）8:45-10:15

今回、森浩一博士は、「**認知行動療法（CBT）を使った成人吃音のグループ療法：吃音を治さないで吃音を治す**」の講演をしてくださいます。この興味深い基調講演では、日本における吃音のある人々の治療の選択肢についての洞察が得られ、国内外の吃音のある人々に対するCBTの使用に対する意識が高まることが期待されます。世界各地で吃音のある人々が吃音をもちながら生活するためのさまざまなアプローチの可能性と、人々の生活の中で吃音に取り組むための新しい考え方や着想を提供することによって、様々な国や地域からの参加者の間で有意義な議論につながることを期待されます。

森浩一博士は、1981年に東京大学医学部を卒業し、1988年に東京大学大学院医学系研究科にて医学博士（神経科学）を取得しました。森博士は、1992年より、神経イメージングを用いた研究ならびに応用行動分析および治療の有効性研究など、吃音に関する研究に携わってきました。現在、国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局の局長の職にあり、日本吃音・流暢性学会（JSSFD）の創設メンバーの一人です。現在の業務には、認知行動療法（CBT）を用いて吃音のある成人の診療が含まれます。研究としては、日本の幼児の多施設大規模吃音有症率調査と、吃音成人のためのグループCBT訓練の開発も行っています。



ANNIE BRADBERRY and MITCHELL TRICHON

7月16日（月） 8:45-10:15



BRADBERRY氏とTRICHON博士は、「**吃音/クラタリングの世界においてパートナーシップと協力的関係を構築するには**」という大変興味深い話題を提供して下さいます。お二人の基調講演の中で、吃音・クラタリング当事者・保護者・臨床家・研究者間における連携の重要性を主題にした話題が提供され、私たちの思考は刺激されることでしょう。お二人は、これらの関係の過去と現在の意義と、これらの連携関係を互いに育成する方法について話して下さいます。この話題は、当事者・保護者・臨床家・研究者など、あらゆる異なる背景をもつ参加者が関心を寄せるに違いありません。

ANNIE BRADBERRY氏の吃音当事者団体に対し、限りなく大きな情熱と支援を傾けていらっしゃいます。BRADBERRY氏は現在、国際吃音連盟（ISA）の会長を務めており、1993～2003年までは全米吃音協会（NSA）の事務局長を務めました。BRADBERRY氏は、38年間NSAに関わり、これまで支部長、理事を歴任し、現在は地域コーディネーターとして活躍しています。さらにBRADBERRY氏は、米国音声言語聴覚協会（ASHA）の流暢性障害専門分科会の当事者代表としても活躍しておられ、現在は国際流暢性学会（IFA）のセルフヘルプ・権利擁護委員会委員も務めています。BRADBERRY氏は依頼があればいつでも地元の大学や教育委員会へ出向き、吃音のワークショップや研修を行う傍ら、吃音当事者のオンライン団体であるSTUTTER SOCIALの主催者も務めています。BRADBERRY氏は民間の非営利団体で25年の経験があり、現在の仕事は米国南カリフォルニアに本拠を置く全米規模の非営利企業の事務局長を務めています。

MITCHELL TRICHON博士は、米国音声言語聴覚協会（ASHA）の認定言語療法士（CCC-SLP）です。TRICHON博士はインターネットを基盤とした吃音当事者のオンライン団体であるSTUTTER SOCIALの共同設立者でもあります。この団体は、吃音で悩む人々のための私設のソーシャルネットワークコミュニティです。またTRICHON博士はLA SALLE UNIVERSITYの教員でもあり、流暢性障害に関する大学院の講義や、吃音を抱えるクライアントの臨床研修を受けている大学院生の指導監督などを行っています。TRICHON博士はこれまで10本を超える査読論文と国際、全米、地域の学会・研究会等において、研究テーマである吃音当事者のセルフヘルプグループでの活動に関する50件以上の研究を発表し、その重要性を聴衆に届けてきました。TRICHON博士は吃音当事者であり国際吃音連盟（ISA）の理事も務めています。TRICHON博士は以前、全米吃音協会（NSA）の理事会に参加し、成人吃音当事者支援グループの全国ネットワークを共同で主催していました。TRICHON博士はまた、開業言語療法士として、直接面談やテレセラピー（インターネットを基盤としたオンラインによる臨床）を通して、吃音当事者への臨床も行っています。



公益財団法人 **広島観光コンベンションビューロー**
Hiroshima Convention & Visitors Bureau





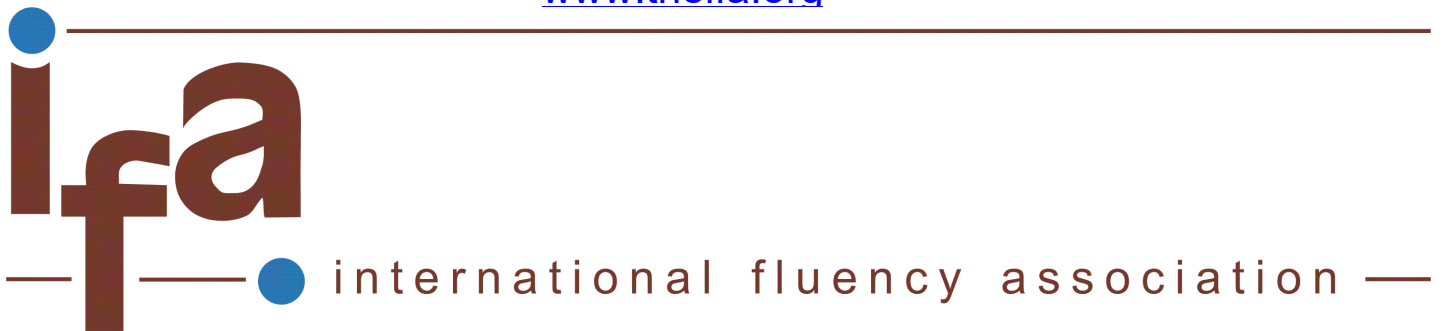
国際流暢性学会は、吃音・クラタリング世界合同会議のヘッドラインスポンサーです。

国際流暢性学会は、流暢性障害の理解とマネジメント、そして流暢性障害のある人の生活の質の向上を目指すことを目的とした、非営利の国際的な学際的組織です。

本学会員は、吃音やクラタリング（早口言語症）当事者、研究者、学者、臨床家で構成されています。国際組織として、この美しい広島において世界初となる吃音・クラタリング世界合同会議のために、日本国内の団体の協力を得ながら、国際クラタリング学会（ICA）、世界吃音連盟（ISA）と連携できたことを大変喜ばしく思っています。この吃音・クラタリング世界合同会議は、IFAにとっては第9回の世界大会であり、本会議のスポンサーと議長を務め、多くの参加者の皆様に、広島までの旅費と参加登録のための助成金を提供できたことを喜ばしく思っています。

今、この広島にすることができていることに興奮しています。
皆様にとって素晴らしい大会になることを祈っています！

www.theifa.org





【口頭発表】

10 廣瀬カウンセリング概要と実践

Stuttering therapy focused on psychological factors: the effectiveness of group counseling

【発表者】 久次米 稔之 (Toshiyuki Kujime) 【会 場】 ラン2

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 16:40 - 17:40

【演者】 久次米 稔之¹ (Toshiyuki Kujime) 田原 慎二² (Shinji Tahara) 浅藤 亮祐³ (Ryosuke Asafuji) 早川 麻子⁴ (Asako Hayakawa)

【所 属】 東京言友会廣瀬カウンセリング

【連絡先】 久次米 稔之, kujimet1f650@yahoo.co.jp

【要約】 廣瀬カウンセリング教室では『吃音は言語障害ではなく、条件反射による刺激と反応が原因』と考えています。教室では、どもる時に刺激となるもの（人、場所、状況）や、それに対する反射（頭の中や身体の反応）ををありのままに感じるにより、言葉に対する条件付けを取り除き自然な話し方を取り戻す取り組みを行っています。発表では概要説明と参加型の教室を再現し、単なる理解ではなく実感できる発表をおこないます。

発表言語：日本語と英語 同時通訳ではありません

【口頭発表】

11 吃音の自助団体の新たな試み：ういーすたプロジェクトの活動より

A new challenge of self-help groups for young people who stutter: We-Stutt project's activities

【発表者】 荒木 隼人 (Hayato Araki) 【会 場】 ラン2

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 14:00 - 14:30

【演者】 荒木 隼人^{1,2,3} (Hayato Araki) 黒澤 大樹^{1,4} (Daiki Kurosawa) 廣瀬 功一^{1,5} (Koichi Hirose) 飯村 大智^{1,6,7} (Daichi Imura)

【所 属】 1. ういーすたプロジェクト 2. 名古屋言友会 3. 三重言友会 4. 太田総合病院附属太田西ノ内病院 5. 全国言友会連絡協議会 6. 富家病院 7. NPO 法人どーもわーく

【連絡先】 sea1sea2seasea@gmail.com

【要約】 若年吃音者は大学生活から就職活動、就労と大きなイベントが多く悩みも多種多様である。ういーすたプロジェクトは若年吃音者向けの自助団体で、2014年に活動を開始し現在国内8箇所で活動を展開している。参加の動機について調査を行うと「同世代と交流したい」「悩みを共有したい」「就活の話が聞きたい」「知り合いを作りたい」などが挙げられた。本発表ではその活動内容・意義について、質問紙調査の結果を交えて検討・考察する。

発表言語：日本語（英語の資料あり）

17 吃音のある人の広い支援を求めて

Seeking broad support for people with stuttering

【発表者】松尾 久憲 (Hisanori Matsuo)

【会 場】 コスモス 2

【発表日】7月15日(日) 【発表時間】16:30-17:00

【演 者】 松尾 久憲 (Hisanori Matsuo)

【所 属】 NPO 法人 千葉言友会

【連絡先】 matsuo95@catv296.ne.jp

【要約】

当事者団体である言友会は設立 52 年を迎える。当事者の QOL の向上につながる、その新しい動きを紹介する。それは、吃音問題は「個人の問題」ではなく「社会が取り組むべき課題」との趣旨で、我々の想いを社会へ発信しようとするものである。社会への吃音の啓発、医療機関・専門家への研修、国への働き掛け、法制度・福祉制度の利用、言友会会員への周知など多岐にわたるが、その一端を紹介する
発表言語：日本語

18 吃音のある子どもをもつ親の会の意義と役割

ーそのあり方、企画・運営の課題と展望についてー

Meanings and roles of associations for parents of children who stutter: issues and visions of planning and management

【発表者】餅田 亜希子(Akiko Mochida)久保 牧子(Makiko Kubo)戸田 祐子 (Yuko Toda)西尾 幸代(Sachiyo Nishio)松本 正美(Masami Matsumoto)堅田 利明(Toshiaki Katada)後藤 リサ(Risa Goto)

【会 場】 ラン 2

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】13:30-15:00

【演者】餅田 亜希子¹(Akiko Mochida) 久保 牧子²(Makiko Kubo) 戸田 祐子³ (Yuko Toda) 西尾 幸代⁴(Sachiyo Nishio) 松本 正美⁵(Masami Matsumoto) 堅田 利明⁶(Toshiaki Katada) 後藤 リサ⁶ Risa Goto)

【所属】1. 東御市民病院 2. 吃音のある子どもと歩む会会長 3. きつおん親子カフェ代表
4. 福井県特別支援教育センター所長 5. 吃音のある子どもと歩む会副会長
6. 関西外国語大学

【連絡先】餅田亜希子 akiko.mochida@gmail.com

【要約】

近年、吃音のある子どもを持つ保護者が出会い話せる場として、「吃音のある子どもを持つ親の座談会」が新しく立ち上がってきている。そのような場が、いかなるエンパワメントを生み出し、それが吃音のある子どもに、また家庭や周囲の人たちにどのような影響を及ぼし、吃音理解や啓発へと繋がっていくのか。各会の設立理由、活動意義、運営マネジメントや問題点、今後の展望についてパネルディスカッションにおいて明らかにしたい。

発表言語：日本語（英語の資料あり）

24 規則的なリズム刺激を用いた、流暢性向上のためのアプリケーション開発

Application development for improving fluency with regular rhythm stimulation

【発表者】小宮 歩 (Ayumu Komiya)

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 15 : 50-16 : 20

【演者】小宮 歩¹(Ayumu Komiya)宮本 昌子²(Shoko Miyamoto)

【所 属】 1. 筑波大学大学院人間総合科学研究科 2. 筑波大学人間系

【連絡先】 s1721389@s.tsukuba.ac.jp

【要約】

我々は、規則的なリズム刺激を用いて発話速度を低下させ、発話流暢性の向上を図るアプリケーションを開発した。アプリケーションの内容は、使用者の発話速度を計測し、使用者に適した速度の発話を、規則的なリズム刺激を用いて獲得させるというものである。そのアプリケーションを用いて訓練を行った結果、どれほどの流暢性の向上が見られたかを調査した。

当日は、このアプリケーションを使用した実践例について発表する。

発表言語：英語（日本語資料あり）

30 日本の俳句・川柳で紹介する吃音文化（吃音のある人々を取り巻く状況）

A stuttering culture introduced in Japanese haiku・senryuu (Situation surrounding people with stuttering)

【発表者】濱田 一夫 (Kazuo Hamada)

【会 場】ラン2

【発表日】7月16日（月） 【発表時間】14：40-15：10

【演 者】濱田 一夫 (Kazuo Hamada)

【所 属】三重言友会

【連絡先】kark13h9@gmail.com

【要約】

難発の吃音に悩まされてきました。学校現場・社会で、悩んできたこと、感じた矛盾・偏見・不平等、そして、社会への要望を日本の俳句・川柳にまとめました。こうした日本の吃音文化を日本古来の俳句・川柳で世界に発信することで、日本と世界の違いが明確になり、吃音研究の発展と吃音のある人々のQOLの向上を目指すことができると考えています。

発表言語：日本語（英語のスライドあり）

【口頭発表】

33 吃音がある参加者が音楽を通じて交流するワークショップ- We are the world -

We are the world

A workshop where participants with stuttering interact through music- we are the world

【発表者】清水 裕治 (Yuuji Shimizu)

【会 場】ラン2

【発表日】7月14日（土） 【発表時間】14：40—15：10

【演者】清水 裕治¹ (Yuuji Shimizu) 立川 英雄² (Hideo Tatsukawa) 廣瀬 功一² (Kouichi Hirose)

【所 属】1. NPO 法人 千葉言友会 2. NPO 法人全国言友会連絡協議会

【連絡先】shimizumusic1016@gmail.com

【要約】

まずは、楽器を使ったり声を出したりすることで心と緊張をほぐします。次に、得意な楽器があれば参加者に演奏してもらいます。そして、「- We are the world -」を共に弾いて歌います。最後に参加者と一緒に声を出して歌います。国籍や言語を越えて、参加者が音楽を通して交流できるワークショップ目指します。なお、希望する楽器があれば可能な範囲で手配を致します。

発表言語：日本語と英語 同時通訳ではありません

34 RASS 理論に基づく訓練で改善した吃音のある成人女性の一事例報告

A case report of an adult woman who stutters improved by training based on RASS theory

【発表者】 池田 泰子 (Ikeda Yasuko) 都筑 澄夫 (Tsuzuki Sumio)

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月14日 (土) 【発表時間】 14:40—15:10

【演者】 池田 泰子¹ (Ikeda Yasuko) 都筑 澄夫² (Tsuzuki Sumio)

【所 属】 1. 岩手大学 2. 都筑吃音相談室

【連絡先】

【要約】 吃音のある成人に対して、都筑澄夫が開発した話し方の工夫を促さず、自然で無意識な発話を目指す RASS 理論に基づく年表方式のメンタルリハーサル法で訓練したところ、進展段階 4 層から経過観察まで改善した。日常生活場面の「恐れ」と「発話症状」の状態 (7 件法)、本人の語り等から改善に至った要因を考察する。当日は理論の開発者である都筑澄夫先生から理論の概要説明、そして、本事例について解説していただく。

発表言語：同時通訳

36 日本における吃音のある子どもへの教師による指導・支援の重要性

The importance of teachers' support at school for Japanese school-age children who stutter

【発表者】 村瀬 忍 (Shinobu Murase) 牧野 泰美 (Yasumi Makino) 築山 道代 (Michiyo Tsukiyama) 篠原 美喜 (Miki Shinohara)

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月16日 (月) 【発表時間】 13:30—15:00

【演 者】 村瀬 忍¹ (Shinobu Murase) 牧野 泰美² (Yasumi Makino) 築山 道代³ (Michiyo Tsukiyama) 篠原 美喜⁴ (Miki Shinohara)

【所 属】 1. 岐阜大学教育学部 2. 国立特別支援教育総合研究所 3. 岡山市立石井小学校
4. 広島市立皆実小学校

【連絡先】 shinobu@gifu-u.ac.jp

【要約】 日本では、小中学校に在籍する吃音のある子どもの支援制度に通級による指導があり、ここで

は、言語聴覚士ではなく教員免許状をもった教師が指導・支援を担当する。本発表では、この制度の現状と、学校で行われている吃音のある子どもへの指導・支援の実践例を報告する。これらの報告に基づき、学校での教師が行う吃音支援の成果と課題を明らかにし、学齢期吃音への教育的なアプローチの重要性について考察する。

発表言語：同時通訳

38 アジアの吃音セルフヘルプグループの未来を語る

Talk about the future of Asian stuttering self help group

Talk about the future of Asian stuttering self help group

【発表者】 齊藤 圭祐 (Keisuke Saito)

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 13:30-15:00

【演者】 齊藤 圭祐 (Keisuke Saito)

【所 属】 1. 全国言友会連絡協議会、国際吃音者連盟

【連絡先】 keisuke.stuttering@gmail.com

【要約】

アジアの吃音セルフヘルプグループの未来を語る。アジアの吃音セルフヘルプグループの現状と課題について話し合い、私たちはアジアの吃音者のために何ができるのかを参加者と共に検討する。近い未来、アジアの吃音団体を設立し、アジアの吃音大会を開催することで、アジアの吃音ネットワークを築くことを私たちは望んでいる。今大会はアジアでは32年振りとなる吃音者世界大会であり、是非ともこの大会で未来を語り合いたい。

発表言語：同時通訳

【口頭発表】

39 約1年で症状が改善した成人吃音の一例 RASSに基づく訓練の経過報告

An example of adult stuttering with improved symptoms in about one year: report of training based on RASS

【発表者】 岸村 佳典 (Kishimura Yoshinori)

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 16:00-16:30

【演 者】 岸村 佳典 (Kishimura Yoshinori)

【所 属】 社会医療法人生長会ベルピアノ病院

【連絡先】

【要 約】 都筑は年表方式のメンタルリハーサル法（以下、M・R法）による3年程度の訓練にて、吃音が一定の割合で改善しうると報告している。今回、M・R法を開始して約1年で改善した症例を経験した。本症例は比較的早期に、発話に対する注目・工夫・回避をしないで発話する方が吃音に関する苦悩が軽減すると感じていた。自然で無意識な発話と吃音に関する苦悩の関係を早期に実感できれば、短期間のうちに改善が見込める可能性がある。

発表言語：日本語

40 吃音のある女性の集い ―Woman Only

A gathering of women who stutter

【発表者】丸岡 美穂(Miho Maruoka) Annie Bradberry 村上 文香(Ayaka Murakami) Heather Najman
吉田 裕子(Yuko Yoshida)

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】7月14日(土) 【発表時間】13:30-14:30

【演者】丸岡 美穂¹(Miho Maruoka) Annie Bradberry^{2,3} 村上 文香¹(Ayaka Murakami) Heather Najman³
吉田 裕子^{3,4}(Yuko Yoshida)

【所属】1. おおさか結言友会、きつおん女子の会、レディース・スタタリング・サークル 2. 国際吃音者
連盟 3. アメリカ吃音協会(NSA) 4. 米国言語聴覚協会

【連絡先】mmaruoka93@me.com

【要 約】

女性吃音者は、男性よりも少数で、女性の社会進出に伴うライフスタイルの多様化により、相談相手
やロールモデルを見つけることが難しく、人生における様々な選択について不安や葛藤が男性吃音者よ
り強い場合があります。

当ワークショップでは、各国の女性吃音者によるスピーチと、グループワークを通して、多様な価値
観、生き方に触れ、参加者が、吃音があっても自分らしい生き方を選択していける後押しになることを
目指します。

発表言語：同時通訳

【口頭発表】

42 マイメッセージ ～私の吃音経験をシェアしよう～

My message: Sharing my stuttering experience

【発表者】齊藤 圭祐(Keisuke Saito) 船津 毎(Mai Funatsu) 濱田 一夫(Kazuo Hamanda) 山口 大旗
(Hiroki Yamaguchi) 横井 秀明(Hideaki Yokoi) 谷口 公美(Masami Taniguchi)
(Keitaro Kamimura) 藤原 敬子(Keiko Fujiwara) 笠倉 穀昭(Takeaki Kasakura) Joseph Nsubuga
Mitchell Trichon Douglas Scott Hanan Hurwitz

【会 場】ラン1

【発表日】7月15日(日) 【発表時間】13:30-15:00

【演 者】齊藤 圭祐¹(Keisuke Saito) 船津 毎²(Mai Funatsu) 濱田 一夫³(Kazuo Hamanda) 山口 大旗⁴
(Hiroki Yamaguchi) 横井 秀明⁵(Hideaki Yokoi) 谷口 公美⁶(Masami Taniguchi)⁷
(Keitaro Kamimura) 藤原敬子⁸(Keiko Fujiwara) 笠倉穀昭⁹(Takeaki Kasakura) Joseph Nsubuga¹⁰
Mitchell Trichon¹¹ ou as ott¹ Ha a Hur it¹

【所 属】1. 全国言友会連絡協議会 2. おおさか結言友会 3. 三重言友会 4. おおさか結言友会 5. 名古屋言友
会 6. 記載なし 7. 琉球言友会 8. 愛媛言友会 9. おおさか結言友会 10. イージー・スピーク協会、国際吃音
連盟 11. ラサール大学 12. アメリカ吃音協会テキサス州ヒューストン支部会、13. イスラエル吃音協
国際吃音者連盟

【連絡先】齊藤圭祐 keisuke.stuttering@gmail.com

【要 約】

日本および各国の12名の吃音者により、吃音経験のスピーチを行います。発表者からの「マイメッセ
ージ」は、大会に参加する世界中の人達の心に届き、国境を越えてシェアすることができるでしょう！大

会テーマである“One World, Many Voices”にあるよう、12名の声(Many Voices)を、合同世界大会(One World)の場で発信します！

発表言語：日本語（英語のスライドあり）

【口頭発表】

301 マインドフルネス、アクセプタンス & コミットメント・セラピー、そして脳：流暢性障害の実験的探究

Mindfulness, Acceptance and Commitment Therapy, and the Brain: An Experiential Journey with Fluency Disorders

【発表者】 Jaime Michise¹ and Scott Palasik²

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 13:30-15:00

【演 者】 Jaime Michise¹ and Scott Palasik²

【所 属】 1. 私設クリニック（名古屋） 2. アクロン大学（オスロ）

【連絡先】 Jaime Michise, jmichiseSLP@gmail.com

【要約】

アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）はマインドフルネスに基づく心理療法の手法であり、クライアントが心理的柔軟性の発達を通じて価値に基づく生活を送るのを支援するものである。クライアントは、ACTの6つの基本原則を体験することで、自分の流暢性障害に対応し、それを管理するための心理的柔軟性を育成することができる。この体験的訓練の際に、プレゼンターは実習を通じて出席者がACTの各基本原則を理解するのを容易になるよう導き、流暢性障害の患者にACTを使った臨床的な事例を提供する。プレゼンターはACTとマインドフルネスの実践に関する現在の神経学研究のいくつかをまとめる。

発表言語：英語

305 大学における STUC による介入方法とは？ 吃音のある学生や職員に対する支援

Universities: STUC in Their Ways? Supporting Students and Staff who Stammer

【発表者】 Claire Norman

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 13 : 30-14 : 30

【演 者】 Claire Norman

【所 属】 大学吃音カウンセリング

【連絡先】 Claire Norman - clairenorman@stuc-uk.org

【要約】

その創設以来、14 の大学が STUC と提携し、数多くの発見と解決がなされた。学生と職員に主張させることにより、STUC はイギリスの各大学における世界中から集まった学生、職員が相互に支え、吃音の認知度向上を助けることで、彼らの学びの在り方、人々の反応の仕方を向上させた。クレアはこれらの大学が彼女自身およびフォーカスグループの出席者により提出された助言に対してどのような行動をとってきたか、会議出席者と共有し、更なる所見およびすべての大学が吃音のある学生および職員をどのように支援すべきかの枠組みを共有したいと考えている。

発表言語：英語

307 一般集団における異文化間の吃音に対する認識度

Intercultural Perceptions of Stuttering in the General Population

【発表者】 Jean-François Leblanc

【会 場】 会議運営事務室1

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 16:40 - 17:40

【演 者】 Jean-François Leblanc

【所 属】 デ・ビーグ・ドウ・ドウ・カナダ

【連絡先】 Jean-François Leblanc sansbonsang@gmail.com

【要約】

世界で吃音がどのように認識されているかは国により大きく異なる。よくて吃音は会話流暢性的一种として認識されているにすぎず、他の国では、吃音は不利益や屈辱と関連づけられることがある。本ワークショップでは、このような見解を確証ないしそれに異議申し立てをする聴衆との対話に取り組むことを目指したものである。聴衆には我々が個人そして吃音支援団体として、吃音が「外の」世界でどのように認識されるかに関して、地理的格差および異文化間格差のギャップをなくすことができるような方法を提案することが推奨される。

発表言語：英語

309 吃音の薬理学的治療に関する最新情報

Updates on the Pharmacologic Treatment of Stuttering

【発表者】 Gerald A. Maguire, Michele Nelson

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7月16日（月） 【発表時間】 14:40—15:10

【演 者】 Gerald A. Maguire, Michele Nelson

【所 属】 リバーサイド医科大学、カリフォルニア大学

【連絡先】 Gerald A. Maguire gerald.maguire@medsch.ucr.edu

【要約】

吃音についてFDAの認可を受けた治療は存在しないが、薬理学的治療が選択された対象において吃音の重症度を軽減する便益をもたらしていることを示唆する証拠が増えてきている。過去の薬理学的研究の批判的再検討が提示され、ドーパミン1拮抗薬とVMAT-2阻害薬に関する研究を含む新データが明らかとなる。特にADD、大鬱病性障害、社会不安障害を含む合併症の精神疾患に対するこれら医薬品の使用について検討する。

発表言語：英語

【口頭発表】

310 中国本土におけるリッカムプログラムを導入した小児吃音の治療：2つの症例研究

Treatment of childhood stuttering using the Lidcombe Program in mainland China - Two case studies

【発表者】 Imogen Dean

【会 場】 ラン 1

【発表日】 7月16日（月） 【発表時間】 14:40—15:10

【演者】 Imogen Dean¹, Sally Hewat², Rachael Unicomb³, Ms. Guangli (Cindy) Cui⁴

【所 属】 ニューキャッスル大学（オーストラリア）、スピーチセラピー部門

【連絡先】 Sally Hewat - Sally.Hewat@newcastle.edu.au

Imogen Dean - imogenhelen22@gmail.com

【要約】

リッカムプログラム（LP）は親により提供される、行動に基づく治療プログラムで、幼児の吃音を治療する上で恐らくベストプラクティスである。このプログラムは他の数国では試験されたものの、中国本土での同プログラムの使用を記録し発表された研究はない。この研究は、北京語を話す児童のLPの使用を示す一連の症例研究を紹介する。対象者は6才5カ月、7才2カ月であり、中国の民間の言語療法の診療所から採用された。臨床的進展と転帰データは統計的有意性に関して紹介し、文化的配慮についても検討する。

発表言語：英語

313 アフリカのカメルーンにおける吃音への対処（私の個人的な経験）

Coping with Stuttering in Cameroon- Africa (my personal experience)

【発表者】 Joe Lukong

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 16:00-16:30

【演 者】 Joe Lukong

【所 属】 スピーク・クリアー会（カメルーン）

【連絡先】 Joe Lukong - Joelukong@gmail.com

【要約】 プレゼンターはアフリカの一国、カメルーンで、ほとんどあるいは全く言語療法サービスなしに吃音を持ち育った経験を共有する。彼は吃音者を治療するための様々な伝統的で、そして時として非常に粗野な方法について語る。彼はいかにして吃音の治療の探求により、吃音者の国際的な自助運動に携わることになったか、そして、どのようにカメルーンで吃音者の最初の自助運動を起こし、2005年のアフリカでの最初の吃音会議を組織、主催するようになったかについて情報共有する。

発表言語：英語

【口頭発表】

316 発達性吃音症の治療を受ける小児の吃音行動および衝動性の高さ

Stuttering and disruptive behaviours in children treated for developmental stuttering disorders

【発表者】 Kerianne Druker

【会 場】 ラン 2

【発表日】 7月15日(日) 【発表時間】 14:00-14:30

【演者】 Kerianne Druker¹, Janet Beilby², Dr. Neville Hennessey³, Dr. Trevor Mazzucchelli⁴

【所 属】 カーティン大学（英国）

【連絡先】 Janet Beilby - j.beilby@curtin.edu.au and

Kerianne Druker - kerianne.bloch@postgrad.curtin.edu.au

【要約】 吃音のある子どもは吃音のない子どもに比べ自己調整スキルが低い。特により重度の吃音をもつ子どもはより自己調整スキルが低く、また、逆も真であることを研究は示している。これは、自己調整が小児の治療に対する反応の在り方を左右しているかもしれないことを示唆するものである。本発表では、衝動性の高い子どもの行動に現れる、自己調整スキルの低さが吃音治療に対する小児の反応に与える影響を検討した。更に、診療所を受診する衝動性の高い合併症を伴う吃音のある子どもの割合を記す。これは、将来の臨床的な優先順位付けとケース数管理に役立つものである。

発表言語：英語

317 吃音のある子供の会話中の談話分析：単一注意条件と二重注意条件との比較

Conversational Discourse Analysis of Children Who Stutter: Single versus Dual Attention Conditions

【発表者】 Janet Beilby

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:50-16:20

【演 者】 Janet Beilby

【所 属】 カーティン大学(英国)

【連絡先】 Janet Beilby - J.Beilby@curtin.edu.au

【要約】

この研究は吃音のある学齢児(CWS)の自己モニターと短慮(hypervigilance)の特質を検討した。CWSと吃音のない小児の二重課題における会話の中の談話への影響を会話だけの条件と比較した。会話の発話サンプルを、15の対話変数を用いて分析した。結果は、二重注意課題では、吃音のない子どもでは、適切な対話スキルの減退が見られたが、CWSでは見られなかったことを示した。これらの結果はCWSが本質的に過活動的な自己監視システムを持つという仮説を支持するものであり、さらに重要なこととして、吃音のない小児よりも二重注意課題においてより回復力が高いことが示唆された。

発表言語：英語

321 吃音とCOM-Bモデル：変化をもたらす因子の探求

Stuttering and the COM-B model: exploring the factors that drive change

【発表者】 Kevin Paul Fower

【会 場】 会議運営事務室3

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 16:40 - 17:40

【演 者】 Kevin Paul Fower

【所 属】 マイケル・ペイリン吃音センター

【連絡先】 Kevin Paul Fower kevin.fower@nhs.net

【要約】

吃音治療後の変化の過程を十分に理解し、長期的に介入の効果を最大化するためには、介入の機能的側面および変化の「活性成分」を特定する必要がある。このセミナーでは行動変化理論、特に変化の障害因子、促進因子を特定、理解する上で使われる理論的基礎を持った包括的枠組みであるCOM-Bモデルを導入する。発表は治療の目標と変化のプロセスの関係および臨床的実践の意義について探求する。

発表言語：英語

327 吃音とともに生き、成功するための重要な概念の探求：発見の旅

Exploring Key Concepts for Surviving and Thriving with Stuttering: A Journey of Discovery

【発表者】 Hanan Hurwitz

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 16:30–17:30

【演 者】 Hanan Hurwitz

【所 属】 国際吃音学会、イスラエル吃音協会、学会組織チーム

【連絡先】 Hanan Hurwitz hanan.hurwitz@gmail.com

【要約】

周知のように、吃音は複雑な状態である。この状態を管理し、どうやって、それとともに生きるだけでなく成功するかを学ぶことは、著者の考えでは、吃音の事実と吃音に関する我々の思いや信念を扱う数多くの重要な概念の理解により、実現される。この知識は吃音のある人に活力を与えると同時に、効果的な治療方法を見つけるのに苦勞する臨床家にとっても極めて重要である。

発表言語：英語

【口頭発表】

328 吃音当事者のニーズを満たす：見て、感じて、経験するカウンセリング手法

Meeting the Needs of People Who Stutter: Seeing, Feeling, and Experiencing Counseling Approaches

【発表者】 Heather Salvo¹, Alison LaJuett², Scott Palasik²

【会 場】 ラン1

【発表日】 7月14日（土） 【発表時間】 13:30–14:30

【演者】 Heather Salvo¹, Alison LaJuett², Scott Palasik²

【所 属】 1. ケント州立大学（米国）、2. アクロン大学（米国）

【連絡先】 Heather Salvo hsalvo@kent.edu

【要約】

この発表の目的は、吃音に関連する思考や感情に対処する治療的応用を臨床家と吃音にある人に提供することであり、これは患者、臨床家双方によって応用可能である。心理療法原理における正式な臨床経験の欠如のため、臨床家はこれらの療法を治療的環境につなげることに困難を感じることもありうる。吃音がどのように関係者全員に影響を与えるかに対処する治療は、吃音のある多くの人にとって臨床的に適切であり、必要でもある。このセッションはカウンセリング手法の経験的学習を実証し、その機会を提供することを目的としたものである。

発表言語：英語

330 吃音の臨床を行う個人開業言語療法士の経験と洞察

Experiences and insights from private practice SLPs

【発表者】 Kate Bridgman

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 14:40—15:10

【演 者】 Kate Bridgman, Shane Erickson

【所 属】 ラ・トロブ大学 (オーストラリア)

【連絡先】 k.bridgman@latrobe.edu.au

【要約】 個人開業として働く言語療法士 (SLPs) には根拠に基づいた業務を行うために臨床試験治療プロトコルを説明することが要求される。多くのオーストラリアの小児科の個人開業は、特別な流暢性のためのクリニックではなく、一般のクリニックと考えられている。結果として、業務の技能や幅は SLP にとって倫理的ジレンマとなる。この混合型順次研究デザインは現在、吃音のある子供の治療に当たる個人開業の SLP の業務、認識、自信のスコープを策定しようとしたものである。個人開業における小児吃音治療の成功への障害因子、促進因子を検討し、個人開業治療の文脈に対応する将来の説明研究に対する提案を行う。

発表言語：英語

【口頭発表】

332 吃音のある親が吃音のある我が子をもつ経験：質的研究

Parents who stutter's experience of having a child who stutters: A qualitative study.

【発表者】 Åse Sjøstrand

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 14:40—15:10

【演 者】 Ina Storm-Paulsen¹, Åse Sjøstrand²

【所 属】 1. オスロ成人教育サービス (ノルウェー)、2. Statped (ノルウェー)

【連絡先】 Åse Sjøstrand ase.sjostrand@statped.no

【要約】 この質的研究の目的は AWS がどのようにして吃音児の親となる経験—初期研究では見逃されてきた経験—をするのかを説明することである。自分が吃音を持つと認識しており、過去に吃音があったか今でも吃音のある幼児をもつ 6 名の親を対象に質的半構造化面接を実施した。参加者の大多数は、自分の子どもが吃音を発症し始めて以降、自分自身の吃音に対する態度の変化を経験した。彼らは全員、自分の子どもの障害に対応する上で自分自身の吃音が、殊に支援や安らぎを与えようとするときに、有益な資源になると認識していた。

発表言語：英語

340 論理感情行動療法（REBT）を使った吃音への対応：インドからの最新情報の提供

Coping with stuttering using Rational Emotive Behavior Therapy (REBT): Updates from India

【発表者】 Pallavi Kelkar

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 13 日（金） 【発表時間】 16 : 00-16 : 30

【演者】 Pallavi Kelkar^{1, 2, 3, 4}

【所属】 1. ルビー・ホール・クリニック（インド・マハーラーシュトラ州プネー）、
2. ジュピター病院（インド・プネー）、3. オーチド学校（インド・マハーラーシュトラ州プネー）、4.
高齢者施設（インド）

【連絡先】 Pallavi Kelkar - howto.utterperfection@gmail.com

【要約】

吃音者の「肯定的変化」は吃音の重症度の軽減と態度、参加率、QOL の向上により構成される複雑な変数である。この研究は吃音に論理情動行動療法（REBT）を言語療法と並行して用いることにより、どのようにホーリスティックで長期的な肯定的結果をもたらすことができるかを説明する。小児、成人への個人あるいは集団療法にそれを用いることが、各カテゴリーの活動とともに検討された。インドの社会文化的状況を背景として、この手法の恩恵を受けた人々の症例研究の概要を示す。

発表言語：英語

341 吃音およびクラタリング評価のための影響度尺度（ISACS）の開発および検証：予備データ

Development and validation of Impact Scale for Assessment of Cluttering and Stuttering (ISACS): Preliminary data

【発表者】 Pallavi Kelkar

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 14 日（土） 【発表時間】 13 : 20-13 : 50

【演者】 Pallavi Kelkar^{1, 2, 3, 4}, Maya Sanghi^{5, 6, 7}, Sneha Chaudhari⁷

【所 属】 1. ルビー・ホール・クリニック（インド・マハーラーシュトラ州プネー）、2. ジュピター病院（インド・プネー）、3. オーチド学校（インド・マハーラーシュトラ州プネー）、4. 高齢者施設（インド）

【連絡先】 Pallavi Kelkar - howto.utterperfection@gmail.com

【要約】

吃音の影響度の評価にはいくつかのツールがあるが、クラタリングのための同じようなツールは現在まで報告されていない。その上、インドでは影響度評価ツールが不足している。Impact Scale for Assessment of Cluttering and Stuttering（吃音およびクラタリング評価のための影響度尺度：ISACS）を構築し、その信頼性、妥当性を検証した。149 人の対象者より得られたデータ解析により、ISACS が信頼性があり妥当なツールであると思われることが明らかになった。流暢性障害、性別、障害の重症度を通じた反応の傾向、および個別項目への反応傾向を検討した。所見の臨床的および研究の意義を明確に示した。

発表言語：英語

343 FluencyBank : 臨床家と研究者のための無料で多言語対応の流暢性と言語リソース

FluencyBank: free multi-lingual fluency and language resources for clinicians and researchers

【発表者】 Nan Bernstein Ratner

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 13 : 30-14 : 30

【演 者】 Nan Bernstein Ratner¹, Brian MacWhinney²

【所 属】 1. メリーランド大学 (米国)、2. カーネギーメロン大学 (米国)

【連絡先】 Nan Bernstein Ratner - nratner@umd.edu

【要約】

このセッションでは十数個の言語 (例 : 英語、日本語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ヘブライ語、ドイツ語、オランダ語、ポルトガル語、北京語、広東語) を通じた無料ソフトウェア分析を含む、新しい FluencyBank イニシアチブ (fluency.talkbank.org) の研究、臨床、教育リソースを再検討する。無料プログラムは患者・参加者発話サンプル 1 つの転記から自動的に実行される詳細な流暢性計算、言語分析、音声分析—の有益な分析を促進するものである。SLP/SLT の研究者および大学教員は言語共同体を通じて、データを入手し、数多くの臨床教示例を使用することができる。英語、日本語によるリソースへどうアクセスしたらよいか、データにどのように貢献できるかなどのユーザーガイドが示される。

発表言語 : 英語と日本語

346 音節言語 (中国語) におけるシラブルタイムドスピーチを用いた吃音の軽減

The reduction of stuttering using syllable-timed speech in speakers of a syllable-timed language

【発表者】 Thomas Law

【会 場】 ラン 1

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 17 : 10-17 : 40

【演者】 Thomas Law^{1,2}, Ann Packman¹, Mark Onslow¹, Carol, K.-S. To², Michael C.-F. Tong², Kathy Y.-S. Lee²

【所 属】 1. オーストラリア吃音研究センター、2. 香港中文大学

【連絡先】 Thomas Law thomaslaw@ent.cuhk.edu.hk

【要約】 音節を一定のリズムで同じ長さでいうシラブルタイムドスピーチは、流暢性をあげると長く知られてきた。広東語は、音節言語の中でもリズムの最もはっきりした言語である。しかし、広東語でシラブルタイムドスピーチが西欧言語のように吃音に寄与するかはわかっていない。この研究では広東語話者のシラブルタイムドスピーチを用いて効果を確認した。臨床上だけではなく、吃音の言語的誘因についての有意な理論的示唆を得られる結果を得られた。

発表言語 : 英語

347 吃音のある子ども・吃音のない子供との間における言語音のカテゴリ―知覚の比較

Categorical perception of the speech sounds by children who do and do not stutter

【発表者】 Mehdi Bakhtiar

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 14 : 00— 14 : 30

【演 者】 Mehdi Bakhtiar, Caicai Zhang, SO Sze Ki

【所 属】 香港工科大学

【連絡先】 Mehdi Bakhtiar m.bakhtiar@polyu.edu.hk

【要約】

この研究の目的は特定の音の音響変化を音韻カテゴリ―に分類する個人の能力に関係のあるカテゴリ―知覚パラダイムを通じて、CWS と CWNS の音韻処理を比較することである。暫定的所見では CWNS と比較し CWS でカテゴリ―知覚における如何なる差も支持されなかったが、反応速度は CWS で遅いことが判明した。よって、一般的に CWS の音声表現は CWNS と同等であるかもしれないが、この情報に適時にアクセスすることは、CWNS に比べ CWS では低下しているかもしれないことが示唆された。

発表言語：英語

354 吃音を抱える若者のためのインタラクティブな交流：ういすたプロジェクトのワークショップ

Interactive exchange for young people who stutter: The We-Stutter-Project workshop

【発表者】 Daichi Iimura

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7 月 13 日（金） 【発表時間】 16:40 - 17:40

【演 者】 Daichi Iimura^{1,2,3}, Daiki Kurosawa^{1,4}, Hayato Araki^{1,5,6}, Koichi Hirose^{1,7}

【所 属】 1. ういーすたプロジェクト、2. 富家病院、3. NPO 法人どーもわーく、4. 太田総合病院、5. 名古屋言友会、6. 三重言友会、7. 言友会

【連絡先】 Daichi Iimura - d.iimura274@gmail.com

【要約】 ういーすたプロジェクトは吃音のある若者向けの自助団体である。当団体ではあらゆる考え、信念、主義を否定せず、受け入れ、尊重することを大切にしている。本発表では世界中の吃音のある若者が集まり、交流を行えるワークショップを実施する。ワークショップ内では、当団体の普段の活動を再現し、交流主体の自己紹介ゲーム、テーマ別トークなどを行う。参加者にとって居心地の良い、快適な空間を提供したい。

発表言語：英語（日本語資料あり）

361 レバノン、ポーランド、スロバキア、チェコにおける調査「吃音に対する支援への個人的評価-成人版-」

Personal Appraisals of Support from Stuttering Adults in Lebanon, Poland, Slovakia, and the Czech Republic

【発表者】 Katarzyna Węsierska, Selma Saad Merouwe, Nouhad A. Melhem

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 14 : 40-15 : 10

【演 者】 Katarzyna Węsierska¹, Selma Saad Merouwe², Nouhad A. Melhem², Jan Dezort³, Hana Lacikova⁴, Kenneth O. St. Louis⁵

【所 属】 1. シレジア大学 (ポーランド)、2. サン・ジョセフ大学 (レバノン)、3. チャールズ大学 (チェコ共和国プラハ)、4. CpPP 児童音声研究所 (スロバキア)、5. ウェストバージニア大学 (米国)

【連絡先】 Katarzyna Węsierska – katarzyna.wesierska@us.edu.pl

【要約】

流暢性障害に関する誤った情報が吃音のない多数派の間で一般的に共有されていることを研究は示している。吃音のある人とどのように関わった方がいいのか、またはどのように支援するかに関する提案は、広く知られているものの、このような提案を支持する証拠はほとんどない。本研究では吃音のあるポーランド人、スロバキア人、チェコ人、レバノン人が、聞き手の一般的な反応や吃音についてのコメント中からサポートされているという感覚をどれほど感じているかを探究した。上記 4 か国の参加者は Personal Appraisal of Support for Stuttering - Adults : 吃音のある成人の支援への個人的評価 (St. Louis, 2015) を記入した。 研究所見を北アメリカで最近行われた研究と比較した (St. Louis et al., 2017)。

発表言語 : 英語

364 博士課程に在籍する大学院生のための円卓会議フォーラム

PhD Student Round Table Discussion Forum

【発表者】 Kerianne Druker

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 16 : 30-17 : 30

【演 者】 Kerianne Druker

【所 属】 国際流暢性学会研究出版委員会 ; カーティン大学 (オーストラリア)

【連絡先】 Kerianne Druker kerianne.bloch@postgrad.curtin.edu.au

Tom Weidig tom.weidig@gmail.com

【要約】 博士課程学生円卓会議フォーラムは、博士課程の学生に各人の研究分野を結びつけ共有する機会を構築することならびに現在の流暢性研究の基盤における問題を検討することを目指したものである。更に、IFA 委員によって進行されている会議であるが、将来的に博士課程の学生の長期に及ぶネットワークに発展し、相互支援を提供し、世界規模での現代の研究の取り組みについて情報を共有する可能性につながるだろう。

発表言語 : 英語

368 就学児の吃音の管理：臨床的判断を促すものは何か？

Management of stuttering in school-age children: What drives clinical decisions?

【発表者】 Sally Hewat

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 13:20-13:50

【演者】 Sally Hewat¹, Rachael Unicom¹, Anna Hearne²

【所 属】 1. ニューキャッスル大学（オーストラリア）、2. マッセー大学（ニュージーランド）

【連絡先】 Sally Hewat - Sally.Hewat@newcastle.edu.au

【要約】

吃音のある児にとって、学生時代は特に困難であるかもしれない。この時期、吃音が益々手に負えないものとなり、そればかりか、就学と同時に障害の心理社会的影響が浮き彫りになる可能性があるからである。しかし、この年代における吃音の治療についての研究証拠は非常に限られている。より大きな研究事業の一環として、世界中の言語療法士の現在の管理実践を調査した19の半構造化面接が行われた。暫定分析では、現在の吃音のある就学児童における治療方針は国によって異なり、多くの言語療法士が学齢児童のコミュニケーションのニーズを満たすために個別的で多角的アプローチを採用していることが示唆された。

発表言語：英語

【口頭発表】

371 パリン親子インタラクソン療法：吃音のある幼児をもつ親への支援

Palin Parent-Child Interaction Therapy: Supporting parents to help the young child who stutters

【発表者】 Elaine Kelman¹, Ali Berquez¹

【会 場】 ラン1

【発表日】 7月14日（土） 【発表時間】 16:00-17:30

【演 者】 Elaine Kelman¹, Sharon Millard^{1,2}, Ali Berquez¹

【所 属】 1. マイケル・ペイリン吃音センター（英国）2. ロンドン大学シティ校（英国）

【連絡先】 Elaine Kelman - elainekelman@nhs.net

【要約】 このセッションの目的はパリン親子インタラクソン療法（Kelman & Nicholas, 2008）の目的、原理、方法を参加者に紹介することである。この療法は多因子による手法であり、間接および直接的な療法を取り入れ、7歳未満の幼児の流暢性を促進させ、子どもと親への影響を削減し、子どもを支えてゆく親の自信を高めるようとするものである。参加者にはこの手法の概要とプログラムを支持する証拠の要約を提供する。

発表言語：英語

372 ポーランドー英語2か国語話者における吃音と正常範囲の非流暢性：言語間相関

Stuttering and Typical Disfluencies in Polish-English Bilinguals: Cross-Linguistic Correlates

【発表者】 Aleksandra Krawczyk, Martine Vanryckeghem, Katarzyna Węsierska

【会 場】 会議運営事務室1

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 17:10-17:40

【演 者】 Aleksandra Krawczyk¹, Martine Vanryckeghem¹, Katarzyna Węsierska²,
Anthony Pak Hin Kong¹

【所 属】 1. セントラルフロリダ大学(米国)、2. シレジア大学(ポーランド)

【連絡先】 Aleksandra Krawczyk akrawczy@knights.ucf.edu

【要約】 2か国語話者の数が益々増えるに従い、言語療法士は吃音のある2か国語話者を評価、治療する課題に直面することになる。この研究は吃音のあるポーランドー英語2か国語話者における吃音の種類と頻度、及び正常範囲の非流暢性について調査する。ポーランド語と英語は音韻論的および形態的統語論的に全く異なるため、これらの言語は非流暢性に貢献しうる言語間相関を比較する根拠を与える。この研究は非流暢性の種類と頻度及び多様な発話課題を通じた発話速度の分析により、言語間相関の理解を促進するものである。

発表言語：英語

380 養成プログラムの教育課程に組み入れられた吃音シミュレーション臨床講義：2つの学生コホート群の結果

A stuttering simulation clinic embedded into program curricula: Results across two student cohorts

【発表者】 Adriana Penman

【会 場】 ラン1

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 16:00 - 16:30

【演者】 Adriana Penman¹, Anne Hill¹, Sally Hewat², Nerina Scarinci¹

【所属】 1. クイーンズランド大学（オーストラリア）、2. ニューキャッスル大学（英国）

【連絡先】 Adriana Penman a.penman1@uq.edu.au

【要約】臨床教育においてシミュレーションは学生に安全で標準化された学習経験を提供する一つの方法である。また、それは吃音のような特定の実習分野に学生が触れる機会を増やすものである。学生は理論的な科目より吃音に関する知識を得るが、その知識を臨床業務に応用する機会は限られていることが多い。この二段階よりなる研究は、吃音シミュレーション臨床講義後の学生の臨床能力と、吃音管理に関する知識、技能、自信に対する学生の認識を調査することを目的としたものである。結果は学生の臨床能力と認識度の向上を示し、臨床活動のシミュレーションはこの臨床人口の治療に対する学生の自信を向上させたことを示した。

発表言語：英語

381 アフリカにおける吃音の実態

Stuttering in Africa

【発表者】 Amenyo Akagla

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7月15日(日) 【発表時間】 14:40 - 15:10

【演 者】 Amenyo Akagla

【所 属】 相互扶助のための青少年活動と吃音との戦い

【連絡先】 Amenyo Akagla barthelemyak@yahoo.fr

【要約】アフリカでは、吃音は不治の病であり呪いであるとみなされている。吃音のある人に対する利用可能な支援は極めて限定的で、支援を提供できる療法士は実質的なリソースも経済的なリソースもなく、政府の方針は存在しない。吃音に関連する組織は複数あるものの、様々な理由により、進展は遅い。アフリカでは、吃音のある人たちの社会教育的分野および職業分野においての参加を促進する建設的なアクションを起こすための新しい政策が必要である。

発表言語：英語

384 吃音セラピーとセルフヘルプ、そして科学との隔たりを埋める試み：公開討論

Attempts to bridge the divide between stuttering therapy, self-help, and science: A panel discussion

【発表者】 Caryn Herring, Seth Tichenor, Chris Constantino, Naomi Hertsberg Rodgers, Scott Palasik

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7 月 13 日（金） 【発表時間】 13 : 30 – 15 : 00

【演者】 Caryn Herring¹, Seth Tichenor¹, Chris Constantino²
Naomi Hertsberg Rodgers³, Scott Palasik⁴

【所 属】 1. ミシガン州立大学（米国） 2. メンフィス大学（米国） 3. アイオワ大学（米国）
4. アクロン大学（米国）

【連絡先】 Caryn Herring caryn@msu.edu

【要約】

セルフヘルプ（自助）の活動や支援団体の普及と、吃音セラピーの否定的な経験により、吃音のある人の中には、言語療法士や従来の発話療法と距離を置くことを選択した者がいる。このような正規のセラピーとセルフヘルプとの隔たりの拡大について検討する。吃音をもつ言語療法士は吃音の治療法とセルフヘルプに対して独自の観点を提示する。この公開討論の中で、6 人のパネリストが吃音のある当事者として、言語療法士として、吃音研究の研究者としての個人的及び職業的経験を共有する。彼らの経験を通じた共通性や特異性を検討し、治療、セルフヘルプ（自助）、プロフェッショナルな調整、研究に関する繊細な視点を提示する。

発表言語：英語

395 脆弱 X 症候群と非症候性自閉スペクトラム症におけるクラタリング

Gluttering in fragile X syndrome vs. nonsyndromic autism spectrum disorder

【発表者】 Kathleen Scaler Scott, Jessica S. Kisenwether, Charley Adams

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 14 日（土） 【発表時間】 14 : 00 – 14 : 30

【演 者】 Kathleen Scaler Scott¹, Jessica Klusek², Jessica S. Kisenwether¹
Charley Adams², Angela John Thurman³, Leonard Abbeduto³

【所 属】 1. ミザリコーディア大学（米国）、2. サウスカロライナ大学（米国）
3. カリフォルニア大学デイビス校（米国）

【連絡先】 Kathleen Scaler Scott kscott@misericordia.edu

【要約】 クラタリングは一般集団の間では比較的稀であるものの、新しい暫定的調査結果では、クラタリングの有症率は知的障害を持つ個人において有意に上昇することが示されている。この研究では脆弱 X 症候群が自閉症スペクトラム症による知的障害をもつ男性におけるクラタリングの有症率を調査した。その結果、脆弱 X 症候群と自閉症スペクトラム症に関連する知的障害を持つ男性の約 3 分の 1 が、最低共通分母法（LCD）の定義を使って専門の聞き手により評価されるクラタリングの基準を満たしたことが示唆された。この所見は知的障害のあるケースに対するクラタリングの評価と治療について意義のあるものであった。

発表言語：英語

396 吃音とメンタルヘルス：吃音に対する啓発と治療のための権利擁護の国際的取り組み

Stuttering and Mental Health -International Advocacy Efforts for Awareness and Treatment

【発表者】 Mark Irwin, Gerald Maguire, Annie Bradberry, Nan Bernstein Ratner

【会 場】 会議運営事務室3

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 14:40—15:10

【演者】 Mark Irwin^{1,2}, Gerald Maguire^{1,3,4}, Annie Bradberry^{1,5}, Nan Bernstein Ratner^{1,6}

【所属】 1. 国際流暢性学会、2. オーストラリア・スピーチ・イージー協会、3. アメリカ吃音協会（米国）、4. カリフォルニア大学（米国）、5. 国際クラタリング学会、6. メリーランド大学（米国）

【連絡先】 Mark Irwin mark.irwin42@gmail.com

【要約】

吃音症は脳卒中、糖尿病、心臓病と同様に、QOLと関連付けられることは示されているものの、それに対する財政支援は他の疾患と比べ、ずっと少なく、依然として理解が不十分である。なぜだろうか？何ができるのか？IFAの会員団体（consumer group）は吃音の専門コミュニティに対して、吃音発話症候群の概念を採用することを要求している。吃音発話症候群とは、QOLと流暢性に対して負の影響をもつことが知られている社交不安障害が吃音と織り交ざっているという概念である。我々は言語療法士が社交不安障害を日常的にスクリーニング検査し、陽性の場合は、公認のメンタルヘルスの専門家と多分野のケアとして協働することを決定した。

発表言語：英語

399 吃音当事者にとっての受容されることの価値：傾聴と話し合いの機会

The value of acceptance for people who stutter - an opportunity to listen and discuss

【発表者】 Carolyn Cheasman, Rachel Everard

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月13日（金） 【発表時間】 16:40—17:40

【演 者】 Carolyn Cheasman, Rachel Everard

【所 属】 シティ・リット（英国）

【連絡先】 Carolyn Cheasman carolyn.cheasman@citylit.ac.uk

【要約】吃音当事者（PWS）と言語療法士（SLP）が参集したこの対話型発表では、受容されることの意味、その価値、受容されることをセラピー中とセラピー外とで育成するにはどうしたらよいかに注目する。我々は吃音を回避することの影響、PWSが吃音の経験に対してオープンになる方法や、よりオープンになることを推進するよう働きかけるSLPの役割を探究する。我々の目的は、PWSとSLPが互いの経験を共有し学び合う機会を提供するために、文献と個人的および臨床的経験に基づき、この重要な議題に関する有用な背景情報を提供することである。

発表言語：英語

401 吃音のある成人のための吃音緩和法の結果：効果の分析

Outcomes of Stuttering Modification Therapy for Adults who Stutter: Making a Difference

【発表者】 Rachel Everard

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月16日（月） 【発表時間】 14：40-15：10

【演 者】 Rachel Everard^{1,2}, Peter Howell¹

【所 属】 1. ロンドン大学（英国）、2. シティ・リット（英国）

【連絡先】 Rachel Everard rachel.everard@citylit.ac.uk

【要約】吃音のある人に対する介入手法は多様にあり、このことは、吃音の複雑で多次元的本性を反映している。表面的な発話変化を標的とした手法の方が、吃音緩和法のように吃音と態度の双方の変化に注目する手法よりも、より広範な証拠基盤をもっている。吃音緩和法の効果を評価するべく企画された混合方法の研究を紹介する。8人の参加者は3つの時点で5つの標準評価を受けた。質的データはフォーカスグループと半構造化面接にて収集された。定量データおよび質的データの結果は、吃音緩和法の効力を支持した。臨床診療と今後の研究への意義を考察した。

発表言語：同時通訳

【口頭発表】

403 吃音経験者の声：セラピーの種類とニーズに関する観点

Voices of Experience - perspectives on therapy type and need

【発表者】 John Steggles, Geoff Johnston

【会 場】 会議運営事務室1

【発表日】 7月16日（月） 【発表時間】 13：30-14：30

【演 者】 Mark Irwin^{1,2}, John Steggles³, Geoff Johnston⁴

【所属】 1. 国際流暢性学会、2. オーストラリア・スピーチ・イーザー協会
3. 国際吃音者連盟、4. マグワイア - プログラム

【連絡先】 Mark Irwin mark.irwin42@gmail.com

【要約】

著明なプレゼンターによるこの討論は、幅広い国際的観点に深く精通する生きた吃音経験をもつ3人の見解、意見を示すものである。Q&A方式で紹介され、司会者は専門家や当事者を一様に悩ませる多くの問題に関するパネリストの考えを求める。治療、再発、吃音の心理学的側面、治療するか否か、吃音とともに生きること、高齢人口における吃音、支援団体の役割、受け入れるか拒絶するか、吃音治療の未来などなどの議題が検討される。ワークショップは聴衆の意見、討論への参加を奨励する。

発表言語：英語

406 集団への高質な情報の提供によって親に活力を与える遠隔医療技術の活用

Using telehealth to empower parents by providing high quality information within a group setting

【発表者】 Karoline Hoff, Ane Hestmann Melle

【会 場】 ラン 1

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 16 : 40-17 : 40

【演 者】 Karoline Hoff, Ane Hestmann Melle

【所 属】 Statped (ノルウェー)

【連絡先】 Ane Hestmann Melle ane.hestmann.melle@statped.no

【要約】 吃音初期段階において吃音に関する情報を提供することは、親に活力を与える上で重要であると思われる。この発表の目標は言語療法士がいかにして集団への情報提供の目的のために遠隔医療技術を使うことができるかを説明することである。プレゼンターは試験事業の中で利用された活動やリソースの事例を示す。吃音のある子を持つ親の、ミーティングに参加する前後の、我が子の吃音をマネージメントすることについての親の自信に関するデータを紹介する。遠隔医療を使い、集団に質の高い情報を提供することについて重要であろう要因について検討する。

発表言語 : 英語

409 ヨーロッパ流暢性障害臨床専攻 (ECSF) : 10 講座サイクルのレビュー

The European Clinical Specialization on Fluency Disorders (ECSF): Review of ten course cycles

【発表者】 Joseph Agius, Kurt Eggers, Margaret Leahy

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 16 : 30-17 : 30

【演者】 Joseph Agius¹, Kurt Eggers², Margaret Leahy³

【所属】 1. マルタ大学 (マルタ)、2. トーマスモアカレッジ (ベルギー)
3. ダブリン大学トリニティ・カレッジ

【連絡先】 Kurt Eggers kurt.eggers@thomasmore.be

【要約】 ヨーロッパ流暢性障害臨床専攻 (European Clinical Specialization Fluency Disorders : ECSF) は流暢性障害をもつ者と関わる上での知識および技能を身につけたい言語療法士のための 1 年の専門コースである。このコースは 10 か国 (ベルギー、フィンランド、ドイツ、ギリシア、アイルランド、マルタ、スウェーデン、オランダ、イギリス、アメリカ) における 16 の大学と臨床センターの大学教員および臨床職員によって運営されている。この発表では、参加者にとって最適な学習環境を構築するため、過去 10 年でどのようにコースが進化したかについて検討し、(2) 卒業生による学習結果と便益に関するオンライン調査の結果を報告する。

発表言語 : 英語

410 吃音のある青少年における変化へのレディネスの評価

Assessing Change Readiness Among Adolescents Who Stutter

【発表者】 Patricia Zebrowski, Naomi Hertsberg Rodgers, Hope Gerlach

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 10:45-11:45

【演 者】 Patricia Zebrowski, Naomi Hertsberg Rodgers, Hope Gerlach

【所 属】 アイオワ大学（米国）

【連絡先】 Patricia M. Zebrowski tricia-zebrowski@uiowa.edu

【要約】我々は、吃音のある青少年における不服従と再発は共に、行動変容の「変化の段階モデル」により説明できるであろうと提案する。従来の吃音セラピーの方略とそれを積極的に学習し活用しようとする思春期のレディネス（心づもり）との不一致によって生じると考える。本発表では、我々は研究プログラムの結果を説明することで、吃音のある10代の青少年における行動変容の段階を基礎としたモデルの妥当性を検証し、我々の所見の臨床的意味合いについて検討する。

発表言語：同時通訳



412. 未来の臨床家の養成：患者－臨床家間の連携を向上させる専門家としての行動規範の指導

Educating Future Clinicians: Teaching Professional Behaviors to Improve the Client-Clinician Alliance

【発表者】 Shelley B. Brundage

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 15：50-16：20

【演 者】 Shelley B. Brundage

【所 属】 ジョージ・ワシントン大学（米国）

【連絡先】 Shelley B. Brundage brundage@gwu.edu

【要約】

効果的な臨床を行うにあたって不可欠である専門的・対人的行動は多く存在する。また、専門的ではない感覚を作ることが出来る資質もある。専門的、非専門的行動を操作するのは難しく、将来の臨床家に教授することも難しい。このセッションはウォンポールド博士の基調講演に従い、治療の共通因子に目をむけ、専門家としての振舞いを定義するこれらの行動について考え、また学生の職業意識や質の高い臨床的関わりを評価、養成するための方法を考察する。

発表言語：英語

【口頭発表】

416 動物を利用した流暢性障害の治療：パイロット研究

Animal assistance in Fluency treatment- a pilot study

【発表者】 Teresa Paslawski, Holly Lomheim

【会 場】 ラン 1

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 15：50-16：20

【演 者】 Teresa Paslawski, Holly Lomheim

【所 属】 アルバータ大学（カナダ）

【連絡先】 Teresa Paslawski teresa.paslawski@ualberta.ca

【要約】

吃音治療プログラムにおける動物介在介入（AAI）を調査するパイロット研究の所見を報告する。また、言語療法における AAI の現状——イヌと調教師チームをどのように治療に組み込むのかに関する説明や、今後の発展のための考察——を簡単に概観する。この研究がリハビリテーション全般に関する、殊に流暢性治療に関する将来の研究を特徴づけ、リハビリテーション医療の治療選択肢に直接影響を与えることになる我々は期待している。

発表言語：英語

425 メッセージの情動的内容は吃音時に問題となるか？

神経学および心理物理学的反応からのデータ

Does emotional content of the message matter when stuttering? Data from neurological and psychophysical responses.

【発表者】 Glen Tellis, Cara Imbalzano, D' manda Price, Elizabeth Heinmiller, Jordan Seprosky, Cari Tellis

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 17:10-17:40

【演者】 Glen Tellis¹, Cara Imbalzano¹, D' manda Price¹, Elizabeth Heinmiller¹, Jordan Seprosky¹, Denis Anson¹, Cari Tellis¹, Rickson Mesquita², Sergio L. Novi Jr.², Arjun Yodh³

【所属】 1 ミザリコーディア大学（米国）, 2. カンピナス大学（ブラジル）
3. ペンシルバニア大学（米国）

【連絡先】 Glen Tellis gtellis@misericordia.edu

【要約】

この研究の目的は、吃音のある男女がそれぞれの吃音の肯定的経験と否定的経験に関して話している動画を、標準的に流暢な話者（TFS）が見た時の心理物理学的反応および血行動態反応を計測することであった。自律神経システム（ANS）ソフトウェアとハードウェア及び機能的近赤外分光法（fNIRS）を同時に用いて、吃音音声の動画刺激時に、TFSの脳におけるANS反応とヘモグロビン濃度を決定した。暫定結果では、吃音のある人を知らないTFSは刺激中にANS反応が高いことが示された。両半球内のヘモグロビン濃度の比較は、情動処理の差を示した。

発表言語：英語

429 音韻意識の基盤となる神経処理過程の違い：吃音の持続する幼児と回復する幼児

Neural processes underlying phonological awareness differentiates persistence and recovery in young children who stutter

【発表者】 Gregory J. Spray

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 16:30-17:00

【演 者】 Gregory J. Spray, Amanda Hampton Wray

【所 属】 ミシガン州立大学（米国）

【連絡先】 Gregory J. Spray spraygre@msu.edu

【要約】

音韻スキルとその発達の軌跡は、吃音のある児（CWS）と流暢な小児とで異なることが良くある。CWSの中では、ほかの言語スキルと共に音韻スキルが、最終的な持続と回復を区別するかもしれない。本研究は音韻認識の基礎となる神経機構が、将来的に吃音が持続する5歳児（CWS - ePer）と、回復する5歳児（CWS - eRec）の間でどう異なるかを評価した。本研究の所見では、CWNSがCWS - ePerよりも音韻標的を

より早期に弁別できることが示された。また、CWS - ePer は音韻処理において CWNS や CWS - eRec とは異なる神経パターンを呈した。これらの所見は CWS - ePer における音韻処理的神経プロセスの発達の長期化を示唆するものである。

発表言語：英語

【口頭発表】

430 流暢性障害を専門とする言語療法士の臨床効果の促進：エビデンスに基づく治療をはるかに超えて

Improving the effectiveness of fluency therapists: above and beyond evidence-based treatments

【発表者】 Kurt Eggers

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7 月 16 日（月） 【発表時間】 14 : 40-15 : 10

【演 者】 Kurt Eggers

【所 属】 トーマスモアカレッジ（ベルギー）；トゥルク大学（フィンランド）、

【連絡先】 Kurt Eggers kurt.eggers@thomasmore.be

【要約】

EBP、EBT、そしてガイドラインは重要なツールと考えられるが、「効果的な臨床家」（e. g., Manning, 2009）になるためには、他の側面が同等に重要であると証明されるかもしれない。さらに、証拠に基づく治療を行う能力そのものは臨床家の効率を増進する上で十分ではないように思われる（Rousmaniere, Goodyear, Miller, & Wampold, 2017）。よって、この発表を通じ、我々は以下の重要性を主張する。

（a）臨床家の効率を高める理想的な教育方略（b） 臨床家が共通因子を考慮しつつ、EBP モデルをセラピーに組み込む妥当な手段の提供、の 2 つである（Barth et al., 2012）。

発表言語：英語

431 吃音当事者から吃音の大学教授そして吃音のある子供をもつ親へ

From Person Who Stutters, to Professor of Stuttering, to Parent of a Child Who Stutters

【発表者】 Jason H. Davidow

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 13 : 30-14 : 30

【演 者】 Jason H. Davidow

【所 属】 ホフストラ大学 (米国)

【連絡先】 Jason H. Davidow - jason.davidow@hofstra.edu

【要約】

この発表は吃音当事者として、吃音分野の学術研究者として、吃音の息子の治療に関わる父としての私の人生を記録したものである。学術的および臨床的な論点と、私の個人的な話（私自身の経験、感情を含む）が絡み合い、出席者はこのような論点がどう私の人生、私の息子の人生、そして恐らく他の多くの人々の人生に影響を与えたかを理解することになる。論点には、情報拡散が遅いということ、未就学児の吃音治療は自然治癒率を向上させるどうか、吃音のある児の目標としての流暢性対受容、などが含まれる。

発表言語：英語

433 リッカムプログラムと RESTART - DCM に基づく治療を比較した RESTART 試験の長期的結果：

暫定結果の報告

Long-term outcomes of the RESTART trial comparing Lidcombe Program and RESTART-DCM based treatment: preliminary results

【発表者】 Marie-Christine Franken

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 15 : 50-16 : 20

【演 者】 Marie-Christine Franken¹, Toni Rietveld², Elly Stolk³

【所 属】 1. エラスムス大学医療センター (オランダ)、2. ラドバウド大学 (オランダ)、3. EuroQol Research Foundation (オランダ)

【連絡先】 Marie-Christine Franken m.franken@erasmusmc.nl

【要約】

De Sonnevile と Stolk、Rietveld、Franken (2015) は「RESTART」と呼ばれるランダム化比較試験 (RCT) において、RESTART - 需要と能力ベースの治療とリッカムプログラムを比較した。ランダム化後 18 カ月で、2 つの治療法は同等の結果を示した。この発表では、ランダム化より 18 カ月経過後の評価より更に 5~8 年後の暫定的な長期結果 (小児の自己記入式データ (OASES a.o.)、親の評価、教師の評価) を紹介する。

発表言語：同時通訳

442 RESTART - DCM アプローチによる吃音のある未就学児の気質的問題に対する治療

Treatment of temperamental issues in stuttering pre-school children within the RESTART-DCM approach

【発表者】 Marie-Christine Franken, Ellen Laroës

【会 場】 ラン 1

【発表日】 7月16日（月） 【発表時間】 13:30-14:30

【演 者】 Marie-Christine Franken¹, Ellen Laroës^{2,3}

【所 属】 1. エラスムス大学医療センター（オランダ）、2. ズイード応用化学大学（オランダ）、3. 民間音声吃音治療施設（オランダ）

【連絡先】 Marie-Christine Franken m.franken@erasmusmc.nl

【要約】 RESTART 研究 (De Sonnevile et al. 2015) は未就学児を対象にリッカムプログラム (LP) の結果を、RESTART (RESTART - DCM) の要求-能力モデル (Demands and Capacities Model) に基づく治療と比較した。このランダム化比較試験の結果 (n=199)、ランダム化 18 か月後の LP と RESTART - DCM は同等の結果を示した。よって、ともに証拠に基づく治療法と考えられ、親には治療の選択肢が与えられうる。この口頭発表では、RESTART - DCM 治療の簡潔な概要を示し、その後、この手法における 4 領域の一つである、情緒の領域について集中的な実演を行う。

発表言語：英語

452 吃音のある子供へのいじめを撲滅するには

Minimizing Bullying for Children Who Stutter

【発表者】 J Scott Yaruss, Caryn Herring, Seth Tichenor, Nina Reardon-Reeves

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 13:30-15:00

【演 者】 J Scott Yaruss¹, Caryn Herring¹, Seth Tichenor¹, Nina Reardon-Reeves²

【所 属】 1. ミシガン州立大学（米国）、2. フリスコ独立学校（米国）

【連絡先】 J Scott Yaruss jsy@msu.edu

【要約】 いじめは吃音児にとって重大な問題となりうる。だが、いじめの発生と影響を軽減する手助けをするために言語療法士ができることは多数ある。この発表では小児を助ける包括的ないじめの管理プログラムを説明する (Murphy et al., 2013)。(a) 吃音といじめについてさらによく学習することでいじめの経験に用意周到に対応すること；(b) 吃音に関する懸念を軽減し、いじめの言葉の害を軽減すること；(c) いじめに適切に対応すること；(d) 吃音といじめについて小児、親、教師に教育すること、誰もが協力し、いじめを撲滅して、子どもの助けになることができる。

発表言語：同時通訳

453 職場での吃音を再定義する：労働者吃音ネットワーク

Redefining Stammering at Work - The Employers Stammering Network

【発表者】 Iain Wilkie, S. Simpson

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月16日（月） 【発表時間】 10：45-11：45

【演 者】 Iain Wilkie¹, S. Simpson²

【所 属】 吃音のある雇用者ネットワーク（英国）

【連絡先】 Iain Wilkie iainwilkie1@yahoo.co.uk

【要約】

「吃音のある者全員が自分の最大限の職能を実現するための文化を構築する」ため、労働者吃音ネットワーク（Employers Stammering Network：ESN）が2013年発足した。ESNも現在ではすっかり定着し、この発表では、吃音をもつ従業員が職場でより成功し充実感を得られるようにESNがどのような支援をしているかを共有する。ESNの価値、活動、個人的成功を紹介する。ESNがどのような形で、吃音のある人が成功し自分の能力を最大限に発揮できるように労働環境を適応させる意欲のある雇用主を支援しているかという事例も紹介する。

発表言語：同時通訳

454 言語療法士と吃音当事者の協働による利点と落とし穴

Benefits and pitfalls of SLTs and PWS working together

【発表者】 Joana Caldas, Jaqueline Carmona

【会 場】 会議運営事務室3

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 13：20-13：50

【演 者】 Joana Caldas^{1,3}, Jaqueline Carmona^{2,3}

【所 属】 1. ポルトガル工科大学ポリテクニク研究所 2. ポルトガル Alcoitão 保健学校、3. PIN - ポルトガル発達センター

【連絡先】 Jaqueline Carmona jaqueline.carmona@gmail.com

【要約】ポルトガル吃音連盟（Portuguese Stuttering Association：PSA）と言語療法士（SLT）は15年以上におよぶ協働の歴史がある。SLTとPSAは情報を拡散するため様々な場面で協働している。PWSは自分の吃音の実体験と日常的な困難や課題を共有し、SLTはPWS、SLTの学生、そしてその他の人々（例えば、PWSの家族）に吃音に関する証拠に基づいた情報を提供している。我々の知る限り、それぞれのグループが相手の提供した情報にどれだけの価値を付与するかは未だ研究されていない。この研究と発表はこれらのグループが情報共有をどれだけ重要視しているかを探究する。

発表言語：英語

457 幼児の吃音セラピー：間接法？直接法？併用？あるいはいずれも使用しない？

Early Childhood Stuttering Therapy: Indirect or Direct? Both or Neither?

【発表者】 J. Scott Yaruss

【会 場】 ラン 1

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 13 : 30-15 : 00

【演 者】 J. Scott Yaruss

【所 属】 ミシガン州立大学 (米国)

【連絡先】 J. Scott Yaruss jsy@msu.edu

【要約】

この発表は吃音のある幼児に対して、間接的セラピーか、直接的セラピーかという議論を巡るいくつかの重要な問題を再検討するものである。間接法、直接法、オペラント条件付け法の主要な原則を比較対照するとともに、各手法の類似性も考察する。発表の最終目標は、実際に使われている特定の手法に関わらず、治療の成功に繋がるであろう潜在的な「共通因子」を特定することである。

発表言語：英語

【口頭発表】

458 「雪の上に足跡はない」全米吃音協会 (NSA)

“No Tracks in the Snow” National Stuttering Association (NSA)

【発表者】 Tom R. Scharstein

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 16 : 00-16 : 30

【演 者】 Tom R Scharstein

【所 属】 アメリカ吃音協会 (NSA)

【連絡先】 Tom R. Scharstein tomscharstein@yahoo.com

【要約】

最近、「NEW NSA」と称される the National Stuttering Program' s Adult Programs Leadership Team (National Stuttering Program の成人プログラム・リーダーシップチーム) は、我々の吃音コミュニティーにおいて強力な勢力に変貌を遂げてきた。リーダーシップチームの「設定」構造と、現在の自助・支援グループの成功の力学が探究され 詳述される。概念的にいうと、新しい場所に旅行する際には、「雪の上の足跡はない (No Tracks in the Snow)」が、計画を実行しながら、さらなる進化を遂げていくのである。

発表言語：同時通訳

460 吃音のある成人のワーキングメモリと運動反応抑制

Working Memory and Motor Response Inhibition in Adults Who Stutter

【発表者】 Geoffrey A. Coalson

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 50-16 : 20

【演 者】 Geoffrey A. Coalson

【所 属】 ルイジアナ州立大学 (米国)

【連絡先】 Geoffrey A. Coalson gcoals1@lsu.edu

【要約】 この研究では成人吃音者と成人非吃音者 (AWS、AWNS) におけるワーキングメモリと行動抑制の間の潜在的な関係を探究した。参加者には二つの運動抑制課題 (行く・行かない課題、停止・信号課題) を実施し、その後、記憶課題を実施した。その記憶課題とは、言語的或いは視覚的事物の処理課題 (OSPAN, RSPAN, SSPAN) を挟んだり挟まなかったりしながら非言語的に想起するものである。暫定的な結果が示したのは、以下であった。(a) 停止・信号課題で AWS において反応抑制が遅延したが、行く・行かない課題ではそれが見られなかった (b) 記憶する項目数は群同士で同等であったが、間に挟む試行において、AWS の方がより誤謬が多かった (c) AWS で運動抑制と言語的ワーキングメモリの負の相関がみられたが、AWNS では見られなかった。

発表言語 : 英語

461 支援の一環としての家族の自助経験に関する質的ナラティブ研究

A qualitative narrative study of a family' s experience with self-help as part of intervention

【発表者】 John A. Tetnowski, Jennifer T. Tetnowski

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 14 : 00-14 : 30

【演 者】 John A. Tetnowski, Jennifer T. Tetnowski

【所 属】 ルイジアナラファイエット大学 (米国)

【連絡先】 John A. Tetnowski tetnowski@louisiana.edu

【要約】 最近の研究では、吃音のある人 (PWS) の兄弟や両親の役割が調査されている。また、別の研究では、PWS の成果に影響を与える自助の力について示されている。このセミナーではこれらの要因を質的研究と一体化させ、ある 10 代の少年と彼の家族の治療の経過を追跡した。書面での語りの主題分析が、本研究の基礎である。一人の吃音のある人と 6 人のその家族は、個人セラピーを受け、地域の自助団体および全国自助団体の会議に導かれた。主要な主題は不確実性、保守的な態度、学習経験などが含まれていた。所見は、治療成果を改善させる方法について示唆を与えるものである。

発表言語 : 英語

462 吃音のある小児と成人の自己開示の臨床的有用性

The clinical utility of self-disclosure for children and adults who stutter

【発表者】 Courtney Byrd, Zoi Gkalitsiou, Elizabeth Hampton, Danielle Werle

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:50-16:20

【演 者】 Courtney Byrd, Zoi Gkalitsiou, Elizabeth Hampton, Danielle Werle

【所 属】 テキサス大学（米国オースティン）

【連絡先】 Courtney Byrd courtney.byrd@austin.utexas.edu

【要約】 この口頭発表では、子どもや大人が吃音のある人々にもつ負の印象を低減する方略として、自己開示の効果を調査した一連の研究を再検討する。言明の性質（つまり、中立的か弁解的か）およびそれがどう聞き手の印象を左右するかに関する更なる情報を提供する。性差や吃音のある人との過去の遭遇、最も効果的な自己開示の声明の差異など、臨床的な意義を検討する。

発表言語：同時通訳

【口頭発表】

463 Camp Dream. Speak. Live. の効果：吃音のある子どものための短期集中治療プログラム

Benefits of Camp Dream. Speak. Live: An intensive treatment program for children who stutter

【発表者】 Courtney Byrd, Elizabeth Hampton, Zoi Gkalitsiou, Danielle Werle, Katie Winters

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月15日(日) 【発表時間】 14:40-15:10

【演 者】 Courtney Byrd, Elizabeth Hampton, Zoi Gkalitsiou, Danielle Werle, Katie Winters

【所 属】 テキサス大学（米国オースティン）

【連絡先】 Courtney Byrd courtney.byrd@austin.utexas.edu

【要約】 この研究の目的は吃音者の情動および認知的要素に対処するよう設計された集中治療プログラム、Camp Dream. Speak. Live. に参加した治療結果を探究することである。参加者は59人の吃音のある子ども（年齢幅7~14才）であった。結果は、コミュニケーション態度、仲間同士の関係の認識において有意な改善を示し、吃音の全体的なQOLに対する著明な影響の低下が短期間で実現可能なこと、それが長期間維持可能なことが示された。

発表言語：英語

465 クラタリングの認知および情動的側面の質的研究

A Qualitative Study on the Cognitive and Affective Aspects of Cluttering

【発表者】 Yvonne van Zaalen, Isabella Reichel

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7月16日(月) 【発表時間】 14:40-15:10

【演 者】 Yvonne van Zaalen¹, Isabella Reichel²

【所 属】 1. フォンティス大学(オランダ)、2. トゥーロカレッジ(米国)

【連絡先】 Isabella Reichel isabella.reichel@touro.edu

【要約】

目的: この研究はクラタリングのある人(PWC)が負の認知や感情を経験するのか、ICFの基準である生活の参加に制限を感じるのかを調査する。方法: この質的研究は半構造化面接を含む。視覚的評価スケール(Visual Analogue Scale: VAS)を使い、PWCの生活参加への制限を測定した。結果: 以下の主テーマが浮かび上がった。症候、受け入れ、認知、情動、参加の効果、環境反応、適応メカニズム、そしてクラタリングが障壁となる最も挑戦的な状況。結論: 参加者はクラタリングによる負の認知、情動を報告した。全参加者がクラタリングの受け入れに困難を示し、その結果に対応しようとしていた。

発表言語: 英語

466 クラタリング当事者のための聴覚 - 視覚フィードバック訓練効果

Efficacy of Auditory-Visual Feedback Training for People who Clutter

【発表者】 Yvonne van Zaalen, Isabella Reichel

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 14:40-15:10

【演 者】 Yvonne van Zaalen¹, Isabella Reichel²

【所 属】 1. フォンティス大学(オランダ)、2. トゥーロカレッジ(米国)

【連絡先】 Isabella Reichel isabella.reichel@touro.edu

【要約】

1. 目的: クラタリング当事者(PWC)をモニターする困難に対処する最善の方略の一つが聴覚 - 視覚フィードバック(AVF)を使った訓練である。この研究の主要な目的は、AVF訓練がPWCにおけるモニタースキルの向上に効果的であるか否かを決定することである。2. 方法: 参加者は、単一言語話者若しくは二か国語話者で、学歴は中程度から高学歴のオランダ人男性21名、女性13人。3. データ解析: マルチレベル分析を実行し、特定の症例に対する治療効果を評価した。4. 結果: 暫定的な所見では、AVFの訓練は大半の患者において流暢性と理解度の向上に長期持続性効果を持った。

発表言語: 英語のみ

468 吃音のゲノムワイド関連解析：遺伝学的所見

Genome-Wide Association Study of Stuttering -Genetic Findings

【発表者】 Shelly Jo Kraft

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 14:40-15:10

【演 者】 Shelly Jo Kraft¹, Jennifer Below²

【所 属】 1. ウェイン州立大学 (米国)、2. ヴァンダービルト大学 (米国)

【連絡先】 Shelly Jo Kraft kraft@wayne.edu

【要約】

ゲノムワイド関連症例対照デザインは、遺伝的リスクを調査する家族ベースの系統分析に対して見込みある代替デザインである。ゲノムワイド関連解析は、一般母集団に見られる中程度から大規模な影響を及ぼす共通変数を検出するのに有効であり、吃音の発現への付加的かつ対話的貢献をする。原因遺伝子と伝達モデルの同定を目的とした、現在までに提起された吃音の最大の遺伝研究は800人の血縁関係のない吃音者と3000人の子孫を統一した対照群とさらに別のトップ信号を複製した1000症例と1000対照群のゲノムワイド遺伝リスクを調査する。

発表言語：英語

【口頭発表】

469 吃音当事者のための自助活動：専門家と活動主催者のための委員が薦めるエチケット

Self-Help Activities for People Who Stutter: Committee Recommended Etiquette for Professionals and Activity Leaders

【発表者】 Mitchell Trichon

【会 場】 コスモス 2

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 16:00-16:30

【演 者】 Mitchell Trichon^{1,2}, Erik X. Raj³

【所 属】 1. 吃音ソーシャル、2. ラサール大学 (米国)、3. モンマス大学 (米国)

【連絡先】 Mitchell Trichon mitchelltrichon@gmail.com

【要約】

この研究の目的は、専門家が吃音のある人 (PWS) の自助活動に参加する際の、自助活動内での推奨礼儀作法について学習することである。推奨礼儀作法は177名のPWS、言語療法士 (SLP)、吃音のあるSLPにより記入される質問票の結果およびPWSのための自助活動の分野で幅広い経験を持つ委員の協力により生まれる。

発表言語：英語

470 けいれん性発声障害の流暢性障害：吃音様非流暢性および非吃音様非流暢性の分析

The fluency disorder of spasmodic dysphonia: analysis of stuttering-like and nonstuttering-like disfluencies

【発表者】 Michael P. Cannito, John A. Tetnowski, Monica L. Johnson, Brittany F. Rutland, Jennifer T. Tetnowski

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 14 日(土) 【発表時間】 16 : 30-17 : 00

【演 者】 Michael P. Cannito, John A. Tetnowski, Monica L. Johnson, Brittany F. Rutland, Jennifer T. Tetnowski

【所 属】 ルイジアナラファイエット大学（米国）

【連絡先】 John A. Tetnowski tetnowski@louisiana.edu

【要約】

この研究論文では、吃音様非流暢性（SLD）と非吃音様非流暢性（NSLD）を内転型けいれん性発声障害（ADSD）をもち、ボトックス注射療法を受けた 42 人と対照群とで比較した。参加者はボトックス注射療法を受ける前後で「虹」の一段落を読んだ。結果、SLD において ADSD と対照群との間に有意な差が見られたが、NSLD において両群にそのような差は見られなかった。一つの下位群（重度非流暢性 ADSD 群）においてのみ、SLD のボトックス注射療法前後間で差が見られた。治療と今後の研究への意味合いについて検討する。

発表言語：英語

471 国際クラタリング研究フォーラム：10年に及ぶ連携の成功

International Cluttering Association Forum: 10 Years of Successful Collaboration

【発表者】 Isabella Reichel, Yulia Filatova, Maisa Haj-Tas, Pallavi Kelkra, Shoko Miyomoto, Yayoi Shimizu, Shu-Lan Yang, Yvonne van Zaalen

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7月 13 日(金) 【発表時間】 13 : 30-14 : 30

【演 者】 Isabella Reichel¹, Grace Ademola-Sakoya², Véronique Aumont Boucan³, Judit Bona⁴
Jaqueline Carmona⁵, Marjan Cosyns⁶, Yulia Filatova⁷, Maisa Haj-Tas⁸, Pallavi Kelkra⁹
Shoko Miyomoto¹⁰, Sertan Ozdemir¹¹, Reina Remman Rmeih¹², Maya Sanghi¹³, Alexandra
Schne¹⁴, Yayoi Shimizu¹⁵, Shu-Lan Yang¹⁶, Yvonne van Zaalen¹⁷

【所 属】 1. トーロカレッジ（米国）、2. ナイジェリア国立整形外科病院、3. パリ大学（フランス）、
4. EötvösLoránd大学（ハンガリー）、5. Alcoitão 保健学院（ポルトガル）、6. ベルギー公衆
衛生研究所、7. モスクワ教育大学（ロシア）、8. ヨルダン大学（ヨルダン）、9. ルビーホール
クリニック（インド）、10. 筑波大学（日本）、11. イスタンブールメディポール大学（トル
コ）、12. 民間クリニック（レバノン）、13. 民間機関（インド）、14. アーヘン大学（ドイ
コ）、15. 美幸小学校（日本）、16. 台湾国立屏東大学（台湾）17. フォンティス大学（オランダ）

【連絡先】 Isabella Reichel isabella.reichel@touro.edu

【要約】

ICA の創設から10 年で、会員数、イニシアティブの幅、クラタリングの分野における科学的発見の多様性は増し続けている。アフリカ、アジア、（西、東）ヨーロッパ、中東、北米、南アメリカの18の国から20 人の研究者による国際的連携の微視的世界で、研究、臨床問題、教育、市民の認識、支援団体など、クラタリングに関する異なるテーマを探究する。

発表言語：英語

472 多くの聴衆が参加する吃音の論理感情行動療法（REBTS）遠隔セラピー技法の実演

Demonstrations of Rational Emotive Behavior Therapy of Stuttering (REBTS) Teletherapy Techniques With Extensive Audience Participation

【発表者】 Gunars K. Neiders, Heather Grossman

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月16 日（月） 【発表時間】 13：30-14：30

【演 者】 Gunars K. Neiders^{1,2}, Heather Grossman²

【所 属】 1. 民間機関（米国）、2. 米国吃音研究所（米国）

【連絡先】 Gunars K. Neiders neidersg@comcast.net

【要約】

口頭発表ではどのように吃音の論理情動行動療法（REBTS）を効果的に遠隔療法に組み込むかを示す。聴衆は対話的REBTS自助フォームの使用、音声・動画オンオフ演習、スクリーン共有を利用した電子メディア（または本）で細部のポイントの説明、e-mail によるセッション中の宿題作成、およびその遠隔治療セッションの録画と振り返りに参加する。各手法はREBT理論と実践の基礎を紹介し明確にする。REBTSの様々な定義と治療方略が探究される。パイロット研究のまとめをディカッションに含む。

発表言語：英語

【口頭発表】

478 モスクワ教育大学で流暢性障害の講座を開講した教育成果

Educational Outcomes of Teaching Fluency Disorders Course at Moscow Pedagogical State University

【発表者】 Yulia O. Filatova

【会 場】 会議運営事務室3

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15：50-16：20

【演 者】 Yulia O. Filatova

【所 属】 モスクワ教育大学（ロシア）

【連絡先】 Yulia O. Filatova - yofilatova@yandex.ru

【要約】

本稿ではSLPになろうと考えている学生のために二つの「流暢性障害」講座1と講座2の構成と内容を示す。講座1は2015年に設計され、2年間実施された。講座2は米国吃音協会（Stuttering Foundation of America）によって開催された「吃音の本性と治療講座の設計」ワークショップ（2016）での研修後に設計され、2017/2018の学年で指導された。研究は講座1と講座2で学んだ学生の教育成果を比較した。

発表言語：英語

479 吃音のある成人のための探求型ストレス解消法（IBSR）のランダム化比較臨床試験

Randomized controlled clinical trial of Inquiry Based Stress Reduction (IBSR) technique for adults who stutter

【発表者】 Omrit Feldman

【会 場】 会議運営事務室 3

【発表日】 7 月 14 日（土） 【発表時間】 16 : 30-17 : 00

【演 者】 Omrit Feldman¹, Shahar Lev-Ari^{1,2}, Eran Goldstein^{2,3}

【所 属】 1. テルアビブ大学（イスラエル）, 2. テルアビブ医療センター（イスラエル）, 3. AMBI（イスラエル吃音協会）

【連絡先】 Omrit Feldman omritfel@gmail.com

【要約】 探求型ストレス解消法（IBSR）は、ストレスや苦痛を引き起こす思考を体系的に認識、探索できるストレス解消介入法である。IBSR は多様なストレス、苦痛、緊張、不安状況において、QOL、精神的健康、ストレス管理の点で正の影響があることが判明した。この手法は幅広い集団で調査されたものの、吃音のある成人に対する IBSR の影響を検証する研究は行われていない。この研究はこの集団における全体的な吃音経験、QOL、心理学的測度に対する IBSR 技法の効果を調査するものである。

発表言語：英語

483 吃音当事者への臨床を通して自閉症スペクトラムの特性を同定した言語療法士の経験：3つの症例研究から

SLT experience working with PWS and identifying autism spectrum features during therapy: Three Case Studies

【発表者】 Andžela Šteinberga

【会 場】 会議運営事務室 1

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 13 : 20-13 : 50

【演 者】 Andžela Šteinberga

【所 属】 ラトビア言語療法士協会、ラトビア自閉症協会

【連絡先】 Andžela Šteinberga andzela@latnet.lv

【要約】 この言語療法士 (SLT) は重度の吃音がその他の特性を覆い隠すことがありうるということを経験した。この例では、初期には、コミュニケーション障害は吃音によるという前提に立っていたが、より詳細な調査で、その個人が自閉症スペクトラムであった可能性が示唆された。言語療法セッション中、語用論的課題と同じくらいに、発話と言語に関するその他の困難さが明らかとなった、この発表では吃音があり、同時に自閉症スペクトラムの人々におけるコミュニケーションと治療の側面を浮き彫りにする。

発表言語：英語

485 アプリを通じた音声と言語評価の暫定的な技術および倫理的所見

Preliminary technical and ethical findings of an assessment of speech and language through an app

【発表者】 Avin Mirawdeli, Jenny Gibson

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 16:30-17:00

【演 者】 Avin Mirawdeli, Jenny Gibson

【所 属】 ケンブリッジ大学 (英国)

【連絡先】 Avin Mirawdeli am2623@cam.ac.uk

【要約】 流暢性とその他のコミュニケーション障害に対する早期発見と介入は、患者の最適な結果のために重要である。我々は小児の発話および言語障害のリスクを評価する親や教育者が利用できるアプリを開発する予備的研究を紹介する。その意図は親や教育者に力を与え、自信と、専門家サービスへ照会のための情報を提供することである。我々は、自動化した音声・言語評価の技術的側面ならびにアプリを大規模に実装することに関する倫理的および実用上の配慮点について検討する。

発表言語：英語

488 クラタリング：「ロードマップ」を使用した治療ガイド

Cluttering: A Treatment Guide Using "ROAD MAPS"

【発表者】 Lesley Wolk

【会 場】 会議運営事務室3

【発表日】 7月16日(月) 【発表時間】 13:30-14:30

【演 者】 Lesley Wolk

【所 属】 民間機関 (米国)

【連絡先】 Lesley Wolk lesleywolk@sbcglobal.net

【要約】

この発表では、治療目標の開発のための頭字語として ROAD MAPS を使いクラタリングのための治療ガイドを提供する。この論文では流暢性、言語、構音、語用論、心理社会的・認知的機能の各次元に沿ってクラタリングの症候学と重要な徴候について検討する。吃音とクラタリングの鑑別診断に関して流暢性評価を検討する。また併発病態も考察する。治療の主要な目標の詳細説明と推奨応用を含む治療ガイドを紹介する。今後の研究への提案をする。

発表言語：英語

489 吃音：持続的な発達性吃音の症例における反応停止および内在的な意思決定

Stuttering: Reactive stopping and intrinsic no-go decisions in the case of persistent developmental stuttering

【発表者】Torrey Loucks

【会 場】ヒマワリ

【発表日】7月14日(土)

【発表時間】17:10-17:40

【演者】Anna Tondera¹, Torrey Loucks¹, Thomas Gunter², Nicole Neef²

【所属】1. アルバータ大学(カナダ)、2. 人間認知脳科学研究所(ドイツ)

【連絡先】Anna Tondera tondera@ualberta.ca

【要約】思考と行為を抑制することは、脳の能動的で持続的なプロセスである。最近のMRIを使った研究で、吃音において主要な皮質・皮質下抑制経路の非典型的な機能のエビデンスが見つかった(1)。吃音の運動抑制に関する行動学的研究を実施し、神経画像的所見の示唆を更に探究した。停止信号パラダイムを採用し、吃音のある成人(AWS)の音声反応と手の反応の逆向性および順向性抑制を検証した。AWSでは抑制反応時間が変化し、開始した運動反応を停止するのに失敗することが増えると我々は予測した。これは、抑制性大脳基底核ループの非定型機能と一致する。

発表言語：英語

【口頭発表】

494 吃音のある成人のための個人セラピー：発話・不安・回避行動の評価

Individualized therapy for adults who stutter: An evaluation of speech, anxiety and avoidance behaviour.

【発表者】Hilda Sønsterud

【会 場】ラン 1

【発表日】7月15日(日)

【発表時間】17:10-17:40

【演 者】Hilda Sønsterud^{1,2}, Melanie Kirmess^{1,3}, Margrethe Seeger Halvorsen¹, Kristin Billaud Feragen⁴, David Ward⁵

【所 属】1. オスロ大学(ノルウェー)、2. Statped(ノルウェー)、3. サンナースリハビリテーション病院、4. オスロ大学病院(ノルウェー)、5. レディング大学(英国)、

【連絡先】Hilda Sønsterud hilda.sonsterud@statped.no

【要約】吃音介入への反応に大きな個人差があることを示唆するエビデンスがある。よって、吃音の症状の個人差をより詳細に調査する必要がある。個人の特定の気がかりを治療法の中核に置き、18人の吃音のある成人がこの複数-単一症例実験 ABA デザインの治療研究に参加した。各参加者は一連の身体的変数と心理的変数について、介入前、介入時、介入より6カ月後、12か月後に評価した。「個別の治療パッケージ」の提供は、離脱者が一人も出ないことを支援した。グループ全体で、個別化した吃音治療法が統計的に肯定的で臨床上の有意性と関連付けられた。

発表言語：英語

500 若手研究者フォーラム：研究助成金獲得の成功率を最大限にするための方法

Junior researcher forum: maximizing grant application success

【発表者】 Nan Bernstein Ratner, Soo-Eun Chang

【会 場】 会議運営事務室1

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 17:45-19:15

【演 者】 Nan Bernstein Ratner¹, Soo-Eun Chang²

【所 属】 1. メリーランド大学 (米国)、2. ミシガン大学 (米国)

【連絡先】 Nan Bernstein Ratner nratner@umd.edu

【要 約】

このセッションは若手研究者に対し、研究補助金の最良の資金源について指針と補助金を受けやすくなる申請書作成の仕方ならびに再提出の準備に際して、補助金審査への対応の仕方を伝授する。このセッションはIFA会議への若手研究者の出席を支援する一環として、アメリカの国立聴覚コミュニケーション障害研究所 (NIDCD) により資金提供されたものである。

発表言語：英語

501 若手研究者フォーラム：研究者として雇用・昇任・終身雇用権の獲得を最大限にするための方法

Junior researcher forum: How to maximize success in academic employment, promotion and tenure

【発表者】 Nan Bernstein Ratner, Soo-Eun Chang

【会 場】 会議運営事務室1

【発表日】 7月15日(日) 【発表時間】 17:45-19:15

【演 者】 Nan Bernstein Ratner¹, Soo-Eun Chang²

【所 属】 1. メリーランド大学 (米国)、2. ミシガン大学 (米国)

【連絡先】 Nan Bernstein Ratner nratner@umd.edu

【要 約】

このセッションは学術研究環境における職探しとその維持を最大限に成功に導くにはどうしたらいいかについて、若手研究者へ助言を与える。相対的な強みと需要のある分野を判断する自己評価手段を提供、議論する。おこりうる落とし穴をどう特定し対処するか、そして、専門性、殊にピアレビューによる研究出版分野を育成する機会をどう最大化するかを検討する。このセッションはアメリカのNIDCDの支援を受けている。

発表言語：英語

502 流暢性障害における重要な研究設問に対する当事者・家族・研究者からの視点の統合
：フォーラム

Uniting PWS, PWC, family and researcher perspectives on the important research questions in fluency disorders: a forum

【発表者】 座長 - Nan Bernstein Ratner,

パネリスト: Annie Bradberry, Hanan Hurwitz, Kathleen Scaler Scott

【会 場】 ヒマワリ

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 10:45-11:45

【演 者】 Nan Bernstein Ratner¹, Charley Adams^{2,3} Annie Bradberry^{4,5},
Hanan Hurwitz^{4,6}, Kathleen Scaler Scott⁷

【所 属】 1. メリーランド大学 (米国) 2. 国際クラタリング協会 3. 南カリフォルニア大学 (米国)
4. 国際吃音者連盟、5. アメリカ吃音協会 (NSA) 6. イスラエル吃音協会、
7. ミゼジコルディア大学 (米国)

【連絡先】 Nan Bernstein Ratner nratner@umd.edu

【要 約】

医療サービスにおける患者およびサービス利用者エンゲージメント (PSUE) 研究は増加しているものの、吃音研究においては優先順位の設定について<利害関係者>の関与についてのエビデンスは少ない。このセッションでは、大会前に収集した、主要な関係者の優先順位の最も高い研究設問についての調査結果を簡単に報告し、そこを出発点として、当事者 (PWS) と家族にとって最も意味のある受託研究と権利擁護の取り組みを推進することができるような優先順位付けを行えるよう、研究者と受益者の間の交流を働きかける。

発表言語：同時通訳

503 クラタリングの課題：問題点と解決策

Quandaries in Cluttering: Current issues and potential solutions

【発表者】 Kathleen Scaler Scott

【会 場】 ラン2

【発表日】 7月15日(日) 【発表時間】 16:00-17:30

【演 者】 Kathleen Scaler Scott

【所 属】 ミゼジコルディア大学(米国)

【連絡先】 Kathleen Scaler Scott kscott@misericordia.edu

【要 約】

このワークショップでは、クラタリングの分野で現在みられる問題点について概観する。この分野について研究や関心が増えてきているとはいえ、世界的に繰り広げられている最新研究や治療手続きに注ぐ情熱に見合うほどの進歩は見られない。クラタリングの研究、治療、教育についての問題について考える。エビデンスに基づいた研究からの実例や臨床事例を紹介する。進展を妨げているものに対する解決策の可能性、クラタリング分野をさらに進めていくものについても提案する。

発表言語：英語

504 ワールド・カフェ「ことばがつながひとつの世界」

World Café – One World, Many Voices

【発表者】 立川 英雄 (Hideo Tatsukawa)

【会 場】 コスモス2

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 16:00-17:30

【演 者】 立川 英雄¹ (Hideo Tatsukawa) 齊藤 圭祐¹ (Keisuke Saito)

前新 直志² (Naoshi Maebara) 原 由紀² (Yuki Hara)

【所 属】 1. NPO法人全国言友会連絡協議会 2. 日本吃音・流暢性障害学会

【連絡先】 立川英雄 nagoriyuki_ws2002@yahoo.co.jp

【要 約】

このワークショップは、5団体全ての方の参加をお待ちしています。吃音当事者も、その家族も、研究者も、セラピストもご参加ください。参加者が、吃音をテーマに自然に浮かび上がってくる想いや疑問、体験や知恵、情報を共有しましょう。多くの声をお互いに聴きながら、語り合う場を持ちたいです。日本のセルフヘルプグループの実践では、多くの気づきと共感、新たな知識や洞察を生んできました。世界の皆さんと、そのような時間を共有しませんか。

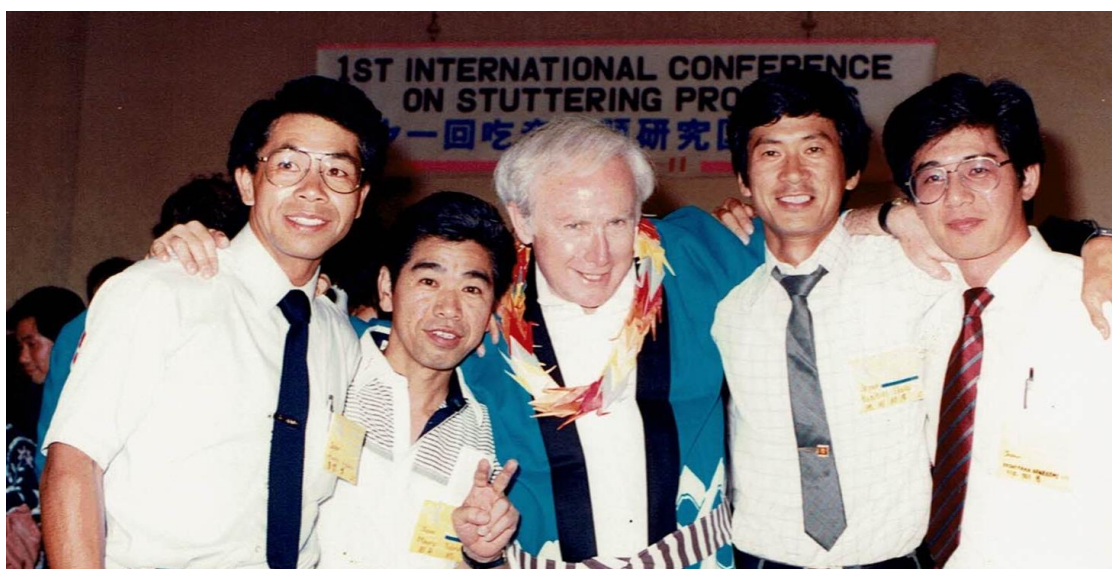
発表言語：日本語と英語



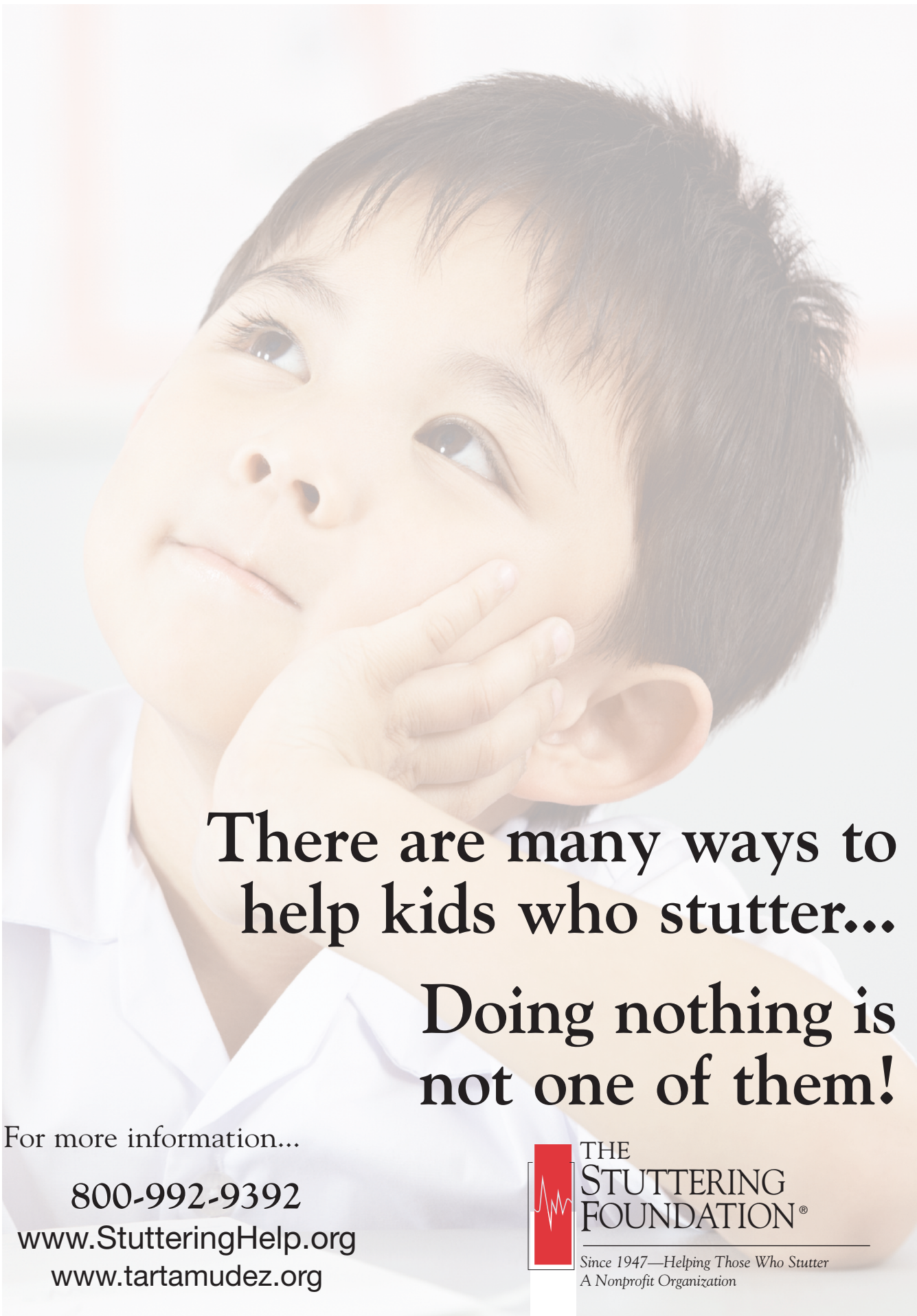
JAPAN STUTTERING GENYUKAI ASSOCIATION

全国言友会連絡協議会（全言連：JSGA）は1968年に東京で設立されました。全言連の目的は、吃音のある人のセルフヘルプ・グループである各地言友会を支援するとともに、各地言友会間の交流や連絡を促進することです。各地の言友会はそれぞれが独立して運営されており、全言連は各地言友会を代表する団体として全国的な活動を行っています。全言連には、日本の社会において4つの目的を持っています。

- (1) 官公庁やマスコミ、その他団体に対する窓口機能を担うこと
- (2) 吃音のある人のための、全国事業、あるいは地域事業を実施すること
- (3) 吃音に対する認知度向上や公的支援の獲得を図るため、吃音がある人のための社会的支援を推進すること
- (4) 言友会の新規設立など、吃音のある人のための地域活動を推進すること



吃音体験談の書籍、言友会Tシャツの販売
を行っています！



**There are many ways to
help kids who stutter...**

**Doing nothing is
not one of them!**

For more information...

800-992-9392

www.StutteringHelp.org

www.tartamudez.org



**THE
STUTTERING
FOUNDATION®**

*Since 1947—Helping Those Who Stutter
A Nonprofit Organization*



【ポスター発表】

2 吃音と環境要因

Stuttering and environmental factors

【発表者】伊藤 光 (Hikaru Ito) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演者】伊藤 光 (Hikaru Ito)

【所属】愛知学院大学

【連絡先】HIKARU ITO- ag17z012@g.agu.ac.jp

【要約】

吃音の重症度よりも周りの環境要因のほうが重要であることをテーマにしています。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

5 都市型大学病院における外来吃音臨床の現況と課題

Status and challenges of a stuttering clinic in an urban university hospital

【発表者】藤本 依子 (Yoriko Fujimoto) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演者】藤本 依子¹ (Yoriko Fujimoto) 阪本 浩一² (Hirokazu Sakamoto)

【所属】1. 大阪市立大学病院リハビリテーション科 2. 大阪市立大学耳鼻咽喉科

【連絡先】

【要約】

都市型大学病院の言語外来における臨床統計から吃音外来の現況と課題について検討する。2010年度と2015年度、2016年度に吃音を主訴として来院した患者を対象に検討を行った。2010年度の患者は4%、2015年度17%、2016年度16%であった。その結果2015-6年度において吃音症例が増加した。今後の吃音臨床を進める中で、個々の生活の中での困難さの評価とニーズの把握を質問紙などの利用や小児科との連携の中で進めていく必要があると考えられた。

発表言語: 英語

6 日本語における吃音生起に関与する要因が語の認知に与える影響

The influence of factors related to the occurrence of stuttering on word perception in Japanese

【発表者】小田 桃子 (Momoko Oda) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演者】小田 桃子¹ (Momoko Oda) 川合 紀宗² (Norimune Kawai)

【所属】1. 広島大学大学院教育学研究科 2. 広島大学学術院

【連絡先】m.oda.h593@gmail.com

【要約】

吃音生起に関与する音声学的な要因が、発話困難性や音読潜時、吃音生起率にどのような影響をあたえるのかについて検討を行った。その結果、吃音者は非吃音者に比べて発話困難性を正確に評価することが困難であり、また、発話困難性と音読潜時の間に相関関係が認められたが、その関係は非吃音者に比べ吃音者は弱い結果となった。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

12 自助団体の活動の地域差に関する考察：ういーすたプロジェクトの活動より

Why do regional differences exist between self-help groups? A discussion through We-Stutt project's activities

【発表者】黒澤 大樹 (Daiki Kurosawa) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演者】黒澤 大樹^{1,2} (Daiki Kurosawa) 荒木 隼人^{1,3,4} (Hayato Araki) 廣瀬 功一^{1,5} (Koichi Hirose) 飯村 大智^{1,6,7} (Daichi Iimura)

【所属】1. ういーすたプロジェクト 2. 太田総合病院附属太田西ノ内病院 3. 名古屋言友会 4. 三重言友会
5. 全国言友会連絡協議会 6. 富家病院 7. NPO 法人どーもわーく

【連絡先】黒澤 大樹、kurowada@gmail.com

【要約】

日本国内の吃音の自助団体において、全国の吃音のある人に適切な自助・支援を行うにあたり活動の活発さに地域差があることは課題であると考えられる。今回、若者吃音者の自助団体「ういーすたプロジェクト」の各地域9箇所質問紙調査を実施した。活発さの要因として「運営のマンパワー」「アクセス」「活動内容の多様さ」などが示唆された。本発表では上記の考察及び今後の課題・展開について検討を行う。

発表言語: 英語

13 VR（バーチャルリアリティ）技術の吃音治療への応用可能性について

The possibility of VR (virtual reality) technology for stuttering treatment

【発表者】梅津 円 (Madoka Umetsu) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演者】梅津 円¹ (Madoka Umetsu) 飯村 大智^{1,2,3} (Daichi Iimura)

【所属】1. NPO 法人どーもわーく 2. ういーすたプロジェクト 3. 富家病院

【連絡先】rifu.mark.tennis@gmail.com

【要約】

VR（バーチャルリアリティ）とは、人の五感を含む感覚を刺激し現実のように感じられる環境を人工的に作り出す技術であり、不安障害などメンタルヘルスの分野で近年臨床応用が行われるようになってい

る。吃音は二次的症候として社交不安障害などを伴うことも多く、不安症候への対応が必要とされている。本発表では吃音治療のアプローチとして、VR 技術の臨床応用の可能性について多少の文献的考察を加えながら検討を行う。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

16 クラタリングースタタリングのある児童の評価と指導

ー速度調整に焦点をあてた認知ー行動的アプローチの経過ー

Treatment of cluttering based on rhythmic synchronization

【発表者】宮本 昌子(Shoko Miyamoto) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演者】宮本 昌子¹ (Shoko Miyamoto) 山崎 詩奈子² (Shinako Yamasaki) 今富 摂子³ (Setsuko Imatomi)

【所属】1. 筑波大学人間系 准教授 2. 筑波大学大学院博士前期課程 3. 目白大学保健医療学部言語聴覚学科准教授

【連絡先】smymt@human.tsukuba.ac.jp

【要約】

クラタリングースタタリングのある児童1名に対し速度調整能力の向上に焦点をあてた指導介入を行った経過を報告する。メトロノームを使用した速度知覚訓練を実施した上で速度調整コントロール訓練に移行したことが、本児の速度調整能力を高めたことが示唆された。

発表言語： 英語

19 リズムが発話流暢性に与える影響の検討

Preliminary investigation of rhythmic effect on fluency of children who stutter

【発表者】山崎 詩奈子 (Shinako Yamazaki)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】山崎 詩奈子¹ (Shinako Yamazaki) 宮本 昌子² (Shoko Miyamoto)

【所属】1. 筑波大学 2. 筑波大学准教授

【連絡先】

【要約】

外的なテンポが提供されると吃音症状が減少することが知られている (Bloodstein, 1995)。Thaut (2005) はリズムによる発話手がかり (Rhythmic Speech Cuing) の同時的作用と発話推進作用及び先行作用に注目し、発話の開始に貢献できるとする。本研究はリズムの先行作用に注目したリズム課題を実施し、リズム打ち課題中と課題実施直後の流暢性の生起を観察することを目的とする。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

22 機能語と内容語における吃音

—日本語を母語とする子供の自由発話の分析—

Stuttering on function and content words in Japanese children of two age groups

【発表者】本間 孝信 (Takanabu Homma)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】本間 孝信¹ (Takanabu Homma) 今泉 敏² (Satoshi Imaizumi)

【所属】1. 広島言友会 2. 県立広島大学

【連絡先】honma1996-nob-suc@nifty.com

【要約】

日本語を母国語とする2つの年齢群の子供の自由発話について、Word class (機能語と内容語)、語長、文中位置が吃音に与える影響を調べた。その結果、高年齢群で内容語の吃音率が高かった。語長が短いと、機能語と内容語の吃音率は同程度であり、語長が長い内容語の吃音率が高かった。年齢群によって文中位置が吃音生起に与える影響の仕方が異なった。それらの結果を、発達の視点、言語間での違い等の視点から考察した。

発表言語: 英語

23 セルフヘルプ・グループにおける当事者同士の相談の実態調査

Characteristics of peer consultations among members of a self-help group.

【発表者】 小林 宏明 (Hiroaki Kobayashi)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 小林 宏明¹ (Hiroaki Kobayashi) 坂田 善政² (Yoshimasa Sakata)

【所属】 1. 金沢大学人間社会研究域学校教育系 2. 国立障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科

【連絡先】 kobah@ed.kanazawa-u.ac.jp

【要約】

吃音のある人のセルフヘルプ・グループ（以下、SHG）に所属する吃音のある 18 歳以上の成人 85 名を対象に、Web 上のフォームを用いた当事者同士の相談の実態調査を行った。その結果、SGH での当事者同士の相談では、相談の姿勢や、吃音のある人としての経験に基づく情報への満足が大きいこと等が示唆された。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

41 経頭蓋直流電気刺激と遅延聴覚フィードバックによる発話流暢性の導出

Induction of speech fluency by using transcranial direct current electrical stimulation and delayed auditory feedback

【発表者】 矢田 康人 (Yasuto Yada)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 矢田 康人^{1,2} (Yasuto Yada) 橋本 龍一郎¹ (Ryuichiro Hashimoto) 富里 周太²³ (Shuta Tomisato) 飯村 大智 (Daichi Iimura)^{4,5}

【所属】 1. 首都大学東京大学院人文科学研究科言語科学教室 2. 日本鋼管病院耳鼻咽喉科 3. 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科学教室 4. 富家病院 5. ういーすたプロジェクト

【連絡先】 yada-yasuto@ed.tmu.ac.jp

【要約】

ブローカ野 (BA) とその対側相同部位 (RBA) および聴覚野 (AC) の活動が吃音生起に及ぼす影響を検討するために、吃音者を対象に経頭蓋直流電気刺激 (tDCS) と遅延聴覚フィードバック (DAF) 条件下での音読課題を行った。その結果、RBA の活動を陰性刺激で抑制した際に吃音頻度が低下し、その効果と重症度の間に有意な相関が見られた。一方 DAF 条件下では非流暢性が増加した参加者もあり、両側 BA と AC のうち RBA の過活動が吃音生起に最も影響している可能性が示唆された。

発表言語： 英語

51 当事者の視点から構築する吃音症の社会モデル

Stuttering as a social construct: An analysis through the presenter's own experience

【発表者】本田 基博 (Motohiro Honda)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】本田 基博 (Motohiro Honda)

【所属】大阪大学大学院人間科学研究科

【連絡先】motohiro202@gmail.com

【要約】

本研究では、発表者自身の当事者としての経験や、吃音当事者の語りを分析し、吃音症を「社会の」問題として位置づけることを試みる。その際、障害と健常の狭間にある「軽度障害者」としての吃音者が経験する意味世界を、「相互行為における社会規範」という視点から明らかにする。分析から得られた示唆を、障害当事者の視点で社会の変革を目指す「障害の社会モデル」の俎上に位置づけ、吃音問題における社会モデルを提示する。

発表言語： 英語

54 どもる子供達と共に歩んだ20年の振り返りから

Keeping company and living with stuttering: 20 years of workshops for children who stutter and their parents

【発表者】佐藤 隆治 (Takaharu Satou)

【会場】会議運営事務室5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】佐藤 隆治 (Takaharu Satou)

【所属】小中高校生の吃音のつどい

【連絡先】tochigi@xj9.so-net.ne.jp

【要約】

吃音と共に生きていくのだという自身のライフスタイルの確立が、子供達が学校生活を送り、そして大きくなり社会に出て生きていく中で、最も必要な事である。隠すことはそれなりにうまくなったとしても、症状が完全になくなることの非常に少ない吃音である。生きていく力を身に付けるにはどうしていけばいいか。症状を改善したいという気持ちは無論分かるものではあるが、安易に改善しようとするることによる大きな弊害を指摘したい。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

55 構音器官の柔らかい接触による構音におけるフォルマント遷移

Formant transitions at the onset of phonation with light articulatory contacts

【発表者】越智 景子 (Keiko Ochi)

【会場】会議運営事務室5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】越智 景子¹ (Keiko Ochi) 森 浩一² (Koichi Mori) 酒井 奈緒美² (Naomi Sakai)
大淵 康成¹ (Yasunari Obuchi)

【所属】1. 東京工科大学 2. 国立障害者リハビリテーションセンター

【連絡先】ochikk@stf.teu.ac.jp

【要約】

吃音の言語訓練で一般的に行われている流暢性形成訓練では、語頭の子音では破裂音等の「構音器官の柔らかい接触(ライトコンタクト)」による構音が用いられる。ここでは、ライトコンタクトがフォルマント遷移の急激な変化を防ぐ効果があると仮説し、言語聴覚士の通常発声とライトコンタクトによる発声を比較した。その結果、母音/o/について第2フォルマントの遷移が緩やかであることを示した。

発表言語: 英語

60 幼児吃音に対する治療の効果：無作為化比較試験における予備的データの検討

Experimental treatment of early stuttering: preliminary findings of a randomized controlled trial

【発表者】坂田 善政 (Yoshimasa Sakata)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】坂田 善政¹ (Yoshimasa Sakata) 原 由紀² (Yuki Hara) 小林 宏明³ (Hiroaki Kobayashi) 宮本 昌子⁴ (Shoko Miyamoto) 前新 直志⁵ (Naoshi Maebara) 川合 紀宗⁶ (Norimune Kawai) 吉野 真理子⁷ (Mariko Yoshino) 森 浩一⁸ (Koichi Mori)

【所属】1. 国立障害者リハビリテーションセンター学院 2. 北里大学 3. 金沢大学 4. 筑波大学 5. 国際医療福祉大学 6. 広島大学 7. 筑波大学 8. 国立障害者リハビリテーションセンター

【連絡先】sakata-yoshimasa@rehab.go.jp

【要約】吃音のある幼児21名をLidcombe Program (以下LP) 群10名、Demands and Capacities Model based approach (以下DCM) 群11名に無作為に割付け、週1回1時間の介入を12週間実施した。本研究の結果から、LPおよびDCMは双方とも有効であり、両アプローチの効果に差があるとはいえないことが示唆された。また、改善群と非改善群の分析結果から、LPとDCMでは効果の上がり易い対象が異なる可能性が示唆された。

発表言語： 英語

308 極度の早口発話の知覚属性：クラタリング症に対する意義

Perceptual Attributes of Exceptionally Rapid Rate: Implications for Cluttering

【発表者】Florence L. Myers

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演者】Florence L. Myers¹, Klaas Bakker², Lawrence J. Raphael¹

【所属】1. アデルフィ大学 (米国ニューヨーク州)、2. ミズーリ州立大学 (米国)

【連絡先】Florence L. Myers fmyers@adelphi.edu

【要約】発声速度は発話明瞭度や流暢性や韻律といった発話の質に影響を与える。極度の早口発話 (exceptionally rapid speech: ERS) の人々は、クラタリング症の人々に比べ、比較的明瞭度に影響を与えることなしに発話速度を上げることができるように思われる。この研究では音読、朗読、独白、会話的発話におけるERS話者の知覚特性を検討した。記録された音声サンプルは、コミュニケーション科学と障害学科の大学院生により、知覚的評価を受けた。研究の結果は、ERSとクラタリング症の差の可能性を明らかにし、後者の理解を容易にするだろう。

発表言語： 英語

314 改変聴覚フィードバックによる吃音当事者の発話開始の変化

Modifying speech onset in stuttering with altered auditory feedback

【発表者】 Torrey Loucks 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Torrey Loucks¹, Heecheong Chon², Anwar Haq¹

【所 属】 1. アルバータ大学吃音治療研究所、2. 朝鮮大学校 (韓国)

【連絡先】 Torrey Loucks loucks@ualberta.ca

【要 約】 聴覚フィードバックは、発話開始制御をわずかな操作で変えることができれば、流暢性を誘発するのにより有効となりうる。発話開始時に吃音のある成人 (AWS) と吃音のない成人 (AWNS) に短時間遅延と増幅されたフィードバック操作がなされた。下唇の動きのピーク時開口変位とピーク速度は、通常の聴覚フィードバックと比べ、両群において有意な減少を認めたが、AWNS の方が変化は有意に大きかった。AWNS はより柔軟性があるように思われたが、結果は、わずかなフィードバックの変化の下で発話の開始が変わる可能性があることを示した。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

315 十代での吃音の発症: 症例研究

Onset of stuttering in teenage years: a case study

【発表者】 Anu Subramanian 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Anu Subramanian

【所 属】 アイオワ大学

【連絡先】 Anu Subramanian - anu-subramanian@uiowa.edu

【要 約】 典型的には、吃音の発現は就学年前の年齢で起こる。遅発は神経原性、心因性、或いは薬物誘発によるもののいずれかである。十代で始まった発達性吃音の二症例を紹介する。鑑別診断プロセスと吃音の過程は依然として発達性吃音を示している。いずれの症例でも、吃音の発現は不安と関連し小児期の発話および言語障害はなかった。吃音のある人を対象とした言語療法士による調査が実施され、遅延性の発達性吃音の有症率が特定される。

発表言語: 英語

318 治療的連携：臨床家—患者の認識と吃音治療の認識された結果

The therapeutic alliance: clinician-client perceptions and perceived outcomes in stuttering treatment

【発表者】 Robyn Croft, Jennifer Watson

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Robyn Croft, Jennifer Watson

【所 属】 テキサス・クリスチャン大学

【連絡先】 Robyn Croft Robyn.croft@tcu.edu

【要 約】 言語聴覚士は吃音治療における「最善の方法」に関する様々に異なる見解を表明し、吃音のある成人は、恒常的に治療への不満足を報告している。心理療法の文献は患者と臨床家間の治療的連携 (therapeutic alliance:TA) が治療そのものを超越する可能性があることを示唆する。治療結果へ影響を与える可能性としてのTAの役割を支持する証拠が最近、言語療法の文献から出現した。この研究では大学院生の臨床家と吃音のある成人との治療的連携と、認識された治療結果の関係を探究する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

336 吃音のある伴侶をもった人は、吃音の情動的な影響の重要性を認識しているか

Significant others' perceptions of the emotional impact of stuttering on their life partner who stutters

【発表者】 Athanasia Svenning, Martine Vanryckeghem, Jacqueline Towson, Melissa Hamilton

【会 場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Athanasia Svenning, Martine Vanryckeghem, Jacqueline Towson, Melissa Hamilton

【所 属】 セントラルフロリダ大学

【連絡先】 Athanasia Svenning -asvenning@knights.ucf.edu

【要約】 本研究の目的は吃音のある伴侶をもった人が、吃音の情動効果をどの程度理解しているかを調査することである。これは、Behavior Assessment Battery (BAB; Vanryckeghem & Brutton, 2018) の一部である Speech Situation Checklist - Emotional Reaction (SSC - ER) を吃音のある参加者に、SSC-ERの修正版をその伴侶に受けてもらうことにより実施する。得られた情報はPWSの治療法、治療効果、QOLの観点から治療的に有効で重要なものとなるだろう。

発表言語: 英語

337 クラタリングのある人々に対する代替的発話速度の計測

An Alternative Rate of Speech Measure for Individuals Who Clutter

【発表者】 Jessica S. Kisenwether, Kathleen Scaler-Scott, Shea Williams, Rachel Moon, Shayne Postiglione, Denis Anson

【会 場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Jessica S. Kisenwether, Kathleen Scaler-Scott, Shea Williams, Rachel Moon, Shayne Postiglione, Denis Anson

【所 属】 ミザリコーディア大学 (米国)

【連絡先】 Jessica S. Kisenwether - jkisenwether@misericordia.edu

【要 約】 クラタリング症の診断指標は知覚された発話速度の速さと不規則性である。客観的に、この測定法は一般的には 1 秒当たりの音節数の平均である。クラタリングのある人々 (PWC) の発話速度が変動することから、速度の標準偏差 (SD) が代替法として探究された。6 名の PWC と 6 名の対照群を記録し、音節、分節速度を 30 秒間隔で計算した。暫定結果は、これら速度は両群でほぼ等しいものの、音節/秒の標準偏差と、音素/秒の標準偏差は、両群でそれぞれほぼ 3、12 異なっていた。臨床的意義を考察する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

342 ペルシャ語版成人行動評価バッテリー (BAB) の標準化および信頼性・妥当性の検証

Normative, reliability and validity investigation of the Behavior Assessment Battery for Adults - Persian form

【発表者】 Martine Vanryckeghem 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Martine Vanryckeghem¹, Arezoo Hasanvand², Fariba Yadegari²

【所 属】 1. セントラルフロリダ大学、2. テヘラン大学医療社会福祉リハビリテーション学科 (イラン)

【連絡先】 Martine Vanryckeghem - martinev@ucf.edu

【要 約】 背景: この研究の目的は標準化データを取得し、ペルシア版の Behavior Assessment Battery for Adults の妥当性および信頼性を決定することである。

方法: この研究では 19~50 才の成人の吃音者、非吃音者 240 名を対象に横断的研究を行った。結果: 3 つ全ての下位項目で、吃音者と非吃音者が有意に判別された。全ての確認リストのクロンバックの α 係数は高かった。ペルシア版 BAB 試験では試験—再試験信頼性が高かった。結論: ペルシア版 BCL、SSC - ER、SSC - SD は妥当であり、信頼できる鑑別診断ツールである。

発表言語: 英語

344 発達障害と構音障害を併せもつ2名の吃音のある子どもへの治療過程

Treatment approach for two children with coexisting stuttering and articulation/phonological and developmental disorder

【発表者】前新 直志 (Naoshi Maeara)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】Naoshi Maeara¹, Nozomi Takahashi¹, Yui Taguchi²

【所 属】1. 国際医療福祉大学 (日本、大田原市) 2. 国際医療福祉大学塩谷病院 (日本)

【連絡先】Naoshi Maeara maeara@iuhw.ac.jp

【要 約】吃音症には他の障害が重複する。発達障害と構音障害が共存した吃音児2名の治療過程を報告する。症例Aは発達の問題を有していたため、認知機能へのアプローチを優先した。症例Bは「高機能自閉症」と診断され、/s, z, k/の構音障害が発話明瞭度に大きく影響していた。治療の結果、両者とも個々の状態に応じたレベルで一定の改善を認めた。他の障害を重複する吃音児に対して、どのような対応と支援が効果的なのか議論した。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

349 成人吃音当事者の就労の困難さについて: 日本国内における現状

An overview of employment difficulty among adults who stutter in Japan

【発表者】飯村 大智 (Daichi Iimura)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】Daichi Iimura

【所 属】富家病院、ういーすたプロジェクト, NPO 法人どーもわーく・,

【連絡先】Daichi Iimura - d.iimura274@gmail.com

【要 約】就労はライフステージの大部分を占める非常に重要な期間である。成人吃音者の就労の問題については国外の研究では以前より進められているが、国内の研究は乏しい。発表者は国内で3つの調査を行い(飯村, 2015, 2016, 2017), 否定的な就労心理, 電話の困難さ, 年齢との関連, 必要とされる合理的配慮など重要な知見を得た。本発表ではこれらの研究を要約し, 成人吃音者の就労支援の仮説的モデルについて提案を行う。

発表言語: 英語

351 学齢期のポルトガル人児童における吃音の影響

The impact of stuttering on Portuguese School Age Children

【発表者】 Mónica Rocha 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Mónica Rocha¹, J. Scott Yaruss², Joana Rato¹

【所 属】 1. ポルトガルカトリック大学 (ポルトガル)、2. ミシガン州立大学 (米国)

【連絡先】 Mónica Rocha tfmonica.rocha@gmail.com

【要 約】 吃音は小児の QOL を左右しうるものである。小児は自分自身または環境から負の情動的、行動的、認知的反応を経験することがある。このような反応は小児の日常的な活動に参加する能力を左右しうるものである。本研究では、ポルトガル版の OASES - S に基づき、ポルトガルの学齢児童の吃音の影響を説明することを目的とする。ポルトガルの児童の発話経験を紹介し、ポルトガルの児童が他の国、文化の児童に比べ、受ける影響が強いかわかりかを調査する。所見は、臨床家がポルトガルの吃音児の治療をどのように対応できるかに関する関連情報を提供する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

355 言語聴覚士養成校における吃音のある学生のニーズと現状

Needs and actual condition of accommodations of students who stutter in speech-language-hearing therapist education programs

【発表者】 安井 美鈴 (Misuzu Yasui) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Misuzu Yasui¹, Daichi Iimura^{2,3,4}

【所 属】 1. 大阪人間科学大学 2. 富家病院 3. ういーすたプロジェクト 4. NPO 法人どーもわーく

【連絡先】 Misuzi Yasui - m-yasui@kun.ohs.ac.jp

【要 約】 自分の吃音から言語聴覚士養成校 (以下養成校) に入学する吃音当事者学生が散見される。しかし、吃音により就労や学業が困難となることが考えられる。私たちは、吃音学生が養成校への要請支援内容と養成校で吃音学生に実施されている支援内容について、吃音学生 27 人と養成校 32 校へ調査を行った。その結果、吃音学生の要請内容と養成校での支援内容に相違が見られた。このことから、吃音学生への支援・配慮モデルの構築が必要と思われる。

発表言語: 英語

360 世界の吃音のある子どもに対する早期介入の実態：国際調査

Early intervention in children who stutter around the world: International survey

【発表者】Katarzyna Węsierska

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】Katarzyna Węsierska^{1,2}, Joseph Agius^{3,4}, Aleksandra Boroń⁵

【所 属】1. シレジアの大学 (ポーランド) 2. カトヴィツェ音声言語センター 3. マルタ大学 (マルタ)
4. 音声言語センター (マルタ) 5. Sycow 民間施設 (ポーランド)

【連絡先】Katarzyna Węsierska katarzyna.wesierska@us.edu.pl

【要 約】

世界各国における吃音ある子供に対する早期介入について調査する。各国の流暢性障害を専門とする SLP に行った国際調査の結果である。それぞれの国で行われている吃音のある小児への早期介入アプローチと流暢性障害のある子供が利用しやすい効果的な早期介入の段階について議論する。ここでは、世界各国の異なる早期介入について紹介することで理解を深めることを目的とした。調査で得た実用的な示唆についても紹介する予定である。

発表言語： 英語

362 吃音のあるレバノン人バイリンガル成人による回避行動の使用

The use of avoidance behaviors by bilingual Lebanese adults who stutter

【発表者】Selma Saad Merouwe

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】Tala Haouili¹, Selma Saad Merouwe¹, Nadia Brejon Teitler²

【所 属】1. セントジョセフ大学 (レバノン)、2. ツアー大学 (フランス)

【連絡先】Selma Saad Merouwe selma.saad.merouwe@gmail.com

【要 約】吃音をもつレバノンの二か国語話者の回避行動の使用と言語変換（コードスイッチング）の実践の理由と効果を、15人の吃音の参加者の表面上の吃音の重症度の評価（Systematic Dysfluency Analysis - SDA）及び彼らの2つの質問票の回答を通じて研究した。最初の質問票では言語習熟度を評価、言語変換の情報を収集し、第二の質問表では、回避行動と言語変換の使用に関わるデータを収集した。結果、吃音を持つレバノンの二か国語を話す成人は、言語変換を含む、国際的に報告されている多くの回避行動を用いることが示された。

発表言語： 英語

366 ロシアにおける言語療法学専攻・教育学専攻の新入生や一般人の吃音・クラタリングに対する態度

Stuttering and Cluttering Attitudes of Beginning SLP Students, Education Students, and the Public in Russia

【発表者】 Yulia O. Filatova

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Yulia O. Filatova¹, Olga Antipova¹, Kenneth O. St. Louis²

【所 属】 1. モスクワ教育大学 (ロシア) 2. ウェストバージニア大学モーガンタウン (米国)

【連絡先】 Yulia O. Filatova - yofilatova@yandex.ru

【要 約】

この研究では流暢性障害の研修を受ける前の言語聴覚学科の学生における吃音およびクラタリングに対する態度を、教育学部の学生および一般大衆と比較した。回答者は人間の特性に関する世論調査—クラタリング (POSHA-CI) と人間の特性に関する世論調査—吃音 (POSHA-S) のロシア語翻訳版を記入した。過去の研究を確認するように、クラタリングに対する態度は吃音に対する態度と似通っていたが、クラタリングに対する態度のほうが一貫してより否定的であった。言語聴覚士になろうと考えている学生は、小学校の教師になろうと考えている学生よりもクラタリングおよび吃音に対する態度はよかった。教育学部の学生の態度は一般人の態度と極めて似通っていた。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

375 吃音が生起する瞬間の話者の経験に関する調査研究

A survey of the speaker's experience of the moment of stuttering

【発表者】 Seth Tichenor, J. Scott Yaruss

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Seth Tichenor, J. Scott Yaruss

【所 属】 ミシガン州立大学 (米国)

【連絡先】 Seth E Tichenor set@msu.edu

【要 約】 反復、遅延、障害は吃音の中心的な行動と一般に考えられる。これらの用語の起源は、観察者が、何を小児における「吃音」と思うかと聞かれた調査研究から来ている。吃音者が純粋な観察のみではとらえきれない吃音の瞬間を経験するという証拠が増しつつある。この調査では、話者が経験する吃音の瞬間の最近の現象学的所見 (Tichenor & Yaruss, 検討中) に立脚し、それを拡張することで、より大きな集団における所見の一貫性を確認する。

発表言語: 英語

377 吃音のある子供の注意と作業記憶に関する能力

Attention and working memory skills in young children who stutter

【発表者】 Erica Lescht 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Erica Lescht, Amanda Hampton Wray

【所 属】 ミシガン州立大学 (米国)

【連絡先】 Erica Lescht elescht@msu.edu

【要 約】 吃音のない児 (CWNS) と比較して、吃音のある児 (CWS) では、注意力と作業記憶能力の低下が報告されている。しかし、これまでの知見は単一の課題設計によるものであったため、CWSにおけるこれらのスキルの関係性を判断することは困難であった。本研究は、CWS と CWNS の間の注意と作業記憶の違いと、これらのスキルの個人間の関係性を評価することによって、既存の研究を拡充することを目指す。3~6歳の小児に、行動的注意と作業記憶の検査を実施した。知見は、吃音のある児における注意、作業記憶、そして、注意と作業記憶との関係性に対する理解を深めることになる。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

379 吃音の主観的および客観的測定: OASES - A と SSI - 4 との関係の探求

Subjective and objective measures of stuttering: An exploration of the relationship between OASES-A and SSI-4

【発表者】 Kirsten Howells, Cliff Baluyot 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Kirsten Howells¹, Cliff Baluyot¹, Hilda Sønsterud^{1,2}

【所 属】 1. Statped (ノルウェー)、2. オスロ大学 (ノルウェー)

【連絡先】 Cliff Baluyot cliff.baluyot@statped.no

【要 約】 吃音の主観的経験は、発話の非流暢性や観察可能な身体症状の客観的評価と常に一致するわけではない。21人の成人参加者を対象とした複数の単一症例デザイン研究の文献や所見に基づき、この発表では OASES - A と SSI - 4 のスコアの相関性を調べ、客観的測定と主観的測定の関係を探究すると同時に、特定のツールがどの程度、実世界の体験に対応する客観的および主観的な吃音重症度の指標になりうるかを探究する。臨床業務と研究に対する意義や提案を検討する。

発表言語: 英語

386 吃音のあるカンナダ語—英語の均衡バイリンガル成人の吃音の様相の比較

Comparison of aspects of stuttering in Kannada-English balanced bilingual adults who stutter

【発表者】 Priyanka Kashyap 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Priyanka Kashyap, Santosh Maruthy

【所 属】 全インド言語聴覚研究所

【連絡先】 Priyanka Kashyap priyankakashyap718@gmail.com

【要 約】 この研究はカンナダ語（L1） - 英語（L2）の均衡のとれた2か国語を話す吃音をもつ成人15名の吃音が見られた音節の割合の変化を調査した。発話は3つの発話条件（自発的発話、読書、電話での会話）、2つの発話状況（診療所内、診療所外）を通じて分析した。結果は自発的発話と電話での会話を通じて一貫した、言語間の発話様相における変化を浮き彫りにするものであった。この所見は読解において欠如していた。重症度スコアはこの所見を、双方の発話状況における発話条件の一つについて正当化するものである。診療所内での読書の発話条件を除き、吃音の頻度は、L1、L2の自然さを影響しなかった。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

391 吃音の質的および量的重症度に対する触覚的発話フィードバックの臨床的応用

The clinical application of tactile speech feedback on qualitative and quantitative stuttering severity

【発表者】 Greg Snyder 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Greg Snyder, Sydney Gulley, Elizabeth Wylot

【所 属】 ミシシッピ大学（米国）

【連絡先】 Greg Snyder gsnyder@olemiss.edu

【要 約】 聴覚、視覚的第2発話シグナルの形式の発話フィードバックは吃音者の発話の流暢性を向上させることが知られているが、データは触覚発話フィードバックを介した触覚の感覚モダリティで流暢性を向上させることも記録されている。この発表では触覚発話フィードバックパラダイムの発展の概要を示し、スマートフォンのアプリや装着可能な人工装具の形での人工装具への応用を実証する。いずれの触覚方法論も長期的な臨床試験中である。研究結果と臨床的洞察を検討する。

発表言語： 英語

398 成人集団における吃音の有病率：情報更新

Prevalence of Stuttering in the Adult Population: An Update

【発表者】 Jean-François Leblanc 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Jean-François Leblanc

【所 属】 デ・ビーグ・ドウ・ドウ・カナダ

【連絡先】 Jean-François Leblanc sansbonsang@gmail.com

【要 約】 成人集団における発達性吃音症の有症率は± 1 %であるとよく耳にする。だが、この数字の典拠となる文献やその数字を導くために採用された方法は、非専門家にはほとんど知られていない。さらに、吃音のある人は、ほかの当事者と偶然に出会うことは極めて稀であると言う。これは、1%の有症率の統計は過大評価であることを示唆するものである。この対話は成人人口における発達性吃音症有症率の文献のレビュー結果を要約することを目的とする。

発表言語： 英語

402 ノルウェー人のための「自己スティグマ吃音尺度 (4S)」 の翻訳と評価

Translation and evaluation of “Self-Stigma of Stuttering Scale (4S)” to Norwegian

【発表者】 Åse Sjøstrand 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00–16 : 00

【演 者】 Janina Härmälä¹, Åse Sjøstrand², Michael Boyle³

【所 属】 1. オスロ大学 (ノルウェー)、2. Statped (ノルウェー)、3. モントクレア州立大学 (米国)

【連絡先】 Åse Sjøstrand ase.sjostrand@statped.no

【要 約】

過去数十年間、吃音に付随する公的スティグマを記録してきた。そのようなステレオタイプの内面化は文献では自己スティグマと言われる。自己スティグマ吃音尺度 (The Self - Stigma of Stuttering Scale : 4S) は、現在まで、吃音当事者の自己スティグマの具体的な構成を計測する唯一のツールであった (Boyle, 2013)。この研究の目的は 4S をノルウェー語に翻訳し、ノルウェー人の吃音のある成人を対象にその尺度を検証することであった。この尺度でノルウェー人とアメリカ人を比較し、性別、年齢、参加者の職業によって自己スティグマに差があるかを調べるのが注目点であった。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

405 吃音のある成人におけるタイミング障害 : 両手協調運動課題からの証拠

Timing disorder of adults who stutter: Evidence from bimanual coordination tasks

【発表者】 豊村 暁 (Akira Toyomura) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 13 日 (金) 【発表時間】 15 : 00–16 : 00

【演 者】 Akira Toyomura¹, Tetsunoshin Fujii², Paul F. Sowman³

【所属】 1. 群馬大学 (日本) 2. 北海道大学 (日本) 3. マッコーリー大学 (オーストラリア)

【連絡先】

【要約】

吃音の原因の一つとしてタイミング障害が推測されている。本研究では、両手指協調運動課題を用いて、吃音話者のタイミング制御の能力を調査した。吃音群と統制群は 3 種の課題 (タッピング課題と 2 種の回転課題) を行った。このうち、タッピング課題は両手の運動の位相を合わせる必要があり、特にタイミング制御が必要であった。結果は、タッピング課題でのみ有意差があり、吃音がタイミング制御に関連していることを示唆した。

発表言語: 英語

407 ヨーロッパ流暢性障害専門家登録システム

The European Fluency Specialists Registration System

【発表者】 Kurt Eggers, Elaine Kelman, Mark Pertijs 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Kurt Eggers¹, Elaine Kelman², Mark Pertijs³

【所 属】 1. トーマスモアカレッジ (ベルギー)、2. マイケル・ペイリンセンター (英国)、3. ユトレヒト応用科学大学 (ニュージーランド)

【連絡先】 Kurt Eggers kurt.eggers@thomasmore.be

【要 約】 ヨーロッパ臨床専門流暢性 (European Clinical Specialization Fluency: ECSF) コンソーシアムは 2008 年より資格を持つ言語療法士を対象に、年間約 20 名の学生を受け入れ、講座を開講している。このヨーロッパの団体は、今やヨーロッパ流暢性障害専門家になるための更なる段階的手続きを考案した。これは ECSF の卒業生ならびに流暢性障害に特別な関心をもつ有資格の臨床家や大学研究者も受け入れている。このプロセスには、臨床と学術的活動、プロフェッショナル・ディベロップメント活動、非公式のディスカッション・グループの記録も含まれる。認可されれば認定プロセスは完了し、ヨーロッパ流暢性障害専門家の称号が得られる。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

413 母親の非流暢性、言語的複雑性と子供の言語発達との関係

Relationships Between Maternal Disfluencies, Language Complexity, and Child Language Outcomes

【発表者】 Shelley B. Brundage, Nan Bernstein Ratner 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Shelley B. Brundage¹, Nan Bernstein Ratner²

【所 属】 1. ジョージ・ワシントン大学 (米国)、2. メリーランド大学 (米国)

【連絡先】 Shelley B. Brundage brundage@gwu.edu

【要 約】 乳児や子どもは非流暢性に対して敏感である。彼らが聞いた入力における新しい項目の手掛かりとして、この非流暢性を利用することもあるだろう。我々は 60 組の母子を対象に、母親が乳児に向けた発話 (IDS; 月齢 11 カ月)、幼児に向けた発話 (CDS; 月齢 24 カ月)、大人に向けた発話 (ADS) を分析した。母親の非流暢性の度合い、語彙の多様性、構文の複雑さを計測した。月齢 24 カ月児に向けた CDS の非流暢性の度合いと同時に評価された幼児の理解言語スコアとの間に有意に正の相関が見られた。

この結果は、言語獲得途上の幼児が、CDS の際の非流暢性を手がかりとして、新しい言語単位を特定し、新しい標的語彙の獲得を行っている可能性を示唆するものである。

発表言語: 英語

415 変容させた聴覚フィードバックはいかにして吃音を改善させるか？非発話的感覚運動行為から得られる展望

How does altered auditory feedback ameliorate stuttering? A perspective derived from non-speech sensorimotor performance

【発表者】 Robert van de Vorst 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Robert van de Vorst^{1,2}, Floris van Vugt², Vincent L. Gracco^{1,2,3}

【所 属】 1. 脳言語・音楽研究センター（カナダ）、2. マギル大学（カナダ）、3. ハスキンス研究所（米国）

【連絡先】 Robert van de Vorst robert.vorst@mail.mcgill.ca

【要約】遅延聴覚フィードバック（DAF）の状況下で会話する時にPWSの吃音症状が軽減されることがあるのはよく知られている。だが、この効果を支える発現機序は不確かなままである。我々はPWSと対照群の両群で指叩きの最中に、DAFの時間的精度の効果を調べることで、この問題に迫った。暫定結果では、対照群と同様に、PWSの成績はDAFにより負の影響を受けた。これは、注意拡散やその他の注意力的要因が、PWSがDAFの状況下で話すときに吃音を軽減する役割をもつ可能性を示唆している。治療への新しい意義を提示する。

発表言語： 英語

423 会話時にクライアントに対してアイコンタクトを維持するよう教えるべきか？

神経学的・心理物理学的反応からのデータ

Should clients be taught to maintain eye-contact when speaking? Data from neurological and psychophysical responses.

【発表者】 Glen Tellis, Cara Imbalzano, D' manda Price, Elizabeth Heinmiller, Jordan Seprosky, Cari Tellis

【会 場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Glen Tellis¹, Cara Imbalzano¹, D' manda Price¹, Elizabeth Heinmiller¹, Jordan Seprosky¹, Cari Tellis¹, Rickson Mesquita², Sergio L. Novi Jr.², Arjun Yodh³

【所 属】 1. ミザリコーディア大学（米国）、2. カンピナス大学（ブラジル）、3. ペンシルバニア大学（米国）

【連絡先】 Glen Tellis gtellis@misericordia.edu

【要 約】会話時にアイコンタクトを維持することは、多くの流暢性プログラムに組み込まれている。よって、会話時にアイコンタクトを維持するのは吃音のある人にとって重要であると標準的に流暢な話者（TFS）が考えているかどうかを我々は究明したかった。アイコンタクトあり、または、なしの状態で吃音の発話を見るときにTFSの神経学的および心理物理学的反応を研究した。我々は自律神経システム（ANS）ソフトウェアと機能的近赤外分光法（fNIRS）を使って、データを取得した。暫定結果では、アイコンタクトのある方が、ない方よりも、高い心拍数、肯定的な調査反応、脳内のヘモグロビン値の違いなどの肯定的な反応が見られた。

発表言語： 英語

435 吃音のある子供のための小児科医による紹介状の紹介実績

Pediatricians' referral practices for children who stutter

【発表者】 Katherine Winters, Courtney T. Byrd

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Katherine Winters, Courtney T. Byrd

【所 属】 テキサス大学 (米国)

【連絡先】 Katherine Winters katielwinters617@gmail.com

【要約】

親は自分の子どもの吃音に対する懸念から小児科医に指示を求めることが多い。Yairi and Carrico (1992) の研究と最近の医学書 (Ashurst & Wasson, 2011; Costa & Croll, 2000; Korstjens et. al, 2011) に連なり、本研究は吃音のある児 (CWS) のための言語療法士 (SLPs) への小児科医照会実践を評価する全国調査を紹介する。本研究は 1) どれほどの頻度で小児科医はCWSをSLPに照会するのか、2) どの因子 (例 : 吃音行動、リスク因子) が照会に導いているのかを計測することを目的とする。結果は照会実績とこの複雑な障害の兆候となる行動の小児科医による認識を特徴づけるものとなるだろう。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

450 青少年の吃音の有無によるストレス状況への対処の違い

Differences in coping with stressful situations between adolescents who stutter and adolescents who do not

【発表者】 Ana Rendulic

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月13日(金)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Ana Rendulic, Andrea Milevcic Malenica

【所 属】 SUVAG総合病院 (クロアチア)

【連絡先】 Ana Rendulić rendulic.ana@gmail.com

【要 約】

この研究の目的は吃音を持つ青少年と対照群におけるストレス状況への対処の違いを評価することである。対処方略は個人がどのようにストレスに向き合い対処するかを左右する。対処方略に関する情報を取得するために、Stress Coping Scale for Children and Adults (児童と成人のためのストレス対処尺度) を実施した。SU0尺度は58項目からなり、7つの下位尺度に分かれている。各下位尺度は一つの対処次元について説明している。参加者は性別、年齢、教育を統一した11~19才の吃音をもつ、あるいは持たない青少年たちであった。

発表言語: 英語

477 この5年間における当院 149 症例の吃音治療報告

Reports Of 149 Cases Of Stuttering Over Five Years At Our Small Clinic

【発表者】佐藤 絵梨 (Eri Sato) , Mamiko Otsuka, Masanobu Kumada

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演 者】Eri Sato, Mamiko Otsuka, Masanobu Kumada

【所 属】熊田クリニック (日本)

【連絡先】

【要 約】

当院は耳鼻咽喉科クリニックとして、声・言葉の障害全域を専門的に診ており、その中で吃音も医師と連携し、言語聴覚士が言語訓練を行っている。対象は小児および成人で、幼児期は環境調整を主としているが、学童期以降はその環境調整に加えて、統合的アプローチやロールプレイ、また成人で心理面の支援を必要と判断した場合には精神科への紹介を行っている。そして今回、これらの訓練によるこの5年間の治療について報告する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

480 成人における運動抑制と吃音発話の重症度

Motor inhibition and severity of stuttered speech in adults

【発表者】Shanley Treleaven 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月13日(金) 【発表時間】15:00-16:00

【演 者】Shanley Treleaven, Geoffrey Coalson

【所 属】ルイジアナ州立大学 (米国)

【連絡先】Shanley Treleaven strele1@lsu.edu

【要 約】

研究は行動抑制が吃音のある人に関連する領域であると示唆している。この研究は手動で行う停止信号課題による行動抑制吃音を吃音のある成人(AWS) (n=14) と吃音のない成人(AWNS) (n=17) に実施するものである。対象は、(a) 参加者の非言語的知能指数——行動抑制に寄与することが知られる因子——と (b) 300 語音読中の吃音重症度が同程度になるように集めた。結果は、AWS が AWNS と比べ、非言語的知能を調整しても、不正確な手動反応を抑制するのが遅かった。しかし、抑制潜伏時間の差は、吃音の重症度により説明されえた。これらの暫定データは AWS における吃音の重症度と非発話的行動抑制の潜在的な関係を示唆するものである。

発表言語: 英語

ニシキプリントは お客様の「困った」に お応えします！

企画・デザイン

印刷

から製本まで！
ご注文承ります

HP
ome age

今のホームページに
満足していますか？

IT
システム構築

あなたの作業を
効率良く！

DB
igital ook

電子書籍・カタログ
作成できます。
Smartphone対応可！

DS
igital ignment

デジタルサイネージ
始めました！



株式会社 **ニシキプリント**



本社 〒733-0833 広島市西区商工センター7丁目5-33
TEL (082) 277-6954 FAX (082) 278-6954
E-mail : hiroshima@nishiki-p.co.jp

東広島工場 〒739-2117 東広島市高屋台2丁目1-12
TEL (082) 434-6954 FAX (082) 420-4002
E-mail : higashi@nishiki-p.co.jp

<http://www.nishiki-p.co.jp>



一般社団法人 東広島自立支援センター

あゆみ

☐ 就労継続支援 A 型事業所 サポートセンターあゆみ
〒739-2117 東広島市高屋台 2 丁目 1-12
TEL:(082)434-5790 FAX:(082)420-4002

☐ 就労継続支援 A 型事業所 サポートセンターめばえ
〒733-0842 広島市西区井口 5 丁目 13-19-1F
TEL・FAX:(082)278-5373



シリーズ《ケアをひらく》

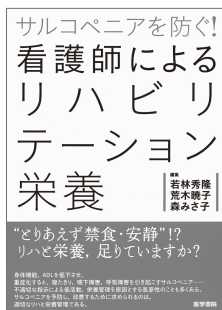
どもる体

伊藤 亜紗

●A5 頁264 2018年 定価:本体2,000円+税
[ISBN 978-4-260-03636-8]

しゃべれるほうが、変。

吃音とは、言葉が肉体に拒否されている状態。しかし、なぜ歌っているときにはどもらないのか？ 徹底した観察とインタビューで、吃音という「謎」に迫った画期的身体論！



サルコペニアを防ぐ！

看護師によるリハビリテーション栄養

編集▶ 若林 秀隆 荒木 暁子 森 みさ子

サルコペニアに対し有用なリハビリテーション栄養の基本的知識、実践を解説する企画。高齢者等、サルコペニア、フレイルを生じるおそれのある患者に関わる医療者必携書！

●A5 頁244 2017年 定価:本体2,600円+税 [ISBN 978-4-260-03225-4]

「KTバランスチャート」を効果的に活用するために

口から食べる幸せをサポートする 包括的スキル KTバランスチャートの活用と支援

編集▶ 小山 珠美

第2版

信頼性・妥当性の検証を経た「KT(口から食べる)バランスチャート」の決定版を掲載。13項目それぞれの評価方法とステップアップのための支援スキルに関する記述が充実！

●B5 頁208 2017年 定価:本体2,800円+税 [ISBN978-4-260-03224-7]



あなたにできること、たくさんあります！

誤嚥性肺炎の予防とケア

7つの多面的アプローチをはじめよう

前田 圭介

誤嚥性肺炎を予防し最良の治療効果をもたらすために、ケア提供者ができることは？ 本書では7つの多面的アプローチを提案。ケア提供者にできることはたくさんあります！

●B5 頁144 2017年 定価:本体2,400円+税 [ISBN 978-4-260-03232-2]



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <http://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp



【ポスター発表】

7 文節間のポーズ持続時間と吃音生起頻度の検討

Effect of pause duration time on the frequency of stuttering occurrence in Japanese.

【発表者】 本田 裕治 (Yuji Honda)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 本田 裕治¹ (Yuji Honda) 前新 直志² (Naoshi Maeara) 新発田 健太郎³ (Kentaro Shibata)

【所 属】 1. 王子生協病院 2. 国際医療福祉大学 3. 東大和病院

【連絡先】 15S1100@g.iuhw.ac.jp

【要 約】

本研究では文節間に 0 秒、1 秒、2 秒のポーズを設定し、ポーズ時間長と吃音生起との関連について検討した。対象は発達性吃音のある成人 17 名とした。課題は 10 種類の 4 文節文を用い、各文節間のポーズを 0 秒、1 秒、2 秒に設定し音読課題を行った。その結果、ポーズ条件ごとの吃音生起数は 2 秒条件で最も多かった。主観的評価に関するアンケート結果と乖離が生じたことから、実際の発話と必ずしも一致しないことが示唆された。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

8 日本初の吃音矯正機関である楽石社の社会事業と学校教育の関わり

First Japanese institute for stuttering and its influence on school education

【発表者】 橋本 雄太 (Yuta Hashimoto)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 橋本 雄太 (Yuta Hashimoto)

【所 属】 立命館大学大学院先端総合学術研究科

【連絡先】 synd0315@gmail.com

【要 約】

日本で社会事業として初めて吃音矯正を展開した楽石社と学校教育との関わりについては論争がある。本研究の目的は楽石社の社会事業と学校教育との関わりを戦前の吃音学級の資料を用いて明らかにし、二者の関係を考察することである。楽石社は吃音学級教師に必要な有資格者を輩出し、楽石社と同じ手法による吃音矯正が学教教育の中で実践されていた。つまり、楽石社の社会事業は学校教育と関わりがあることが明らかになった。

発表言語： 英語

14 『吃音キャンプ IN GUNMA』の実践～10周年の節目を迎えて～

Stuttering Camp in Gunma: Forming friendships in cooperation with resource rooms “Tsuukyu”

【発表者】佐藤 雅次 (Masatsugu Satoh)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月14日(土)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】佐藤 雅次¹ (Masatsugu Satoh) 星野 朋子² (Tomoko Hoshino)

【所 属】1. 群馬県渋川市立 古巻小学校 2. 群馬県太田市立 城西小学校

【連絡先】tsukyu0123@yahoo.co.jp

【要 約】

「吃音のある子どもやその親、吃音のある大人、そして吃音のある子どもたちを支える担当者や専門家などが一堂に集い、吃音について知り、同じ吃音のある人たちと語り、吃音があることに向き合いながら”暮らす”こととはどういうことかを感じられる二日間にしよう」という趣旨のもと行われてきた『吃音キャンプ IN GUNMA』も、今年度で10周年を迎える。これまでの実践のまとめを報告し、全国への拡がりを期待する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

15 吃音のある幼児に関わる中で母親が抱く思い

Mothers' feelings through rearing preschool children who stutter

【発表者】有田 愛莉 (Airi Arita)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月14日(土)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】有田 愛莉¹ (Airi Arita) 平野 美千代² (Michiyo Hirano)

【所 属】1. 北海道大学大学院保健科学院 2. 北海道大学大学院保健科学研究院

【連絡先】

【要 約】

目的・方法: 吃音のある幼児に関わる中で、母親が児に対して抱く思いを明らかにすることを目的に、母親3名にインタビュー調査を実施した。

結果: 《吃音に対する子どもの本心を分かってあげられないことがもどかしい》《吃音がありながらもその子らしさを持ち続けてほしい》等の4カテゴリを抽出した。

考察: 母親は、児が吃音による困難に直面するとき、吃音のある自分を受けとめることへの希望と迷いを抱えていると考えられる。

発表言語: 英語

25 イップス、ジストニアから探る吃音アプローチ

Exploration of approaches to stuttering based on conditions such as yips and dystonia

【発表者】森川 兵一 (Heiichi Morikawa)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月14日(土)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】森川 兵一 (Heiichi Morikawa)

【所 属】記載なし

【連絡先】morikawa0524@gmail.com

【要 約】

イップスやジストニアの事例を見るにつけ、症状の出方や心理状態が吃音ととても似ていることに気づいた。スポーツ選手やミュージシャンがどうやってその問題を解決しようとしているかを多くの事例を持って紹介したい。また、私自身の観点で吃音克服に応用できそうなものをいくつかピックアップして報告したい。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

27 吃音スクリーニング項目の選定に関する研究

A study on the selection of stuttering screening items

【発表者】原 由紀 (Yuki Hara)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月14日(土)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】原 由紀¹(Yuki Hara) 梅原 幸恵²(Sachie Umehara) 佐々木 ゆり³ (Yuri Sasaki) 北 洋輔⁴(Yousuke Kita) 稲垣 真澄⁴(Masumi Inagaki)

【所 属】1. 北里大学 2. 北里大学病院 3. 相模原協同病院 4. 国立精神・神経医療研究センター

【連絡先】原 由紀 bara@kitasato-u.ac.jp

【要約】

保育者や巡回相談員が吃音を確実に抽出できる項目の選定を目指した。3歳以上の保育園児52名に対し、保育士が吃音・非流暢性に関する複数項目を評価し、言語聴覚士の評定と比較検討、数量化Ⅱ類を用いて解析した。その結果、吃音と判断できる項目は、『初めの音やことばの一部を何回か繰り返す』『初めの音を引き伸ばす』『最初のことばが出づらく力を込めて話す(時に顔面をゆがめることもある)』の3項目であった。

発表言語: 英語

29 吃音のある子どもをもつ保護者のためのセルフヘルプグループに関する研究と今後の課題

Research and issues concerning self-help groups for parents of children who stutter

【発表者】 堅田 利明 (Toshiaki Katada) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 堅田 利明¹ (Toshiaki Katada) 餅田 亜希子² (Akiko Mochida)

【所 属】 1. 関西外国語大学准教授 2. 東御市民病院

【連絡先】 katadatoshiaki@gmail.com

【要 約】

本邦における「吃音児・者、および保護者・家族を支援する目的で実施されているつどいの会の役割や機能」を検討するため、それらの会の実践、役割・機能についての研究をレビューした。それをもとに、会の意義や運営マネジメント等を学術的に検討することは、保護者・家族のための会が設立し始めてきたなかで、既存の会の発展や新たな会の設立に貢献しうるものとする。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

32 統合的アプローチの介入初期における発話変化の検討

A study of speech change at the early stage of an integrated approach

【発表者】 秦 若菜 (Wakana Hata) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 秦 若菜^{1,2} (Wakana Hata) 吉澤 健太郎² (Kentarou Yoshizawa) 安田 菜穂² (Nao Yusada)

原 由紀¹ (Hara Yuki) 雪本 由美² (Yumi Yukimoto) 村上 健¹ (Takeshi Murakami) 福田 倫也^{1,2} (Michinari Fukada) 石坂 郁代¹ (Ikuyo Ishizaka) 堀口 利之¹ (Satoshi Horiguchi)

【所 属】 1. 北里大学医療衛生学部 2. 北里大学東病院

【連絡先】 hata-w@kitasato-u.ac.jp

【要 約】

吃音を呈した2症例の統合的アプローチ開始前と3回実施後の文章音読時間を比較した。音声は音響分析ソフトにて音声波形と狭帯域スペクトログラムを用い、①音読部分②症状部分③休止部分（文節間の無音区間）の所要時間を計測した。治療開始前の吃頻度は症例1が7.7%、症例2が40.4%で、両例とも3回実施後には吃音症状が消失した。音読速度、1回の休止時間に変化はないが、休止回数が減少し、流暢性が促進された。

発表言語: 英語

47 福島県における吃音問題に対する取り組み：第一回福島吃音懇話会の報告

Work on Stuttering in Fukushima Prefecture: Report on the First Fukushima Stuttering Council

【発表者】 森 弥生 (Yayoi Mori) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 森 弥生¹ (Yayoi Mori) 黒澤大樹² (Daiki Kurosawa)
生江英一³ (Hidekazu Namae) 島 哲仁¹ (Tetsuhito Fukushima)

【所 属】 1. 福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座 2. 太田総合病院附属太田西ノ内病院 3. 福島市立
福島第四小学校ことばの教室

【連絡先】 y-mori@fmu.ac.jp

【要約】

2017 年 11 月 19 日、福島県立医科大学において第一回福島吃音懇話会を開催した。発起人は福島県在住の、言語聴覚士であり当事者でもある黒澤大樹、福島県の小学校のことばの教室教諭である生江英一、保護者の立場から吃音の研究を始めた森弥生の 3 名である。立ち上げにあたり福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座の福島哲仁教授よりアドバイスを受けた。アンケートの結果から見た今後の取り組みの可能性について報告する。

発表言語： 英語

48 遠隔地で直接指導できない吃音のある児への E メールを使用した事例

Tele-therapy for a child who stutters: A case study using sound recording and e-mail

【発表者】 島田 美智子 (Michiko Shimada) 藤井 哲之進 (Tetunoshin Fujii)

【会 場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 島田 美智子¹ (Michiko Shimada) , 藤井 哲之進² (Tetunoshin Fujii)
豊村 暁³ (Akira Toyomura)

【所 属】 1. 札幌医学技術福祉歯科専門学校 2. 北海道大学 3. 群馬大学

【連絡先】

【要約】 吃音を診療できる専門機関が遠隔地にあるため、指導を受けられない女兒に対して、E メールによる指導を行った。保護者は毎日、子どもにことばの練習と吃音重症度の評価を行い、週 1 回 E メールで吃音の状態や指導時等の録音した音声を送り、支援者は送られてきた録音等に基づき、練習内容や指導方法について指導を行った。指導開始から 1 年 6 ヶ月経過し、児童の吃音重症度は軽減し、保護者も吃音に対する態度変容が見られた。

発表言語： 英語

53 吃音者の表情 英語 : Facial expression of the stuttering person

Facial expressions of people who stutter

【発表者】 奥野 裕太 (Yuta Okuno)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 奥野 裕太 (Yuta Okuno)

【所 属】 福岡言友会

【連絡先】 Kyudo-yuta@outlook.jp

【要約】

吃音者にしか撮れない表情を捉えた写真で、言葉以外でもコミュニケーションがとれることが可能だということをポスター形式で発表。これにより、吃ってもいいんだよということを写真を使って伝えたい。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

58 グループ認知行動療法により改善を認めた症例

Comparison of individual and group cognitive behavior therapies: A single case switch-over study.

【発表者】 北條 具仁 (Tomohito Houjou)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 北條 具仁¹ (Tomohito Houjou) 森 浩一² (Koichi Mori)

【所 属】 1. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 2. 国立障害者リハビリテーションセンター病院 第三診療部

【連絡先】 houjou-tomohito@rehab.go.jp

【要 約】

青年期以降の吃音者に対して、2017 年から認知行動療法 (CBT) を用いたグループ訓練の研究を AMED 補助のもと開始した。その特徴として、自然に話せる能力を理解・使用し、治療目標を吃らないことから、より良いコミュニケーションをとることに変更する。従来の直接法と CBT を併せた個別訓練で成果が出なかった症例にグループ CBT 訓練を用いて改善が得られた。その具体的な経過を示し、新たな訓練法としてのグループ CBT の効果を議論する。

発表言語: 英語

302 吃音のある成人のための北京語版コミュニケーション態度尺度の開発

The development of the Mandarin-Chinese Communication Attitude Inventory for Stuttering Adults

【発表者】 Shu-Lan Yang 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Shu-Lan Yang

【所 属】 台湾国立屏東大学の特殊教育学専攻

【連絡先】 Shu-Lan Yang, shuyang0928@gmail.com

【要 約】

この研究は成人吃音者（台湾）（MCATIFSA - T）のための北京語コミュニケーション態度尺度の開発およびその信頼性と妥当性を確定することを目的としたものである。情緒的要因および認知要因は、209 人の成人を通じた探索的因子分析の項目より派生したものである。全ての因子負荷量は 0.48 以上であり、下位試験の数はそれぞれ 21、12 である。下位試験および全目録の 1 か月に及ぶ試験—再試験信頼性は、.830、.836、.906 であり、クロンバックの α 係数はそれぞれ .897、.907、.931 であった。更に、t-test により、MCATIFSA - T で 15 人の成人吃音者と 15 人の非成人吃音者の間で、MCATIFSA - T に有意な差を認めた ($p=.000$)。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

323 吃音のある子供のためのサマーキャンプへ参加後の長期的結果

Longitudinal Outcomes Following Participation in a Summer Camp for Children Who Stutter

【発表者】 Caryn Herring, J. Scott Yaruss 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Caryn Herring¹, Ryan Millager², J. Scott Yaruss³

【所 属】 1. ミシガン州立大学、2. SAY; 青年吃音協会、3. ミシガン州立大学

【連絡先】 Caryn Herring - caryn@msu.edu

【要 約】 吃音のある子どものための支援型プログラムを提供する吃音組織は数多くあるものの、これらの団体の影響は比較的知られていない。この研究では、参加者による報告結果とキャンプ SAY—吃音児に対する支援型のサマーキャンプ—への参加前、参加後の吃音児（8 - 18 才）の流暢性を検討する。更に、複数年キャンプに出席したキャンパーの下位集団を長期的に調べ、経年による吃音の影響と流暢性の変化を評価する。

発表言語： 英語

325 子供が機能語で吃音になる傾向は果たして普遍的なのか？

Is the trend of children stuttering more on function words universal?

【発表者】 Dahye Choi, Hyunsub Sim, 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Dahye Choi¹, Hyunsub Sim², Hyeyoen Park²

【所 属】 1. 南アラバマ大学 (米国)、2. 梨花女子大学 (韓国)

【連絡先】 Dahye Choi - dchoi@southalabama.edu

【要 約】

この研究の目的は機能語で吃音になりやすい、または／加えて文の最初の語で吃音になりやすい傾向が、異なる統語論的特性 (例: 韓国語と英語) を持つ様々な言語を通じて普遍的なものかを調査することである。参加者は3~7歳の10人の韓国語話者と10人の英語話者の吃音のある児であった。各参加者は二つの写真のシーンを説明するよう求められた。この研究の結果は、小児は機能語でより吃音になりやすい傾向があるという長年支持されてきた考えを再検討することで、幼児期吃音の基礎となる普遍的な発現機序とプロセスの理解を助けるものとなるだろう。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

326 吃音のある言語療法士と吃音のない言語療法士間の臨床的自己効力感とスティグマの種類の比較

Comparisons of Clinical Self-Efficacy and Stigma Variance between SLPs-WS and WDS

【発表者】 Kodai Noguchi 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Kodai Noguchi, Abby Hemmerich

【所 属】 ウィスコンシン大学オークレア校 (米国)

【連絡先】 Kodai Noguchi - kodainoguchi@gmail.com

【要約】

このセッションでは吃音のある言語療法士 (SLPs - WS) と吃音のない言語療法士 (SLPs - WDS) の自己効力感を、それぞれの臨床サービス提供の側面を通じて検討する。全米調査の結果を紹介し、吃音、経験年数、臨床課題の種類が自己効力感評価に及ぼす影響を比較する。吃音に関連するスティグマ評価も検討する。

発表言語: 英語

331 吃音のある就学前児の発話産生の自律的関連

Autonomic correlates of speech production in preschoolers who stutter

【発表者】 Evan Usler 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Bridget Walsh¹ Evan Usler^{2,3}

【所 属】 1. パデュー大学 (米国)、2. ボストン大学 (米国)、3. マサチューセッツ総合病院 (米国)

【連絡先】 Evan Usler eusler@bu.edu

【要約】

我々の研究では絵画説明課題中の吃音のある児 (CWS) における感情喚起の自律神経指標を検討した。3 才 10 カ月～5 才 11 カ月の 22 人の CWS を対象に、異なる絵画を説明させながら、皮膚伝導反応 (SCR) と脈拍数 (BPV) と振幅の測定結果を記録した。SCR 振幅と、SCR の増大、BPV の振幅の減少から明らかのように、非流暢時に CWS は流暢な小児に比べ有意に高い共感喚起を呈した。このような共感喚起の増大は吃音を特徴づける発話運動制御の状況的な不安定化の一因となっていることを指摘する。

発表言語: 英語

338 吃音態度評価尺度の集団・文化集団への適用: インドにおける試行

Adapting stuttering attitude assessment instruments to cohorts and cultures: An attempt from India

【発表者】 Pallavi Kelkar 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Pallavi Kelkar^{1,2,3,4}

【所 属】 1. ルビー・ホール・クリニック (インド・マハーラーシュトラ州プネー)、2. ジュピター病院 (インド・プネー)、3. オーチド学校 (インド・マハーラーシュトラ州プネー)、4. 高齢者施設 (インド)

【連絡先】 Pallavi Kelkar - howto.utterperfection@gmail.com

【要 約】 Stutterers' Self Ratings of Reactions to Speech Situations (発話状況に対する反応の吃音者自己評価: SSRSS) は多面的な吃音障害の様々な相の定量化に有効な道具である。その臨床応用性にも関わらず、今日まで結果の測定として用いた研究はほとんどない。更に、吃音に由来する多くの限定は、文化特異的であるにもかかわらず、SSRSS はインドでその本来の形で未だに使用されている。この論文では混合法を用いて、SSRSS を現在のインドの文化に適したものに修正する過程を説明する。この修正版を使った準備的規範データを紹介する。

発表言語: 英語

352 吃音当事者・非当事者における時間制約の効果

Time Pressure Effects in People Who Do and Do Not Stutter

【発表者】 Michael Susca 【会場】 会議運営事務室 5 & 6
 【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00
 【演 者】 Michael Susca, Katrina Vu, Ashley Choi, Matthew Webster
 【所 属】 パシフィック大学 (米国)
 【連絡先】 Michael Susca msusca@pacific.edu
 【要 約】

発話の流暢性に関しては、時間制約影響の事例的でモデル化された理論的立場があるものの、これらの立場に対する実証的証拠はほとんどない。この研究では時間的制約が吃音のある人およびない人の音読での流暢性に及ぼす影響について調査した。研究は音読に対して時間的制約のある音読状況、ない音読状況における発話事象の妨害と経験の認識における違いを調査する。群内、そして二つの群間の統計的結果を紹介する。臨床および機能的対話領域に関連する結果について検討する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

353 吃音と多言語使用に関する世界的な実践

Worldwide Practices in Stuttering and Multilingualism

【発表者】 Nancy E. Hall, Kimberly Martins 【会場】 会議運営事務室 5 & 6
 【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00
 【演 者】 Nancy E. Hall¹, Kimberly Martins²
 【所 属】 1. メイン州立大学 (米国)、2. 海岸音声言語センター (米国)
 【連絡先】 Nancy E. Hall nhall@maine.edu
 【要約】

多言語を話す吃音のある人の評価、介入実践について知られていることはほとんどない。この発表では世界中の吃音と多言語環境の実践の調査研究を示す。世界の全ての主要地域 (即ち、アフリカ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ) からの見解を代表する 74 名の SLP を対象に電子調査を行った。全ての地域の SLP は多言語を話す男性 (対多言語を話す女性) と多言語を話す吃音のある児の多くと行動を共にした。検討は多言語 (例: 連続的 VS 同時的、バランスがあるか否か) 話者の吃音、治療法に注目したものである。限界と今後の研究の方向性を提供する。

発表言語: 英語

356 NPO 法人どもわーくを通した吃音当事者の就労支援の実践

Our practice to achieve employment support for people who stutter through Domo-Work

【発表者】 竹内 俊充 (Toshimitsu Takeuchi) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Toshimitsu Takeuchi¹, Manami Miyawaki^{1,2}, Daichi Iimura^{1,2,3}

【所 属】 1. NPO 法人どもわーく、2. ういーすたプロジェクト、3. 富家病院

【連絡先】 Toshimitsu Takeuchi - tokkun1207@gmail.com

【要 約】

NPO 法人どもわーくは、吃音の就労支援を主とした活動を行う国内唯一の組織である。成人吃音者は就労で困難をきたしやすく、否定的な態度や感情が生まれやすい。法人は 2014 年に設立、吃音者のコミュニケーション能力向上のための指導や、吃音の認知や理解を高めるための提案など様々な活動を展開している。本発表では我々の実践を述べ、対象の要望に即した支援の方法や他職種連携の方法について、課題点を含めて検討・提案する。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

358 吃音のある学齢児における文レベルの要因が吃音頻度に与える影響

Influences of Sentence-Level Factors on the Stuttering Frequency of Japanese School-Age Children Who Stutter

【発表者】 Takahashi Saburo 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Takahashi Saburo

【所 属】 福生第七小学校

【連絡先】 Takahashi Saburo sablow@cg8.so-net.ne.jp

【要 約】

本研究の目的は統語的複雑さや文の長さといった文レベルの要因が学齢期の吃音に与える影響を検討したものである。対象児は 6 歳から 11 歳の学齢期の吃音児 18 名であった。自由会話における発話を収集した。ロジスティック回帰分析の結果、文の長さの要因は吃音の生起の有意な予測因子となったが、統語的複雑さはそうでなかった。これらの結果から、文レベルの要因が学齢期の吃音に与える影響は限定的であることが示唆された。

発表言語： 英語

359 ポーランドにおける吃音のある子供の行動評価バッテリーの標準化・心理統計学的分析

Normative and psychometric investigation of the Behavior Assessment Battery for Children who Stutter in Poland

【発表者】 Katarzyna Węsierska, Martine Vanryckeghem, Aleksandra Krawczyk 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Katarzyna Węsierska¹, Martine Vanryckeghem², Aleksandra Krawczyk²

【所 属】 1. シレジア大学（ポーランド）、2. セントラルフロリダ大学（米国）

【連絡先】 Katarzyna Węsierska katarzyna.wesierska@us.edu.pl

【要約】 吃音のある子供のための行動評価バッテリー（Behavior Assessment Battery: BAB）は吃音の情緒的、行動的、認知的相関を調査する自己記入式評価である。その下位テストは吃音のある学齢児（CWS）の不安度、特定の発話状況における発話途絶（SSC - ER と SSC - SD）、対処行動の使用（BCL）および子供が自分の発話についてどう考えているかを計測するものである。BAB の文化横断的研究は、鑑別診断ツールとしての有効性を示唆するものであり、その評価項目は治療目的に結びつくものである。このような種類の評価バッテリーはポーランドでは入手不可能であり、そのポーランド版を現在検討中である。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

363 発達吃音と自閉症：非流暢性と言語学的特徴の比較

Developmental Stuttering & Autism: A Comparison of Disfluencies and Linguistic Features

【発表者】 Heather Salvo 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Heather Salvo, Sloane Burgess

【所 属】 ケント州立大学（米国）

【連絡先】 Heather Salvo hsalvo@kent.edu

【要 約】 この研究は未就学児の CWS と自閉症児（CAD）、吃音をもたない一般的に発達した小児（T - CWNS）の非流暢性を対象に、言語表現能力、言語理解能力、意味論的な品詞単位（つまり、内容語と機能語）、構文の場所（つまり、文の最初、中央、後）、文の長さ（MLU）について調査した。上述の変項が CWS、CAD、CND の発話流暢性にどのように左右するかを理解することは、専門家がこれら個人に提供する鑑別評価や治療の向上につながる可能性がある。

発表言語： 英語

365 中国における一般人の吃音とクラタリングに対する態度について

Attitudes Toward Stuttering and Cluttering of the Chinese Public

【発表者】 Yulia O. Filatova

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Yulia O. Filatova¹, An-Ning Song¹, Kenneth O. St. Louis²

【所属】 1. モスクワ教育大学(ロシア) 2. ウェストバージニア大学モーガンタウン (米国)

【連絡先】 Yulia O. Filatova - yofilatova@yandex.ru

【要 約】

この研究は中国の数多くの地域やロシアのモスクワに住む 200 人以上の中国人の吃音、クラタリングに対する態度を比較した。回答者は簡体字中国語に翻訳された人間の特性に関する世論調査—クラタリング (POSHA - CI) と、人間の特性に関する世論調査—吃音 (POSHA - S) のオンライン版を記入した。9 か国を対象にした過去の研究を裏付けるように、若い中国人の成人たちは吃音よりもクラタリングに対する肯定的態度が低かった。更に、流暢性障害をもつ知人のいる回答者は、吃音、クラタリングともにそのような経験をもたない者よりもより肯定的態度を持っていた。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

367 吃音のある子どもの保護者の因果関係の位置づけ

Locus of causality of parents of children who stutter

【発表者】 Min Young Kim, Kyungjae Lee

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Min Young Kim, Kyungjae Lee

【所 属】 大邱カトリック大学 (韓国)

【連絡先】 Kyungjae Lee - kjlee0119@cu.ac.kr

【要 約】

親は、吃音のある子供の治療において重要な役割を果たす。さらに、治療方法を変更するということは、治療の進歩の重要な指標である。オリジン&パウンスケールは、吃音を抱える成人の特性の敏感な指標になる。本研究では、オリジン&パウンスケールを用いて吃音の有る親子と無い親子の違いがあるか、このような治療方法の特徴に差があるかどうかを検証する。

発表言語: 英語

369 吃音測定の信頼性：データの同時回収と個別回収との違い

The Reliability of Stuttering Measurements: Collecting Data Simultaneously Versus Individually

【発表者】 Jason H. Davidow, Robin L. Edge

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Jason H. Davidow¹, Robin L. Edge²

【所 属】 1. フォフストラ大学 (米国)、2. ジャクソンビル大学 (米国)

【連絡先】 Jason H. Davidow - jason.davidow@hofstra.edu

【要 約】

本研究は、吃音測定システム (SMS) により訓練を受けた大学院生の評価者内信頼性と評価者間信頼性を決定することを目的とした。SMS プログラムは利用者に吃音音節、音節の総数、発話の自然さのデータを同時に収集することを教える。さらに、個別に変数を収集することは SMS システムを介して訓練を受けた学生の信頼性を高めるかを決定することを目的とした。62 名の大学院生が参加し、一つのグループでは発話された全ての音節、吃音の生じた音節、発話の自然さを SMS ソフトウェアを使って同時に収集し、別のグループは各動画を複数回見て、閲覧するたびに単一の変数を収集した。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

376 吃音のある成人とない成人間の語彙検索とストーリーリテリング

Lexical retrieval and story retelling in adults who do and do not stutter

【発表者】 Erica Lescht, Nan Bernstein Ratner

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Erica Lescht¹, Melissa Stockbridge², Nan Bernstein Ratner²

【所 属】 1. ミシガン州立大学 (米国)、2. メリーランド大学 (米国)

【連絡先】 Erica Lescht elescht@msu.edu

【要 約】

研究は吃音のある成人 (AWS) と吃音のない成人 (AWNS) 間で言語的および記憶における差があることを示唆している。この研究では、口頭及び筆記での AWS の記憶および認知記憶検索、語彙検索力についてさらに調査した。両群で認知および記憶における差はみられなかった。両群での唯一の有意な差は、語の流暢性 (語彙検索力) に関してであった。標準化された語彙知識と語の流暢性は AWNS においては、筆記ストーリーの評価項目とより強力な関連があったが、AWS ではそのような関連は見られなかった。AWNS では、語彙知識は正確度と関連があった。所見は AWS における語彙アクセスと検索に差がある可能性を示唆している。

発表言語： 英語

378 適応効果：実質的長さでタイミング間隔が発話速度に与える影響

Adaptation Effect: Impact of Material Length and Timing Intervals on Speech Rate

【発表者】 Ying-Chiao Tsao 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Ying-Chiao Tsao

【所 属】 カリフォルニア州立大学(米国)

【連絡先】 Ying-Chiao Tsao ytsao@fullerton.edu

【要 約】

この研究の目的は、10人の流暢な話者と10人の流暢でない話者の発話における、実質的な長さ（文、段落、VS. 一節）、タイミングの間隔（15、70、300秒）、そして条件（時間制限の有無）が適応効果に帰結する発話速度に与える影響を比較対照することである。一元分散分析は有意な調音速度の上昇（ $F(2, 57) = 4.714, p=0.013$ ）と停止頻度の下降（ $F(2, 57) = 241.362, p=0.000$ ）を示したが、実質的な長さは適応に影響を与えることが示唆された。研究所見は鑑別診療をする上で適応効果を導く臨床的に実行可能なプロトコールを作成する合理的根拠を与えるものである。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

382 クラタリングにおけるコミュニケーション効果の知覚的研究

A perceptual study of communication effectiveness in cluttering

【発表者】 Emily Gurtizen, Katrina Giacumbo, Kathleen Scaler Scott, Jessica Kisenwether

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Emily Gurtizen, Katrina Giacumbo, Kathleen Scaler Scott, Jessica Kisenwether

【所 属】 ミザリコーディア大学(米国)

【連絡先】 Kathleen Scaler Scott kscott@misericordia.edu

【要 約】

当研究の目的は、クラタリングのある成人と対照群の発話において、言い直しが聞き手の発話の知覚に及ぼす影響を同定することである。対象言語を母国語とする聞き手60人が、クラタリングのある成人と対照群によって録音されたモノローグ（独白）の聞き取り易さを5つの項目において評価した。聞き手は、録音内容より覚えている詳細を記録した。結果、クラタリングのある群の聞き易さの知覚的評価は対照群に対し有意に低く、覚えていたモノローグの詳細も有意に少なかった。今後の研究上の意義を考察する。

発表言語： 英語

385 SSI : これは本当に吃音を測定する最善のツールなのか？

SSI - Is it really the best tool we' ve got to measure stuttering?

【発表者】 Kirsten Howells, Cliff Baluyot 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Kirsten Howells¹, Cliff Baluyot¹, Hilda Sønsterud^{1,2}

【所 属】 1. Statped (ノルウェー)、2. オスロ大学 (ノルウェー)

【連絡先】 Cliff Baluyot cliff.baluyot@statped.no

【要 約】

SSI (吃音重症度目録) などの吃音重症度測定は、その限定の認識にも拘らず、臨床的必要性を評価したり、研究結果を示したりするのに用いられることが多い。文献の再検討および 21 人の吃音のある成人を対象にしたより大きな治療研究の中で SSI - 4 プロトコールを使った我々の研究に基づき、SSI を臨床や研究の場で使い続けることに對し疑問を投げかけ、代用ツールや方法論がより適切であるのではないかと示唆する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

392 アセトアミノフェンの情動的痛みと吃音脱感作に対する影響

The effects of acetaminophen on emotional pain and stuttering desensitization

【発表者】 Greg Snyder 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Greg Snyder, Meliah Grant

【所 属】 ミシシッピ大学 (米国)

【連絡先】 Greg Snyder gsnyder@olemiss.edu

【要約】

吃音の研究は遺伝的および神経学的起源を明らかにするが、主要な治療は行動・運動管理に継続的に注目している。吃音治療の成功の指標の研究に当たり、「社会的痛み」の脱感作化と軽減は、治療効果の中心的な理念であることが多い。その傍らで、アセトアミノフェンのような薬剤が効果的に「社会的痛み」を管理できることが分かった。我々の研究は吃音に関連する「社会的痛み」の管理の臨床応用を調査し、痛みを管理することで治療効果の迅速化と向上を図ろうというものである。この研究は「社会的痛み」と吃音の認知的不協和に對しアセトアミノフェンが与える影響を測定する。データ収集は現在進行中であり、初期の所見と傾向を検討する。

発表言語: 英語

404 吃音のある生徒への合理的配慮

Reasonable Accommodations for Teenagers Who Stutter

【発表者】川合 紀宗 (Norimune Kawai) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月 14 日(土) 【発表時間】15 : 00-16 : 00

【演 者】Norimune Kawai

【所 属】広島大学 (日本)

【連絡先】Norimune Kawai nkawai@hiroshima-u.ac.jp

【要 約】

本研究は、吃音のある生徒のニーズを調査し、学級担任によって提供される必要のある指導支援の在り方について提案するものである。本研究には 31名の吃音のある生徒が参加した。これらの参加者には、ブロック、口頭発表の困難、自己紹介の苦手さなどの困難があったが、吃音について学級担任に相談した経験のある者は約59.6%に留まった。しかし、学級担任に相談した経験の無い参加者についても、もし学級担任に吃音の基礎知識があれば、相談したいと考えていた。本発表では、その他、学級担任が吃音のある生徒に対して実施可能な支援について、当事者の声を基に提案する。

発表言語： 英語

414 吃音のある成人のストレス下における希望と対処法

Hope and coping styles under stress among adults who stutter

【発表者】 Afnan Darawshe-Bakrey 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Afnan Darawshe-Bakrey, Nitza Katz-Bernstein, Ruth Ezrati

【所 属】 テルアビブ大学 (イスラエル)

【連絡先】 Afnan Darawshe-Bakrey Afnanbakry@gmail.com

【要 約】

この研究では吃音者における「希望」の感覚を調査する。この研究の目的は、希望と、ストレスのかかる日常的状況やコミュニケーション・ストレスへの対処との関連を明らかにすることである。この研究の所見は、参加者の対処法の問題志向性が高い時、対話場面での対処法の親近度も高くなることを示した。さらに、希望の度合いが増すと、問題志向的対処の度合いも増す。よって、治癒的介入において「希望」の感覚を植え付けることに集中することが重要であると我々は結論付ける。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

419 行動評価バッテリー：ギリシア語話者で吃音のある学齢児の規範的・包括的研究

Behavior Assessment Battery: Normative and comparative study of Greek-speaking school-age children who stutter.

【発表者】 Martine Vanryckeghem 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Katerina Ntourou¹, George Fourlas², Dimitris Marousos³, Maria Paphiti⁴, Martine Vanryckeghem⁵

【所 属】 1. オクラホマ大学保健科学センター (米国)、2. 吃音治療研究センター (ギリシャ)、3. Eugene Legein センター (ギリシャ)、4. トウルク大学 (フィンランド)、5. セントラルフロリダ大学 (米国)

【連絡先】 Katerina Ntourou katerina-ntourou@ouhsc.edu

【要 約】 この研究の目的は二つある。(a) 吃音のある学齢児 (CWS) の吃音の多次元的な様相を評価する 4 つの試験からなる行動評価バッテリー (BAB; Brutten & Vanryckeghem, 2007) をギリシア人の CWS に対して採用すること (b) それを使って、CWS の情緒的、行動的、認知的自己報告書が年齢と性別を一致させた吃音のない児 (CWNS) のものと異なるかを調べた。データはギリシアとキプロス在住の 68 名のギリシア語話者の CWS と 68 名のギリシア語話者の CWNS から収集された。データ解析は現在進行中であり、2018 年 7 月前には完了の予定である。

発表言語: 英語

420 吃音の発症と進展における因子としての気質：スペインの標本からのデータ

Temperament as a factor in onset and development of stuttering: data from a Spanish sample

【発表者】 Alicia Fernandez-Zuñiga

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Alicia Fernandez-Zuñiga^{1,2}, Francisco Cabello-Luque³, Vanesa Valero-Gómez³, Virginia Montero Parras¹

【所 属】 1. 言語発達研究所（スペイン）、2. オートノーマ大学（スペインマドリード）、3. ムルシア大学（スペイン）

【連絡先】 Alicia Fernandez-Zuñiga afzuniga@ild.es

【要約】 この研究は吃音のある児（CWS）と定型発達の児（CWNS）は、気質要因および個人的な気質尺度に差はあるのかを究明することを目的としている。アメリカやオランダなどの国々からの既存の研究はあるが、スペイン人を対象にした研究はこれが最初である。気質はCBQを用いて評価され、データはCWSとCWNSが低い快得点と肯定的な情動性において異なることを示した。だが、サンプルサイズと年齢一致に関する限界がこの所見を左右した可能性はある。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

422 ウクライナにおけるサマーキャンププログラムへの集中集団吃音セラピーの導入

Incorporating intensive group stuttering treatment into an existing summer camp program in Ukraine

【発表者】 Kim Sabourin

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土)

【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Kim Sabourin, Roman Marchuk

【所 属】 テンプル大学（米国）

【連絡先】 Kim Sabourin sabourin@temple.edu

【要 約】

アメリカでは吃音のある児を対象にサマーキャンププログラムで集中治療を行ってきている。その活動の一部として、子どもと保護者のための教育、脱感作を促す活動、こどもたちにコミュニケーションにおいて自分で選択するという力を身につけさせること、などがある。また中には、聞き手の負の反応、からかいやいじめについても取り扱うものもある。このポスター発表は、国際的セラピーデリバリーモデルとして、ウクライナで、日常の集団療法を既存のサマーキャンプ・プログラムの一部として行った様子を概観する。

発表言語： 英語

424 ある非流暢性は別の非流暢性よりも好まれるか？

典型的に流暢な話者の神経学的・心理心理物理学的または調査による反応

Are certain dysfluencies preferred over others? Neurological, psychophysical, and surveyed responses of typically fluent speakers.

【発表者】 Glen Tellis, Cara Imbalzano, D' manda Price, Elizabeth Heinmiller, Jordan Seprosky, Cari Tellis

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日（土） 【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Glen Tellis¹, Cara Imbalzano¹, D' manda Price¹, Elizabeth Heinmiller¹, Jordan Seprosky¹, Cari Tellis¹, Rickson Mesquita², Sergio L. Novi Jr.², Arjun Yodh³

【所属】 1 ミザリコーディア大学（米国） 2. カンピナス大学（ブラジル） 3. ペンシルバニア大学（米国）

【連絡先】 Glen Tellis gtellis@misericordia.edu

【要約】

この研究の目的は標準的に流暢な話者が、異なる種類の非流暢性（語の部分の繰り返し、引き伸ばし、ブロック）で口ごもる人々の動画を見て、皮質的反応、心理物理学的反応、調査による反応を究明することである。この研究では機能的近赤外分光法を使って皮質のヘモグロビン濃度を計測した。同時に、自律神経システムの反応で生理学的変化を測定した。調査を実施し、それぞれの非流暢性に対する被験者の感想を評価した。暫定結果はどの非流暢性が好まれるかについて、皮質的反応、心理物理学的反応、調査による反応と、すべてのデータに相関関係が見られた。ブロックが最も好まれない非流暢性であることが分かった。

発表言語： 英語

426 吃音のある成人における左弓状束の異方性減少 -白質線維追跡による

Fractional anisotropy decreases in the left arcuate fasciculus in people who stutter: A tractography study

【発表者】 安 啓一 (Keiichi Yasu)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土)

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Keiichi Yasu¹, Rongna A², Naomi Sakai², Koichi Mori²

【所属】 1. 筑波技術大学 (日本) 2. 国立障害者リハビリテーションセンター (日本)

【連絡先】 Keiichi Yasu keiichi.yasu@gmail.com

【要約】

吃音のある者では発話と言語に関連する脳部位をつなぐ左弓状束の異方性比率

(fractional anisotropy: FA) が低い (Sommer, et al., 2002)。本研究では Yasu et al. 2016 のデータに対し AFQ (Yeatman et al., 2012) による白質線維追跡を行った。その結果、吃音のある者において有意な白質の FA 上昇が右弓状束中央に見られた。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

428 吃音のある成人が用いる語彙および音韻方略: 視標追跡研究

Lexical and Phonological Strategies Used by Adults Who Stutter: An Eye Tracking Study

【発表者】 Kristin M. Pelczarski

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土)

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Kristin M. Pelczarski

【所属】 カンザス州立大学 (日本)

【連絡先】 Kristin M. Pelczarski kpelczar@ksu.edu

【要約】

吃音のある成人 (AWS) は非語の課題 (実際にはない言葉による課題) を遂行するのが困難であるが、同じ課題に有意味語 (実際にある言葉) が使われると吃音のない成人 (AWNS) と同等の課題遂行力を示すという報告がいくつかある。この視標追跡研究は、AWS が補完的語彙アクセス方略を使って、脆弱な音韻体系を支えているかどうかを調査するものである。視標追跡と視覚世界パラダイムを用いて、発話と読解を成り立たせている基礎的な認知プロセスを計測することができ、これを用いることで、語彙アクセス方略と音韻方略の双方を追跡することに成功している。

発表言語: 英語

434 吃音のある子供とない子供間における語彙の多様性の神経相関

Neural correlates of lexical diversity in children who do and do not stutter

【発表者】 Erica Lescht, Gregory J. Spray, Chelsea Johnson

【会 場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Erica Lescht¹, Gregory J. Spray¹, Chelsea Johnson¹, Emily O. Garnett¹,
Ho Ming Chow², Soo-Eun Chang¹

【所 属】 1. ミシガン州立大学 (米国)、2. ヌムール小児病院 (米国)

【連絡先】 Gregory J. Spray spraygre@msu.edu

【要 約】

過去の研究所見では、吃音のある児 (CWS) は流暢な小児に比べ語彙のアクセスにおける障害を呈示することが指摘されている。この研究では CWS と流暢な対照群 (CWNS) 間の語彙の多様性の基盤となる神経相関を調べる。更に、このような語彙の多様性の神経相関が我々の CWS 群内において持続 (CWS - Per) か回復 (CWS - Rec) かを予測するものであるかどうかを調査する。所見は CWS における微妙な言語処理の違いへの理解につながり、同時に後の持続や回復を予測しうる。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

437 訓練を受けていないアラブ人の聞き手による発話の自然性の知覚

Perception of speech naturalness by untrained Arab listeners

【発表者】 Maisa A. Haj-Tas 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月14日(土) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Maisa A. Haj-Tas

【所 属】 ヨルダン大学

【連絡先】 Maisa Atef Haj-Tas m.hajtas@ju.edu.jo

【要 約】

この研究の目的はアラブ語を母国語とし、訓練を受けていない聞き手によって知覚された吃音のある人とクラタリングのある人の発話の自然さを調査することである。この研究の結果は、発話流暢性障害をもつアラブ人に携わる臨床家にとって興味を引くものかもしれない。さらに、結果は多文化集団に携わっている臨床家や研究者にとっても興味を引くものかもしれない。

発表言語: 英語

451 吃音は耳から入ってくる特徴だけではない：吃音の描画

Stuttering is more than what you hear- Drawings of Stuttering

【発表者】 Darija Hercigonja Salamonj, Ana Rendulić 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Darija Hercigonja Salamonj, Ana Rendulić

【所 属】 SUVAG 総合病院 (クロアチア)

【連絡先】 Ana Rendulić rendulic.ana@gmail.com

【要 約】

ヴェルボトナル法によれば、コミュニケーションとは個人および対人反応に染みついているものであり、情動を認知から切り離すことはできない。吃音の多次元的な性質はよく認識されているが、吃音当事者が自身と吃音との関係を探究することも治療における重要な要素の 1 つである。関連情報は、標準的および非標準的評価ツールで取得することができる。SUVAG Polyclinic の目標は、各小児に最適な療法を同定することである。ある小児にとっては、言語療法士 (SLP) との対話において絵を描くことが極めて重要なツールとなりうる。絵を描くことで、吃音のある児と SLP は吃音に対する信念、感情、態度を探究することができる。

発表言語： 英語

464 吃音のある人における Liebowitz 社交不安尺度日本語版の因子構造

Factor structure of the Japanese version of Liebowitz Social Anxiety Scale in people who stutter

【発表者】 灰谷 知純 (Tomosumi Haitani) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Tomosumi Haitani¹, Naomi Sakai¹, Koichi Mori¹, Tomohito Hojyo¹, A-Rong-Na Hohchahar²

【所 属】 1. 国立障害者リハビリテーションセンター (日本)、2. 日本学術振興会

【連絡先】 Tomosumi Haitani haitani-tomosumi@rehab.go.jp

【要 約】

吃音のある人は高い社交不安を示すことが知られている。日本での吃音のある人における Liebowitz social anxiety scale (LSAS) の恐怖の下位尺度に対して因子分析を行った結果、先行研究の社交不安障害患者、及びその他の不安障害患者の因子構造とは異なることが示された。「電話」および「発話を伴わない行為」の因子が吃音のある人で新しく抽出され、「電話」因子の得点が最も高く、「発話を伴わない行為」因子の得点が最も低かった

発表言語： 英語

493 アフリカが目覚めるには

Africa waking up

【発表者】 Joseph Nsubuga 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 14 日 (土) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Joseph Nsubuga

【所 属】 国際吃音者連盟、ウガンダイージー・スピーク協会

【連絡先】 Joseph Nsubuga nsubugaj2003@gmail.com

【要 約】

この発表ではウガンダのような広く画一的な社会における吃音の認識が、魔女によって引き起こされる状態から、科学的に認められる症候群または障害というように時間をかけて変化したことに注目する。しかし、多くの発展途上国では、言語療法士はほぼいないか皆無で、吃音の分野における専門家はいない。よって、個人や吃音のある人のための国立組織は、多くのアフリカ諸国の内部で吃音の認知度を高め、彼らの権利擁護を広める上で不可欠である。そのような個人や組織は情報、支援のため国際共同体へ接触する必要がある。

発表言語： 英語

国際医療福祉大学大学院

2019年度 募集
大学院生

保健医療学専攻
言語聴覚分野

- 修士課程／2年 取得できる学位・資格：修士（言語聴覚学）
- 博士課程／3年 取得できる学位・資格：博士（言語聴覚学）

社会人が学びやすい3つの特長

- 1 東京赤坂・大田原・成田・小田原・熱海・福岡・大川に7つのキャンパスを設置
- 2 第一人者の講義を複数のキャンパスで同時に受講できる「同時双方向遠隔授業システム」
- 3 多くの授業を平日夕方以降と土曜日に開講。
eラーニング科目の拡充、休暇期間のスクーリングなど

修士課程は、大卒者に限らず、短大・専門学校を卒業した満22歳以上の方も受験可能です。
※出願資格審査あり（国家資格保持等の条件を満たしている必要があります）

■お問い合わせ

東京赤坂キャンパス入試事務局
TEL: 03-5574-3903
FAX: 03-5574-3901
メール: akasaka-nyushi@iuhw.ac.jp

9/8+ 大学院
進学説明会
(オープンキャンパス)

学生募集要項は次のいずれかの方法でご請求ください。

メール akasaka-nyushi@iuhw.ac.jp ホームページ 国際医療福祉大学大学院



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

「イラストでわかる」
特別支援教育サポート事典
子どもの困ったに対応する99の事例 笹森洋樹【編著】
指導・支援の実践をイラストで紹介。放課後、保護者対応までサポート！
●3200円＋税

「ことばを育てるワークシート」
ことばを育てるワークシート
「ことば」の使い方を、繰り返し書いて、無理なく身につけていきます。
●1800円＋税

「私はかんもくガール」
私はかんもくガール
しゃべりたいのにしゃべれない
場面緘黙症のなんかおかしい日常
描く「ミツエッセイ」！
●1300円＋税

「コロロメンソッドで学ぶ」
コロロメンソッドで学ぶ
コロロ発達療育センター【編著】
●12800円＋税

「私はかんもくガール」
私はかんもくガール
しゃべりたいのにしゃべれない
場面緘黙症のなんかおかしい日常
描く「ミツエッセイ」！
●1300円＋税

「私はかんもくガール」
私はかんもくガール
しゃべりたいのにしゃべれない
場面緘黙症のなんかおかしい日常
描く「ミツエッセイ」！
●1300円＋税

合同出版

東京都千代田区神田神保町1-44
TEL03(3294)3507 FAX03(3294)3509
www.godo-shuppan.co.jp/

7/17(火) ポストコンgressワークショップに著者来日！

クラタリング [早口言語症]

大会
先行
販売

特徴・診断・治療の最新知見

森浩一・宮本昌子【監訳】
イヴォンヌ・ヴァンザーレン イザベラ・K・レイチェル【著】
●B5判

この1冊でわかる、クラタリング（早口言語症）の全て！
欧米で古くから研究されているクラタリングは、単なる早口とは異なり、発話が不明瞭になったり意味不明になったりして通じなくなってしまう障害である。本書は、クラタリングの本質となる病態のモデルを提示し、そこから診断と鑑別と治療の正しい手順と方法について、具体的・詳細に論じたものである。

60分のDVD付

新刊



成人吃音とともに

文章と写真と映像で、吃音を考える
北川敬一【著】
●A5判／本体3200円＋税

あとがきの「100名の成人吃音の方々の写真」と付録の「成人吃音8名のインタビュー映像」は、保護者や先生にも好評。
長澤泰子氏（日本吃音・流暢性障害学会理事長）推薦！

自分で試す 吃音の発声・発音練習帳

安田菜穂・吉澤健太郎【著】
●A5判／本体1600円＋税

練習で話し方を変える

一人で試す34の「練習課題」と日常生活で試す12の「応用課題」、そして20の「吃音Q&A」によって、吃音の理解を深め、余分な力を抜いたゆっくりな話し方を日常の困る場面で使えるようにするための書。

余分な力を抜いたゆっくりな話し方を練習するためのコツ

- ① 自分の話し方の特徴に「気づく」こと
- ② これまでの話し方と少し違う話し方を「試す」こと
- ③ 新しい話し方を習慣化するために「続ける」こと

心理・医療・教育の視点から学ぶ

吃音臨床入門講座

早坂菊子・菊池良和・小林宏明【著】
●B5判／本体1900円＋税

専門家3人のコラボによる独自性あふれる吃音入門書

吃音の問題について、心理、医療、教育という点からそれぞれの専門家が講義したものをまとめたテキスト。臨床経験豊富な著者による知識と知見は、吃音当事者と社会をつなぐかけ橋となる専門家、保護者にとって、適切なサポートへと導く足掛かりとなるであろう。





4 環境調整法と流暢性形成法のアプローチで改善傾向を認めた幼児吃音の一例

Effectiveness of the combined approach of DCM and Fluency Shaping Therapy for a preschool child who stutters

【発表者】高橋 望 (Nozomi Takahashi)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日(日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】高橋 望¹ (Nozomi Takahashi) 前新 直志² (Naoshi Maeara) 新美 成二¹ (Seiji Nimi)

【所 属】1. 国際医療福祉大学言語聴覚センター 2. 国際医療福祉大学

【連絡先】takahashin@iuhw.ac.jp

【要 約】

今回、幼児吃音に環境調整法と流暢性形成法を実施し吃音が改善傾向を示した一例の経過を報告する。対象は、発達に遅れを認めない、初診時年齢3歳1ヶ月の男児である。流暢な発話の獲得を目的に週1回、二つのプログラムを実施した。本児との直接的な関わり方として、楽な発話モデルを意識し、母親とも統一を図った。その結果、吃音は改善傾向にあり、この二つのプログラムは、一定の効果をもたらしたことが考えられる。

発表言語: 英語



9 吃音カードゲーム

The card game of stuttering.

【発表者】細尾 哲也 (Tetsuya Hosoo)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日 (日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】細尾 哲也 (Tetsuya Hosoo)

【所 属】大阪結言友会

【連絡先】

【要 約】

吃音カードゲームを実際にやりながら、このゲームの交流の可能性を考える

発表言語: 英語

【ポスター発表】

20 3歳代における吃音の現状 —徳島県における3歳児健診の結果に基づく検討—

A consideration of stuttering based on results of health examinations of 3-year-olds

【発表者】竹山 孝明 (Takaaki Takeyama)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日 (日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】竹山 孝明 (Takaaki Takeyama) 青木 俊仁 (Toshihito Aoki) 伊藤 美幸 (Miyuki Ito)

笠井 新一郎 (Shinichiro Kasai) 宇高 二良 (Jiro Udaka)

【所 属】宇高耳鼻咽喉科医院

【連絡先】

【要 約】

徳島県での3歳児健診結果を基に、3歳代の吃音の現状を検討した。

受検児530名のうち、吃音疑い児は24名であった。発吃年齢は3歳代が最多で、中核症状は繰り返す、引き伸ばし、ブロックの順で多かった。また吃音疑い児の1/3は親の気づきが無く、約8割が構音や言語などの問題を併存していた。

以上より、3歳代に健診で微軽度の吃音症状も可能な限り把握し、他の問題の有無と併せ総合的に評価し、早期支援に繋げることが重要である。

発表言語: 英語

21 吃音者の就労支援活動から見てくる課題：支援事例を通して

Employment support activities of people who stutter: cases of support

【発表者】宮脇 愛実 (Manami Miyawaki) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日（日） 【発表時間】15:00-16:00

【演 者】宮脇 愛実¹ (Manami Miyawaki) 飯村 大智^{2,3} (Daichi Iimura)

【所 属】1. NPO 法人どーもわーく 2. ういーすたプロジェクト 3. 富家病院

【連絡先】miyawaki@domo-work.com

【要 約】

就職・就労は吃音者の悩みの大きい場面の一つである。本発表では、我々の経験した就労支援の事例を数例述べ、結果と今後の課題について考察を行う。事例は吃音のカミングアウト、電話対応の苦手さによる就労の支障や心理的影響、就職活動の練習など、異なる支援を求めており、事例に応じた支援の検討が必要であった。その上で、キャリアカウンセラーや言語聴覚士など各分野の専門家との連携や情報共有が課題として示唆された。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

26 アクセントが吃音成起に及ぼす影響 -吃音頻度別検討-

The effect of pitch-accent on the occurrence of stuttering

【発表者】新発田 健太郎 (Kentaro Shibata) 【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日（日） 【発表時間】15:00-16:00

【演 者】新発田 健太郎¹ (Kentaro Shibata) 本田 裕治² (Yuji Honda) 前新 直志³ (Naoshi Maebara)

【所 属】1. 社会医療法人大和会東大和病院 2. 王子生協病院 3. 国際医療福祉大学

【連絡先】sibatakenta@gmail.com

【要 約】

本研究では日本語のアクセントが吃音生起に及ぼす影響を検討した。対象は発達性吃音(吃音)のある成人20名とした。対象者の吃音頻度を測定し、アクセントの位置(1音節目・2音節目)の異なる2音節の単語を用いて音読課題を実施した。結果は吃音頻度が高値の群で、1音節目にアクセントのある語で有意に吃音が生じやすかった。吃音が重度の者にとって日本語のアクセント調節が吃音を生起させる可能性が示唆された。

発表言語： 英語

28 医療機関受診の成人吃音者の ASD 傾向及び ADHD 傾向と社交不安の関係

The relationship between developmental disorders and social anxiety in adults seeking treatment for stuttering

【発表者】 吉澤 健太郎 (Kentarou Yoshizawa) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 秦 若菜^{1,2} (Wakana Hata) 吉澤 健太郎² (Kentarou Yoshizawa) 安田 菜穂² (Nao Yusada) 原由紀 (Yuki Hara) 雪本 由美² (Yumi Yukimoto) 村上 健¹ (Takeshi Murakami) 福田 倫也^{1,2} (Michinari Fukada) 石坂 郁代¹ (Ikuyo Ishizaka) 堀口 利之¹ (Satoshi Horiguchi)

【所 属】 1. 北里大学大学院医療系研究科 2. 北里大学 3. 北里大学東病院

【連絡先】 yosizawa@kitasato-u.ac.jp

【要 約】

発達障害のある成人では自閉症スペクトラム障害 (ASD) 及び注意欠如多動性障害 (ADHD) と社交不安症 (SAD) に相関を示す報告がある。医療機関受診の成人吃音者に質問紙検査 (AQ-J, CAARS, LSAS-J) を実施し、ASD 傾向と SAD 傾向、ADHD 傾向と SAD 傾向の関係を検討した。ASD 傾向、ADHD 傾向、SAD 傾向を示す症例が存在し、ASD 傾向及び ADHD 傾向は SAD 傾向と一定の相関を示した。

発表言語: 英語

31 全ての吃音の子どもたちがより良く生活するために、私の考えたこと。

What we can do to help children understand more about stuttering

【発表者】 石垣 信子 (Nobuko Ishigaki) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 石垣 信子¹ (Nobuko Ishigaki) , 竹内 裕子² (Takeuchi Yuko)

【所 属】 1. 吃音の子供を持つ母親 2. 所属なし

【連絡先】 gurica@nifty.com

【要 約】

吃音の子を持つ母親が、吃音のことをもっとより多くの人に知ってもらうために、シンプルな言葉とイラストで吃音について綴った小さな冊子を発表します。また、英語をはじめ外国語で翻訳したものもご紹介します。実際に冊子を配った反響や活用方法についてもご報告します。

発表言語: 英語

35 不安と吃音 ―対面発話と電話による差異―

Anxiety and Stuttering: Differences in speech between face-to-face and telephone communication

【発表者】 槇本 義正 (Yoshimasa Makimoto)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日 (日)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 槇本 義正¹(Yoshimasa Makimoto) 本間 孝信²(Takanobu Honma) 今泉 敏³(Satoshi Imaizumi)

【所 属】 1. 吃音のある人の話し方研究会 2. 広島言友会 3. 県立広島大学

【連絡先】

【要 約】

発話不安が吃音を増強するかどうかを検証するため、吃症状の有無の2群で、電話場面と対面場面で図形説明課題を行った。心理的指標 (STAI による状態不安)、生理的指標 (皮膚電導度 (EDA)) を計測し、吃音頻度と非流暢度との関係を解析した。結果、吃音頻度の上昇にも軽減にも関連する主成分が EDA に含まれていること、状態不安が高い電話場面での EDA 上昇は吃音頻度の上昇に、状態不安が低い対面場面での EDA 上昇は非流暢度の減少に関連することが示された。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

37 姿勢や身体の使い方による吃音対処法の実践と、交流の場創設の試み

The practice of dealing with stuttering through posture, and establishment of a community

【発表者】 後藤 哲也 (Tetsuya Goto)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日 (日)

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 後藤 哲也 (Tetsuya Goto)

【所 属】 社会福祉法人新宿区障害者福祉協会

【連絡先】 ttykm2967@gmail.com

【要 約】

吃音の簡易的な対処法として、姿勢や身体の使い方やコントロールに着目した結果と、理学療法士・言語聴覚士など専門職による指導・支援を実施し、当事者間でもより建設的に相談や気軽に参加できる、定期的な交流の場を併せて創設する。

姿勢からの対処アプローチでは、一過性の様相は見られていない。吃音に対する当事者の自己理解を深める場としたい。

発表言語: 英語

45 国際吃音啓発の日 in japan

International stuttering enlightenment day in Japan

【発表者】 青山 誠 (Makoto Aoyama) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日 (日) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 青山 誠 (Makoto Aoyama)

【所 属】 NPO 法人 千葉言友会

【連絡先】 m.a.k.okisaradu@gmail.com

【要 約】

国際吃音者連盟・国際流暢性学会などによって、1998年に、国際吃音理解啓発の日（英語、International Stuttering Awareness Day、略称、ISAD）が定められ、20年を迎えるにあたり、我が国日本の啓発活動を紹介したい。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

46 東北地方における吃音当事者の課題と支援ニーズ：青年期当事者の語りの分析

Issues and support needs of PWS in Tohoku District: Analysis of narratives of adolescent people

【発表者】 森 弥生 (Yayoi Mori) 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日 (日) 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 森 弥生 (Yayoi Mori) 日高 友郎 (Tomoo Hidaka), 福島 哲仁 (Tetsuhito Fukushima)

【所 属】 福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座

【連絡先】 y-mori@fmu.ac.jp

【要 約】

吃音当事者は、発達に応じて様々な問題に直面する。東北地方に唯一存在する宮城言友会において、当事者の視点から発達段階に応じた支援策を見出すことを目的とし、青年期の吃音当事者8名へインタビュー調査を行った。現在までの吃音にまつわる経験から希求する支援を語ってもらい、今後の東北地方における吃音問題に対する方策について考察する。インタビュー内容は、対象者に同意を得て逐語録を作成し、質的な分析を行った。

発表言語： 英語

49 卒業式での「呼びかけ」を吃らないでしたいと来室した男子児童への指導

Treatment for a student who wants to give his valedictory speech without stuttering at his graduation ceremony

【発表者】梅村 正俊 (Masatoshi Umemura)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日(日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】梅村 正俊 (Masatoshi Umemura)

【所 属】山形言語臨床教育相談室

【連絡先】

【要 約】

卒業を3か月後に控え、吃らないで卒業式での「呼びかけ」をしたいと来室した6学年の男子飛鳥君(仮名)に対して、①共調同時音読法による系統的な音読指導 ②「語に対する恐れ=Wf」に配慮した音読指導を実施した。また、卒業式1週間前に、③「呼びかけ」の台詞の練習を行った。通算10回の通室だったが、卒業式当日、担任や保護者の心配をよそに堂々と吃らずに自分の台詞を言うことができた。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

50 国語の授業を楽しむ～セルフヘルプグループでのアドボガシーの視点から～

Enjoy Japanese classes: From the viewpoint of advocacy in the self-help group

【発表者】高井 小織 (Saori Takai) 脇 豊明 (Toyoaki Waki)

【会 場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月15日(日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】高井小織¹ (Saori Takai) 脇 豊明² (Toyoaki Waki)

【所 属】1. 京都光華女子大学 2. 京都言語障害研究会・すたっと京都

【連絡先】高井小織 s-takai@mail.koka.ac.jp

【要 約】

成人吃音者のセルフヘルプグループ「すたっと京都」では、8年前から月例会の中で年に一度「国語の授業」をテーマにしている。難聴学級での教科指導の経験をもつ講師が、古文・文学・文法・説明文など幅広い教材を基に、対象者が主体的に取り組む授業を展開してきた。吃音を意識することで味わえなかった国語の授業の意義を追体験することを通して、セルフアドボカシーと関係性の中で豊かな言語活動の展開について論じる。

発表言語: 英語

56 3歳児における吃音の有無とそれに関わる要因

Incidence of stuttering and related factors at the three-year-old checkup in Japan

【発表者】酒井 奈緒美 (Naomi Sakai)

【会場】会議運営事務室5 & 6

【発表日】7月15日(日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】酒井 奈緒美¹ (Naomi Sakai) 小林 宏明² (Hiroaki Kobayashi) 原 由紀³ (Yuki Hara)

宮本 昌子⁴ (Shoko Miyamoto) 菊池 良和⁵ (Yoshikazu Kikuchi) 須藤 大輔⁶ (Daisuke Sudo)

【所 属】1. 国立障害者リハビリテーションセンター 2. 金沢大学 3. 北里大学 4. 筑波大学 5. 九州大学病院 6. 自治医科大学

【連絡先】sakai-naomi@rehab.go.jp

【要 約】

幼児吃音の疫学データが海外では多く報告されているものの、日本の報告はほとんどない。我々は日本において3歳児を対象とした大規模な疫学調査を行った。質問紙調査と直接評価あるいは聞き取り調査の結果、吃音の有症率は4.7% (95%CI 3.7-5.8%) であった。過去に吃音があり健診時には消失していた60名も加えた累積有症率は8.2%であった。ロジスティック回帰分析の結果、家族歴と発達上の問題の有無が吃音の有無に影響を与えることが示された。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

59 リッカム・プログラムと構音訓練を並行して行った幼児吃音の1例

A case of early childhood stuttering in which the Lidcombe Program and articulation therapy were conducted in parallel

【発表者】角田 航平 (Kohei Kakuta)

【会場】会議運営事務室5 & 6

【発表日】7月15日(日)

【発表時間】15:00-16:00

【演 者】角田 航平¹ (Kohei Kakuta) 坂田 善政² (Yoshimasa Sakata) 北條 具仁¹ (Tomohito

Houjyo) 石川 浩太郎³ (Kotaro Ishikawa)

【所 属】1. 国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション部言語聴覚療法 2 国立障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科 3. 国立障害者リハビリテーションセンター病院耳鼻咽喉科

【連絡先】kakuta-kouhei@rehab.go.jp

【要 約】

機能性構音障害を合併した幼児吃音の1例に対して、リッカム・プログラム(以下、LP)と構音訓練を並行して実施した。本症例においては、吃音、構音ともに良好な経過を得たことから、それぞれの訓練が吃音症状の改善、構音の獲得に有効であったと考える。また、毎回の訓練においてLPと構音訓練の時間を明確に分けたことで、本児がそれぞれの課題意図を適切に理解でき、それが円滑なプログラムの実施に繋がったと考えられた。

発表言語: 英語

320 脳膿瘍により誘発された神経性吃音症の脳外科的処置により回復した一症例

Recovery of brain abscess-induced stuttering after neurosurgical intervention.

【発表者】 Daisuke Sudo 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Daisuke Sudo¹, Youichi Doutake², Hidenori Yokota¹, Eiju Watanabe¹

【所 属】 1. 自治医科大学、2. 鹿児島大学病院（日本）

【連絡先】 Daisuke Sudo m05049ds@jichi.ac.jp

【要 約】

60歳男性、痙攣を主訴に救急搬送。入院後、抗痙攣薬開始翌日より吃音様の言語障害を発症。発話以外に明らかな神経学的異常所見は認めず、頭部MRIで左前頭葉に背外側前頭前皮質、前頭眼野、運動前野、補足運動野に及ぶ脳膿瘍が指摘される。緊急開頭ドレナージ及び抗生剤投与で吃音症状は消失。今症例は病変部位が早期に特定されかつ治療効果も短期的に判定可能だったという点で、過去の神経因性吃音症とは大きく異なる特徴を有する。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

322 キャンパーダウンプログラム と包括的吃音プログラムの後ろ向き比較研究：ISTAR の体験

A retrospective comparison of the Camperdown Program and the Comprehensive Stuttering Program: The ISTAR experience

【発表者】 Torrey Loucks 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Jessica Harasym, Holly Lomheim, Torrey Loucks

【所 属】 アルバータ大学吃音治療研究所（カナダ）

【連絡先】 Torrey Loucks loucks@ualberta.ca

【要約】

成人の吃音治療の選択肢は拡大したものの、治療の推薦は証拠に基づいてなされなくてはならない。キャンパーダウンプログラムは、包括的吃音プログラムを代替するものとして、最近、吃音治療研究所で提供されている。各プログラム12人の患者からの治療結果の後ろ向き評価が吃音の症候、重症度評価、調査票結果に基づき報告される。双方の治療法は、同じ治療期間において流暢性と重症度の臨床的に有意な上昇と関連した。別の治療よりもある治療を推薦する原理的手法は依然として必要ではあるものの、ランダム化前向き研究をはじめとした更なる研究が必要である。

発表言語： 英語

329 吃音のある未就学児の認知的負荷のかかる会話課題における感情反応と制御

Emotional reactivity and regulation of preschool-age children who stutter during a cognitively-stressful speaking task.

【発表者】 Heather Salvo 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Heather Salvo, Hayley S. Arnold

【所 属】 ケント州立大学（米国）

【連絡先】 Heather Salvo hsalvo@kent.edu

【要 約】

この研究は自律神経系の反応に基づく感情的反応と制御が、吃音のある未就学児（CWS）と吃音のない未就学児（CWNS）との間で異なるかどうかを調べた。自律神経系の活動を制御課題と認知的負荷のかかる「昼と夜」という発話課題の間に記録した。認知言語的負荷時の感情が吃音とどう関連があるのかを理解することは、このような発現機序が効率的且つ正確に話す必要がある際にどれほど日常生活のコミュニケーションにおいてうまくいっているかに関するよりよい理解を提供するものである。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

333 吃音セラピーにおける作業連携の重要性：クライアントの認識

The importance of the working alliance in stuttering therapy: Client perceptions.

【発表者】 Hilda Sønsterud, Kirsten Howells 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Hilda Sønsterud^{1,2}, Kirsten Howells², Margrethe Seeger Halvorsen¹, Kristin Billaud Feragen⁴, David Ward⁵, Melanie Kirmess^{3,6}

【所 属】 1. オスロ大学心理学科、2. Statped 音声障害部門、3. オスロ大学特殊教育学科、4. オスロ大学病院特定疾患センター、5. レディング大学音声研究部門（英国）6. Sunnaas リハビリテーション病院（ノルウェー）

【連絡先】 Hilda Sønsterud - hilda.sonsterud@statped.no

【要 約】 「作業連携」（working alliance）という用語は、吃音とクラタリングの治療における重要な概念である。18人の成人がこの複合的な単一事例介入研究に参加し、作業連携目録（WAI - C）の患者用縮約版と質的な半構造化面接を使うことにより、作業連携の役割をより詳細に調査した。分析ではWAI-Cと質的データセットの間に強い相関が示された。患者—臨床家関係の潜在的な影響は、患者に積極的な患者—臨床家関係を求めることを助言する声明を発表したポッドキャストの StutterTalk®をはじめ、吃音やクラタリングをもつ人々の共同体内部で認められている。

発表言語：英語

334 発話の統語的複雑性が小児の流暢性および非流暢性発話に与える影響

Effects of syntactic complexity of utterances on fluent and disfluent speech behaviors in children

【発表者】 Jayanthi Sasisekaran, Shriya Basu, Cara Donohue

【会 場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Jayanthi Sasisekaran, Shriya Basu, Cara Donohue

【所属】 ミネソタ大学

【連絡先】 Jayanthi Sasisekaran sasis001@umn.edu

【要 約】

7~16 才の 20 人の吃音のある 20 人の吃音のある子供と 22 人の吃音のない子供から得られた会話サンプル（年齢分布 7~16 才）を分析し、関連のありそうな変数（試験時の年齢、発話数、動詞密度）の吃音やその他非流暢性（句反復、句変更）に対して予測しうる影響を調査した。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

339 インドにおける吃音の認知度向上と名誉挽回：わずかな前進

Awareness building and destigmatization of stuttering in India: Baby steps

【発表者】 Pallavi Kelkar 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演 者】 Pallavi Kelkar^{1,2,3,4}, Prathiksha Vaidyanathan¹

【所 属】 1. ルビー・ホール・クリニック（インド・マハーラーシュトラ州プネー） 2. ジュピター病院（インド・プネー） 3. オーチド学校（インド・マハーラーシュトラ州プネー） 4. 高齢者施設（インド）

【連絡先】 Pallavi Kelkar - howto.utterperfection@gmail.com

【要 約】

「吃音者」から「吃音を有する人々」（PWS）に用語が変わったものの、吃音に随伴するステレオタイプは依然として存在する。本論文では、脱スティグマ化の試みと将来におけるそのような取り組みのニーズ分析を概説する。短い調査質問票に対する正しい応答の頻度を吃音の認知度開発プログラムの前後で比較、分析した。予備試験への正しい反応は、性別、職業、PWS との接触などの変数を通じて比較した。所見はインドにおける吃音に関する情報を広める頻度の向上と方法の変化の必要性を明らかにした。

発表言語： 英語

350 吃音と多言語使用：実践的意義

Stuttering and multilingualism: practical implications

【発表者】 Glenn Aerts 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Glenn Aerts

【所 属】 アルテベルデ大学（ベルギー）

【連絡先】 Glenn Aerts glenn.aerts@arteveldehs.be

【要 約】

現在、多言語環境で育つ小児が増えている。よって、吃音症をもつ多言語を話す小児（および大人）に遭遇する機会も増えている。近年、吃音、多言語使用に関して独立の研究が行われているが、その双方の組み合わせを研究したものは少ない。本発表では、多言語を話す小児の吃音罹患率に関する近年の文献の概括を行い、近年の研究の欠点と吃音の発現における多言語環境がもたらしうる影響について検討する。また、評価と介入の実践的な意義について助言を与え、今後の研究への提案を行う。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

357 吃音のある学齢児とその保護者が周囲に求めるニーズに関する調査

An investigation of children who stutter's and parents' needs toward their environment

【発表者】 Osamu Ishida 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演 者】 Osamu Ishida¹, Daichi Iimura^{2,3,4}

【所属】 1. 筑波大学、2. 富家病院、3. ういーすたプロジェクト、4. NPO 法人どーもわーく

【連絡先】 Osamu Ishida - oishida.iworld@gmail.com

【要約】

本研究では、吃音児 27 名とその保護者を対象に、周囲への要望に関する質問紙調査を実施した。その結果、吃音児は友達・担任・家族のいずれの相手でも「言葉が出るまで待つ」「普通に接する」対応を求めており、低学年に比べて中・高学年で周囲への要望が増え、多様化していた。また、保護者は学校に求める対応として、学級の児童に向けて吃音の理解啓発を促すなどの環境調整や合理的配慮を求めていることが示唆された。

発表言語： 英語

383 クラタリングは QOL と学校生活にどれほど影響を及ぼすか？質的研究

How does cluttering affect quality of life and school experiences? A qualitative study.

【発表者】 Ane Hestmann Melle, Karoline Hoff

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日）

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Solveig Klock¹, Malin Celine Ødegård¹, Ane Hestmann Melle², Karoline Hoff²

【所属】 1. オスロ大学（ノルウェー）、2. Statped（ノルウェー）

【連絡先】 Karoline Hoff Karoline.hoff@statped.no

【要約】

我々の経験では、クラタリングについて知られていないことが数多くある。クラタリングに関する限られた量の研究を考えると、クラタリングがどのようにクラタリングと共に生きる人々の QOL と学校経験を左右しているかを調査する必要性が分かる。この研究の目的はクラタリングのある人々は自分の QOL が何らかの影響を受けていると感じているかを調査することである。この研究では、質的解釈の手法を採用する。研究データを生成する主要な方法として半構造化面接が採用された。データ収集は現在進行中であり、所見は 2018 年 5 月には得られている予定である。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

387 吃音のある成人カンナダ語話者の音韻符号化とワーキングメモリー

Phonological Encoding and Working Memory in Kannada speaking Adults who Stutter

【発表者】 Nirmal Sugathan

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日）

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Nirmal Sugathan, Santosh Maruthy

【所属】 全インド言語聴覚研究所

【連絡先】 Nirmal Sugathan nrmlsugathan@gmail.com

【要約】

この研究では吃音のある成人（AWS）11 人と吃音のない成人 11 人の音韻符号化（PE）とワーキングメモリー（WM）について調査した（M= 21.7、範囲 = 19~26 才）。2 つの群では、視覚、聴覚的に提示されたごちゃごちゃの単語を意味ある順に並び変える反応時間を比較した。結果は AWS が課題において有意に遅かったことを示した。3 つの音節の長さ（3, 4, 5）を通じて PE と WM の課題で AWS の精度スコアは有意に低かったことも指摘された。所見は PE と WM が AWS において低下していることを示唆した。

発表言語： 英語

388 保護者と吃音のある未就学児における発話速度の減少の効果

The effects of reduced articulation rate on language in caregivers and preschool children who stutter

【発表者】 Jean Sawyer, Heidi M. Harbers

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日）

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Jean Sawyer¹, Heidi M. Harbers¹, Takahisa Nagase²

【所属】 1. イリノイ州立大学（米国）、2. ミッドステイト大学（米国）

【連絡先】 Jean Sawyer jsawyer@ilstu.edu

【要約】

流暢性を促進する、よりゆっくりな発話速度の特徴はまだ同定されていない。17人の未就学児とその養育者に15分間の会話を行ってもらい録画した。その際、養育者は3つのパターンの発話速度で話してもらった。子どもの発話の非流暢性の平均数は、養育者がよりゆっくり話した時が有意に少なかった。子どもの表出言語をいくつかの項目において分析した結果、子どもの言語は大きくは変わっていなかった。養育者がゆっくりした発話速度の場合、子どもは発話数を減らしていた。発話速度がゆっくりになると、養育者の話し方がもっとも変化しており、発話数の減少、発話長の縮小、語彙の多様性の減少が見られた。

発表言語： 英語

393 吃音の開示情報源の違いによる小児の吃音に対する態度への影響

The source of stuttering disclosure, and its effects on attitudes toward pediatric stuttering

【発表者】 Greg Snyder

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日）

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Greg Snyder, Molly Grace Williams

【所属】 ミシシッピ大学（米国）

【連絡先】 Greg Snyder gsnyder@olemiss.edu

【要約】

吃音を開示することの有用性が研究的に明らかになっている一方で、開示の効果に対し吃音のある子どもたちがどのように認識しているかについての研究はほとんどない。この研究では吃音のある12歳の少年が、吃音を開示することについてどのように認識するかを調べた。吃音を開示するのは、話者自身、親、教師であった。研究結果は、話者自身、教師により吃音を開示することは有用であることが支持されたが、必ずしも親による開示は有益ではなかった。臨床的および研究上の意味を考察する。

発表言語： 英語

394 吃音のある未就学児のためのドイツ語版コミュニケーション態度尺度 (KiddyCAT - G) : 心理統計手法による評価

The German Communication Attitude Test for preschool and kindergarten children who stutter (KiddyCAT-G): psychometric properties

【発表者】 Sandra Neumann, Martine Vanryckeghem

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日(日)

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Sandra Neumann¹, Martine Vanryckeghem², Regina Tiefenthaller¹, Christian Rietz³, Prisca Stenneken¹

【所属】 1. ケルン大学(ドイツ)、2. セントラルフロリダ大学(米国)、3. ハイデルベルク大学(ドイツ)

【連絡先】 Sandra Neumann sandra.neumann@uni-koeln.de

【要約】 目的: ドイツ語版の「未就学吃音児のためのコミュニケーション態度尺度」である KiddyCAT - G (KiddyCAT, Vanryckeghem & Brutten 2007) の信頼性と弁別能力を探究し、規範的データを記述すること。方法: 吃音のない児 (CWNS) と吃音のある児 (CWS) に KiddyCAT - G を記入させた。

結果: KiddyCAT - G には内的一貫性と試験 - 再試験の信頼性において高い価値が認められた。CWS は CWNS に比べ有意に高い平均スコアを示した。KiddyCAT - G スコアは性別に影響されなかった。群に関係なく、より若い幼児 (3.0 - 4.6 才) が年上の幼児 (4.7 - 5.11 才) より有意に高い点数を記録した。

発表言語: 英語

400 吃音のある児童のアサーションに関する検討

Investigation on assertion of Japanese children who stutter

【発表者】 見上 昌睦 (Masamutsu Kenjo)

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日(日)

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Masamutsu Kenjo, Junichi Matsuo, Takashi Nakamura

【所属】 福岡教育大学(日本)

【連絡先】 Masamutsu Kenjo mkenjo@fukuoka-edu.ac.jp

【要約】 小学校4年から6年の吃音のある児童52名のアサーションについて、児童用主張性尺度 (ASC) (濱口, 1994) を用い、吃音のない児童301名との比較等を通して検討した。ASC、自己及び他者評定による吃音重症度、吃音の自意識の程度について調査した。ASC得点について、吃音児群と非吃音児群間で一元配置分散分析の結果、有意差はみられなかった。Pearsonの相関係数はASC得点と自己評定による吃音重症度間で高かった。

発表言語: 英語

408 日本の成人吃音外来を訪れた患者における精神疾患と不安障害の併発

Comorbid psychiatric disorder and anxiety symptoms in patients who visited Adult Stuttering Clinic in Japan

【発表者】 S. Y. Kim 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15 日（日） 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 S. Y. Kim, R. Sakuma, N. Sakai, T. Hojo, Y. Sakata, Koichi Mori

【所属】 国立障害者リハビリテーションセンター（日本）

【連絡先】 Soo-Yung Kim kim-sooyung@rehab.go.jp

【要約】

吃音のある人（PWS）は社交不安障害（SAD）を高い割合で併発することが報告されている。不安症状は、うつ病、統合失調症など様々な精神疾患において認められ、自閉症スペクトラム障害（ASD）は高い不安度と併存していることが知られている。一人の小児精神科医が成人吃音外来の診療に立ち会った。吃音のある人の21人（19.1%）にASDが疑われた（N=110）。吃音のあるASD患者は ASD を持たないほかの吃音のある者に比べSADと抑うつで高い得点を示した。PWS における精神医学的および心理学的諸相の研究を行う際には、PWSの中に共存または内在する精神疾患を見極めることが重要である。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

417 単語数や音節数を使用した重み付け吃音様非流暢性重症度

Weighted-SLD Stuttering Severity using Word and Syllable Counts

【発表者】 Chelsea Johnson, Erica Lescht, Gregory J. Spray

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15 日（日） 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Chelsea Johnson, Erica Lescht, Gregory J. Spray, Eun Chang

【所属】 ミシガン大学（米国）

【連絡先】 Chelsea Johnson john3290@msu.edu

【要約】

重み付け吃音様非流暢性（WTSLD）（Ambrose & Yairi, 1999）は、吃音の頻度を定量化するのに使われることが多い。この研究では、音声サンプルの音節数か単語数に基づきWTSLDを計算することで、WTSLD値における有意な差が表れるかについて調査した。暫定結果はWTSLDスコアは単語数が使われるか、音節数が使われるかによって左右されることを示した。この所見は音節数の使用がより精度の高い WTSLD を計算する方法であることを支持するものである。この結果の臨床応用、殊に吃音重症度の評価における応用について検討する。

発表言語： 英語

427 潜在的な流暢性促進技法としての響きの良い声：混合研究法による分析

Resonant Voice as a Potential Fluency Technique: A Mixed-Methods Analysis

【発表者】 Kristin M. Pelczarski, Linda Hoag

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日）

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Kristin M. Pelczarski, Linda Hoag

【所属】 カンザス州立大学（日本）

【連絡先】 Kristin M. Pelczarski kpelczar@ksu.edu

【要約】

このパイロット研究では吃音のある成人（AWS）を対象に吃音音声の表面上の特徴を軽減する手法として響きの良い声（resonant voice）を使う療法の効果について探究した。8 週間の訓練プログラムを終えた後で、参加者は吃音の頻度が減ることが観察され、吃音音声の頻度、緊張、持続の知覚上の軽減が報告された。また、AWS は響きの良い声を使った時の発話は自然に聞こえると報告した。知覚上の流暢性の利点にも拘らず、AWS は治療プログラムが終わった後もこの手法を使用することを決めた。どの治療因子が AWS にとって最も重要であるかをさらに理解するために、参加者のコメントの質的分析を行った。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

436 クラタリングのある青少年と定型発達の青少年が使用する話題維持方略

Topic maintenance strategies used by adolescents who clutter and typical peers

【発表者】 Maisa A. Haj-Tas

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日）

【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Maisa A. Haj-Tas, Sana M. Kamal

【所属】 ヨルダン大学

【連絡先】 Maisa Atef Haj-Tas m.hajtas@ju.edu.jo

【要約】

この研究はクラタリングのある青少年が継続的談話の最中、会話の断絶に対応するために使う話題維持方略を調査することを目的としたものである。この研究は吃音を持つ青少年における実用的なスキル——文献ではほとんど知られていない分野——に関する情報を提供しようとするものである。本研究の所見は、研究者や臨床家が、年代群ごとに異なるクラタリングの特性に関する理解を深める一助となりうるものである。さらに、結果は多文化集団に携わっている臨床家や研究者にとっても興味を引くものかもしれない。

発表言語： 英語

438 吃音のあるバイリンガル児：アメリカの学校に勤務する言語療法士の訓練と認識の実態

Bilingual Children Who Stutter: US School-Based Speech-Language Pathologists' Training and Perceptions

【発表者】 Jennifer B. Watson 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Jennifer B. Watson, Abigail Smalligan

【所属】 テキサスクリスチャン大学（米国）

【連絡先】 Jennifer B. Watson : j.watson@tcu.edu

【要約】

この研究の目的はアメリカの学校の言語療法士がもつ、吃音のあるバイリンガル児を評価、治療する学術的および臨床的な準備と継続教育の適切性に対する認識を調査することであった。さらに、学校に勤務するモノリンガルの言語療法士とバイリンガル言語療法士の、吃音のあるバイリンガル児の治療に対する自信を自己報告に基づき調査した。最後に、バイリンガル児の吃音に関する言語療法士の信念と療法士自身の特性がどのようにこの信念に影響したかについて調査する。オンライン調査の結果は、学術的および臨床的な準備と卒業後の専門的研修において吃音のあるバイリンガル児への治療に対する意識の向上が必要であることを確認するものである。

発表言語： 英語

441 言語的あるいは聴覚的な問題が無くても吃音における運動障害は起こりうるか？

Can motor deficits occur in stuttering without language or auditory problems?

【発表者】 Sarah Vanhoutte 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日（日） 【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Sarah Vanhoutte^{1,2}, Patrick Santens^{2,3}, John Van Borsel²

【所属】 1. アルテベルデ大学アントワープ（ベルギー）、2. アントワープ大学（ベルギー）、3. アントワープ大学病院（ベルギー）

【連絡先】 Sarah Vanhoutte sarah.vanhoutte@arteveldehs.be

【要約】

この研究では、異常な聴覚処理を除く視覚単語認識課題の中で言語領域および運動領域の時間的協調性を評価した。分析は言語処理に差はみられなかったが、30名の流暢な話者と30名の発達性吃音症の成人のデータ比較において、運動処理の顕著な変容が見られた。運動活性のタイミングが変化したのみならず、逆の活性パターンが観察された。全体として、吃音における神経運動の異常は言語や聴覚処理を必要としないように思われる。

発表言語： 英語

444 世界の OASES : 吃音の影響を把握するための国際的な連携

OASES around the world: International Collaborations For Understanding The Impact of Stuttering

【発表者】 J. Scott Yaruss, Seth Tichenor

【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日(日)

【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 J. Scott Yaruss, Seth Tichenor

【所属】 ミシガン州立大学(米国)

【連絡先】 J. Scott Yaruss jsy@msu.edu

【要約】

吃音は全ての言語、文化で起こるコミュニケーション障害であるようだ。吃音は普遍的なものかもしれないが、吃音の経験は個人の言語および文化的背景によって異なりうる。この発表では世界中の数多くの国から収集された OASES (話者の吃音経験の全体的評価: Overall Assessment of the Speaker's Experience of Stuttering) データの結果に基づく話者の吃音経験における差を探究する。吃音者の生の体験に対する我々の理解向上を目的とし、国や文化間で観察された違いについての可能な説明を提供する。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

449 吃音のある児童生徒における情緒および社会的障害とコミュニケーション能力の自己認識

Emotional and social impairment and self perceived communication competence in children and adolescents who stutter

【発表者】 Ana Rendulic 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7月15日(日) 【発表時間】 15:00-16:00

【演者】 Andrea Milevcic Malenica, Ana Rendulic

【所属】 SUVAG総合病院(クロアチア)

【連絡先】 Ana Rendulić rendulic.ana@gmail.com

【要約】 この研究の目的は、吃音を持つ小児と青少年における情緒および社会的障害を評価し、対話能力の自己認識と情緒および社会的障害との関係性を評価することであった。我々の仮説は対話能力の自己認識は情緒および社会的障害と密接に関係しているというものである。対話能力の自己認識を評価するため、我々は自己認識対話尺度(Self-Perceived Communication Scale)を用いた。情緒および社会的障害は5つの特定分野においてBeck Youth Inventories第二版により評価された。全ての使用された目録は自己報告型尺度である。参加者は7~18才までの吃音を持つ小児と青少年であった。

発表言語: 英語

474 行動抑制と吃音の持続

Behavioral Inhibition and Stuttering Persistence

【発表者】 DaHye Choi, Cara Singer, 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Katerina Ntourou¹, DaHye Choi², Cara Singer³, Robin Jones⁴, Tedra Walden⁴, Edward Conture⁴, Elizabeth Oyler DeFranco⁵,

【所属】 1. オクラホマ大学健康科学センター (米国)、2. 南アラバマ大学 (米国)、3. ヴァンダービルト大学 (米国)、4. フルーエンシー・ソリューションズ、5. コロラドスプリングス (米国)

【連絡先】 Katerina Ntourou katerina-ntourou@ouhsc.edu

【要約】

この研究は吃音の持続と行動抑制 (BI) ——馴染みのない・新規の刺激 (人、モノ、社会状況) に対して、控えめで、注意深く、離脱的な反応傾向——との関連を究明する試みである。27 人の未就学吃音児 (10 名は持続、27 名は回復) の親を対象に簡略行動抑制尺度 (Short Behavioral Inhibition Scale : Ntourou, Oyler DeFranco, Conture, & Walden, 2017) と行動スタイル質問票 (Behavioral Style Questionnaire : McDevitt & Carey, 1978) の手法離脱下位尺度を初期の評価時と約 2 年後に実施した。所見では、BI が吃音の持続と関連が見られないものの、BI の低下は吃音回復との関連が見られたことが示された。

発表言語: 英語

【ポスター発表】

486 吃音のある幼児学童が受けるからかい・いじめの検討

Teasing and bullying experiences of children who stutter

【発表者】 Yoshikazu Kikuchi 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日 (日) 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Yoshikazu Kikuchi, Yumi Yamaguchi, Takashi Nakagawa

【所属】 九州大学病院 (日本)

【連絡先】 Yoshikazu Kikuchi kikuci@med.kyushu-u.ac.jp

【要約】

本研究は吃音のある子 (3 歳から 12 歳までの 120 名) に対して、他人に真似されたり、指摘されたり、笑われたりした割合を評価しました。それらの質問に対して、44% の子が話し方について指摘をされました。33% の子が真似され、27% の子が笑われた経験がありました。ほとんどの吃音のある子は、これらの反応を不快に感じていました。吃音のある子にそれらの経験を尋ね、からかい・いじめを予防することが重要だと分かった。

発表言語: 英語



491 スリランカのシンハラ語－英語バイリンガル児の吃音音声特徴の比較

A comparison of stuttering speech characteristics in Sinhala-English bilingual children who stutter in Sri Lanka

【発表者】 Y. M. U. I Yapa 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Y. M. U. I Yapa

【所属】 ケラニア大学（スリランカ）

【連絡先】

【要約】

12～18 才の 8 人の継続バイリンガルと 8 人の同時バイリンガルの合計 16 人の吃音のある子どもがこの研究に参加した。参加者はシンハラ語を優勢言語として話し、英語を非優勢言語として話した。音声サンプルは吃音の認められた語と音節の割合を使って分析した。一般的会話と読解の双方において、L1 に比べ L2 で有意に高い吃音率が認められた。結果は、言語習熟度、言語習得、音韻的複雑性が吃音に影響を及ぼしている可能性があることを示唆した。この研究はシンハラ語と英語の二か国語と吃音を調査した最初の研究の一つである。

発表言語： 英語

【ポスター発表】

495 吃音の重症度とコーピング特性の関連に関する検討

Relationship between severity of stuttering and coping profile

【発表者】 富里 周太（Shuta Tomisato） 【会場】 会議運営事務室 5 & 6

【発表日】 7 月 15 日（日） 【発表時間】 15 : 00-16 : 00

【演者】 Shuta Tomisato^{1,2}, Yasuto Yada^{1,3}, Koichiro Wasano²

【所属】 1. 日本鋼管病院、2. 慶應義塾大学医学部、3. 首都大学東京

【連絡先】 Shuta Tomisato tommie_satoh@yahoo.co.jp

【要約】

吃音がある人を対象に吃音検査と質問紙検査（コミュニケーションの態度：S-24，社交不安障害の重症度：LSAS-J，コーピング特性：BSCP）を施行した。S-24 の点数は、BSCP の「回避・抑制」と弱い正の相関を認め、LSAS-J の点数は BSCP 「積極的問題解決」および「視点の転換」と弱い負の相関を認めた。コーピング特性が、吃音の悩みを深めることと社交不安障害の合併に関連していることが示唆された。

発表言語： 英語

57 世界のなかまっふる

The World friend map

【発表者】南 孝輔 (Takayuki Minami)

【会場】会議運営事務室 5 & 6

【発表日】7月16日 (月)

【発表時間】

【演者】南 孝輔 (Takayuki Minami)

【所属】NP0 法人全国言友会連絡協議会

【連絡先】takayuki.minami.sapporo.shalom7017@y8.dion.ne.jp

【要約】

「なかまっふる」というプログラムはポスターセッションです。参加各国や地域の方々がみんなで作り上げるものです。あなたの国や地域の言友会の現状を、写真や英語の説明入りで教えて下さい。お互いのことを知り、ポスターの前で親好を深めましょう。ポスターの大きさは90cm×120cm、1枚以内で作成してください。大会開催期間中に、ポスター会場前のロビーで、ポスター作成コーナーも設ける予定です。日本からは全ての言友会が参加することを期待しています。

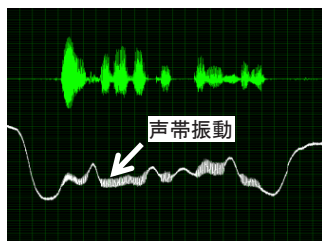
発表言語: 英語と日本語

光電グロトグラフィ(非侵襲型 光電声門図計測装置)



非侵襲で高精度な光電声門図(声門の開閉及び声帯振動)の計測を実現。

- ・声門の開閉・声帯振動を計測可能
- ・非侵襲
- ・専用バンドで装着が容易
- ・計測ソフトウェアもご用意



P-EMG plus (表面筋電図計測装置)



最大5kHzサンプリング&16CH計測可能な表面筋電図計測装置。パソコンとの接続はUSBで、外部入出力機能も搭載。

ワイヤレス筋電センサ



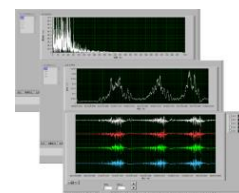
筋電センサと無線機能を一体化させたワイヤレス筋電センサ。

アンプ内蔵小型筋電センサ



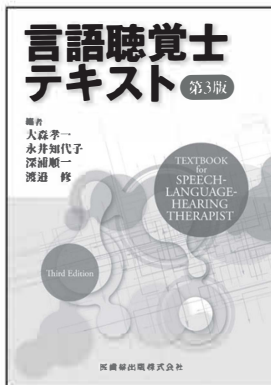
1cm×2mのアンプ内蔵小型筋電センサ。通常の筋電センサでは計測が困難な筋の表面筋電図を記録するのに理想的なセンサ。

筋電解析アプリケーション



最大16chの筋電波形の読込、ARV波形、RMS波形の表示に加えて、周波数分析機能を搭載。

医歯薬出版好評図書のご案内



言語聴覚士 テキスト 第3版

大森孝一・永井知代子
深浦順一・渡邊 修 編

◆B5判 456頁 定価(本体4,200円+税)
◆ISBN978-4-263-26560-4

- 言語聴覚障害学の重要かつ必要不可欠な知識・情報を、各分野の第一人者がわかりやすく解説した定評あるテキスト。
- 第3版では、最新情報を盛り込んで全体を見直し、新たに「病理学」「人口中耳」の項目も追加。



言語治療 ハンドブック

伊藤元信
吉畑博代 編

◆B5判 368頁 定価(本体6,400円+税)
◆ISBN978-4-263-21744-3

- 言語聴覚士に必要な検査や訓練・指導の内容を、具体的かつ詳細に解説した決定版。
- 障害の特性に応じて、臨床の流れ、評価の視点・枠組み、訓練の適否の判断・根拠等を記載し、図や写真、イラストを多用しながらわかりやすくまとめたテキスト。

医歯薬出版株式会社 ☎113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL03-5395-7610
FAX03-5395-7611 <https://www.ishiyaku.co.jp/>

北大路書房

〒603-8303
京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361 FAX 075-431-9393
<http://www.kitaohji.com>

**自閉症スペクトラム障害の子どもの
親となったあなたへ**
—子育ての手引き— L. アダムズ著 川合紀宗・若松昭彦訳 A5・232頁・本体2300円+税 子育てに悩む保護者に向けて、確かな知識と、日々の暮らしの中で実際に役立つアイデアを提供。「行動はメッセージである」との信念のもと、家庭での環境調整、学校との連携、成人期への移行など、具体的に解説。「先輩」保護者の生の声も豊富に紹介。

シリーズ 障害者心理学
心理学と仕事15 太田信夫監修 柿澤敏文編集 A5・184頁・本体2100円+税 視覚障害、聴覚障害、学習障害、注意欠如・多動症、健康障害等、重度・重複障害も含め、障害種別の定義や心理特性、その支援のあり方を詳説。心理職に限らず、医療・保健、教育、福祉等、障害者にかかわる職に就く人へ研究と実践の最前線の知識を提供。現場の実践家が仕事内容も紹介する。

特別支援教育総論

—インクルーシブ時代の理論と実践— 川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰己編著 A5・224頁・本体2200円+税 理念や歴史、社会的・制度的事項など基礎知識をわかりやすく解説。様々な障害を理解し、個別のニーズに応じるためのICTの活用や教育支援計画など、実践的な内容も踏み込み紹介。インクルーシブ教育システムの構築のための新しいスタンダード。

シリーズ 福祉心理学

心理学と仕事14 太田信夫監修 小畑文也編集 A5・152頁・本体2200円+税 被援助者のニーズやその能力、心理的特性を理解して、状況に応じた支援を行うことが必要とされる福祉の現場。被援助者に「共感」し、支援者のメンタルヘルスや燃え尽き、共依存についても扱う。保育・児童福祉・精神障害・就労支援・看護介護の現場から、職業として福祉に携わることを紹介。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事 (全20巻)

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円+税

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |



世界合同会議準備チームは、世界合同会議閉会後の研修行事として、2018年7月17日（火）に、2つのポストコンGRESセミナーを開催致します。

解決志向短期療法：Solution Focused Brief Therapy Workshop

最初にご紹介するのが、国際流暢性学会（IFA）主催のポストコンGRESセミナーで、イギリスのロンドンにあるマイケル・ペイリン吃音センターのアリ・バーケイズ氏とエライン・ケルマン氏（現IFA理事長）による解決志向短期療法（解決志向アプローチ）のセミナーです。この1日のセミナーでは、解決志向短期療法の理論と実践について紹介し、吃音のある子どもや青少年、成人、家族への適用を探ります。解決志向短期療法について学習し、協議し、実践の練習をします。また、ビデオの例を見ながらの学習もします。このセミナーは、英語のみで行われ、日本語の通訳はありませんが、すべての世界合同会議参加者の参加を歓迎いたします。このセミナーは、広島市国際青年会館（世界合同会議が開催される広島国際会議場から徒歩約5分の場所にあります）にて9時半～16時45分まで開催されます。参加費は1人6,500円です。参加費には昼食も含まれています。参加希望者は、世界合同会議の参加登録の際に、併せて参加申し込みをしてください。このワークショップについての詳細は、このリンクをクリックしてPDFファイル（英語のみ）を入手してください（2018 World Congress SFBT post conference workshop.pdf）。このワークショップに参加することで、ASHAの継続教育ポイントを付与できるよう準備を進めています。

クラタリング セミナー：Cluttering Workshop

次に紹介するのが、日本吃音・流暢性障害学会（JSSFD）主催のポストコンGRESセミナーで、イボンヌ・ヴァンザーレン氏とイザベラ・レイチェル氏（「クラタリング：原因と評価および治療（日本語仮訳：学苑社より販売予定）」の著者）が講師としてクラタリング（早口言語症）のセミナーです。

会 場：サテライトキャンパスひろしま（世界合同会議が開催される広島国際会議場から徒歩約10分）

時 間：9時～16時半まで（受付は8時40分開始）

参加費：一般の方は1人4,000円、学生は1人1,000円（JSSFDからの援助があるので、格安です！）

申し込み：参加希望者は、世界合同会議の参加登録の際に、併せて参加申し込みをしてください。

なお、このセミナーだけの参加も可能、大会開催期間中も申し込み可能です。

言 語：日本語話者、英語話者の双方が参加できるように逐次通訳付。

昼 食：サテライトキャンパスひろしま内での飲食は禁止です（飲料は可）。近隣に飲食店が多数あります。

演者より：本ワークショップに参加すれば、クラタリング（早口言語症）と吃音、その他のコミュニケーション障害や学習障害を鑑別することができるようになるでしょう。クラタリングの原因が、言語産出に関わる根本的な神経学的処理および言語的処理によることを説明する予定です。そして、クラタリングの下位分類の理論的根拠に関する分析についても話します。さらに、クラタリング治療の包括的なプログラムについても発表する予定です。このワークショップの間、介入計画や最新の臨床的アプローチを示すために、症例のビデオも紹介します。要約すると、このワークショップは、臨床家のみなさんにクラタリングがもつ多面的な現象の理解を手助けする理論的枠組みを提供するだけでなく、このよく見過ごされ、「誤診されやすい」コミュニケーション障害の診断と管理への臨床的洞察を示し、みなさんの日々の臨床に役立つものにしたいと考えています。

*会場の場所が分からない方は、当日8時30分に広島国際会議場正面入口前に集合してください。一緒に歩いて会場まで行きましょう。

PENTAX
MEDICAL

音響／音声分析システム

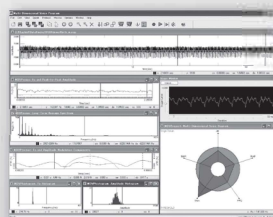
コンピュータスピーチラボ CSL4500

専用ハードウェアにより取り込まれた
高品質な音響／音声信号の分析・編集が可能



オプションソフトウェア

MDVP(マルチディメンショナルボイス・プログラム)
5105、ボイスレンジプロファイル・プログラム4326を
はじめとする多彩なオプションソフトウェアを追加し、
機能を拡張することが可能です。



製造者

PENTAX Medical Company, A Division of PENTAX of America, Inc.
3 Paragon Drive, Montvale, New Jersey 07645-1782 USA

販売者

HOYA株式会社 PENTAX ライフケア事業部 医用機器SBU
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-35-1 ネオ・シティ三鷹13階
TEL.0422-70-3960



本世界合同会議の開催にあたり、多くの皆様に多大なるご協力をいただきました。
我々は、皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。





今回の世界合同会議開催に際し、以下の企業様・団体様・個人様からご芳志を賜りました。
ここに記して感謝の意を表します（順不同）。

渡辺 克典 様

株式会社 にしき堂 様

株式会社ネクサス 様

小澤 恵美 様

九州大学医学部耳鼻咽喉科学講座 様

鈴木 夏枝 様

株式会社トモニー・ネットワーク 様

耳鼻咽喉科 木村医院 様

福原 廣幸 様

NPO法人 どーもわーく 様



科学と吃音コミュニティ：
ことばがつなぐ一つの世界
広島、2018年7月13～16日

